

# 武蔵野市財政援助出資団体在り方検討委員会報告書

武蔵野市

平成 26 年 5 月



はじめに

第五期長期計画において、「財政援助出資団体に関する将来像の検討」が掲げられ、様々な社会状況の変化等を背景に、行政や財政援助出資団体が担うべき役割を精査する時期がきており、財政援助出資団体の整理・統廃合を含めた在り方の検討が必要とされた。そこで平成24年5月に「武蔵野市財政援助出資団体の在り方検討委員会」を庁内に設置し、約2年間かけて財政援助出資団体の在り方について検討を進めてきた。

平成24年度は、各財政援助出資団体の経営状況や事業状況についての調査分析を専門業者に委託し、外部の専門業者からみた各財政援助出資団体の課題と今後の方向性について報告書にまとめた。報告書では、社会状況の変化や市の施策の方向性を踏まえて各財政援助出資団体の事業内容を見直す必要があること、事業見直しの結果、事業規模が小さくなったり、機能が類似したりする財政援助出資団体を統合することなどが提案された。

平成25年度は、市が各財政援助出資団体の課題や見直しの方向性の検討を進めるにあたり、「財政援助出資団体の見直しに関する基本方針」を策定した。基本方針では6つの基本原則を掲げ、既存事業の必要性や提供する組織の在り方などの考え方を整理した。

また、財政援助出資団体や所管課との意見交換も複数回実施し、財政援助出資団体や所管課の考える課題や改革の方向性についても把握しながら、検討を進めた。

具体的な見直しの手法としては、各財政援助出資団体が実施する事業の棚卸しを行い、各事業の公共性やサービス水準、担い手の3つの視点から妥当性を検証し分析を行った。合わせて委託や指定管理、補助といった事業形態についてもあるべき姿を追求した。

以上の検討の結果、財政援助出資団体の将来像について一定の方向性を示すことができた。本報告書はその内容を取りまとめたものである。

今後は、検討結果について市民の意見も聞いた上で、調整計画策定の中で財政援助出資団体の見直しを検討していく。

## 目次

はじめに

I. 総論編.....	1
1. 武蔵野市財政援助出資団体の現状 .....	1
(1) 武蔵野市財政援助出資団体の意義 .....	1
(2) 武蔵野市財政援助出資団体の状況 .....	2
(3) 財政援助出資団体に対するこれまでの取組み .....	3
(4) 財政援助出資団体の見直しの必要性 .....	4
2. 見直しの方法 .....	5
(1) 見直しの基本的考え方 .....	5
(2) 見直しの手順 .....	6
(3) 見直しにあたっての自主事業の取扱い .....	9
3. 武蔵野市財政援助出資団体に関する見直し案の位置づけ及び対象団体 .....	10
(1) 見直し案の位置づけ .....	10
(2) 見直し案の対象団体 .....	11
4. 見直し実現に向けた市の考え方 .....	12
(1) 財援団体への関与に関する考え方 .....	12
(2) 人的関与に関する考え方 .....	13
(3) 財政的関与に関する考え方 .....	14
(4) 指導監督に関する考え方 .....	16
(5) 財援団体の共通課題 .....	20
(6) 推進体制 .....	20
5. 見直し案 結果概要 .....	21
II. 各論 .....	26
各論編の見方 .....	26
1. 一般財団法人 武蔵野市開発公社 .....	32
2. 武蔵野市土地開発公社 .....	38
3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 .....	42
4. 公益財団法人 武蔵野文化事業団 .....	50
5. 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団 .....	56
6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団 .....	62
7. 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会 .....	71
8. 公益財団法人 武蔵野市子ども協会 .....	77
9. 一般財団法人 武蔵野市給食・食育振興財団 .....	83

10. 有限会社 武蔵野交流センター .....	88
11. 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター .....	94
12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会 .....	99
13. 社会福祉法人 武蔵野 .....	107
14. 武蔵野市民防災協会 .....	115
15. 株式会社 エフエムむさしの .....	119
<b>参 考</b> .....	<b>125</b>



## I. 総論編

### 1. 武蔵野市財政援助出資団体の現状

#### (1) 武蔵野市財政援助出資団体の意義

市はこれまで、市が直接実施するよりも効率的・効果的かつ柔軟にその時代に合った公共サービスを提供できるように、財政援助出資団体<sup>1</sup>（以下「財援団体」という。）を積極的に設立し、市が直接実施する行政サービスとの組み合わせで、全国でも先駆的な取組を行い、安定した公共サービスを提供してきた。

市が考える財援団体の意義は、以下のとおりである。

#### 【図表 1】財援団体の意義

- 専門的な公共サービスを継続的・安定的に実施できること。
- 民間の多様な人材・知識・ノウハウを活かし、より効率的・効果的な事業展開が可能であること。
- 民間資金の活用による柔軟な財政運営が可能であること。
- 市と密接に連携しつつ、民間であることの機動性を活かすことで、より質の高い公共サービスを適正に提供できること。

<sup>1</sup> 財政援助出資団体とは、市が出資等を行い、団体の行う業務が市政と極めて密接な関連を有している団体又は市が継続的に財政支出を行っている団体のうち特に指導監督等を要する団体をいう。

## (2) 武蔵野市財政援助出資団体の状況

平成26年4月現在、市の財援団体は、出資団体<sup>2</sup>10団体及び援助団体<sup>3</sup>5団体の計15団体存在する。団体ごとの設立年月は以下のとおりである。

【図表2】市の財援団体の設立年月

団体名称	S40~	S45~	S50~	S55~	S60~	H2~	H7~	H12~	H17~	H22~
1 一般財団法人 武蔵野市開発公社	S43.8~									
2 武蔵野市土地開発公社	S49.5~									
3 公益財団法人 武蔵野市福祉公社	S55.12~									
4 公益財団法人 武蔵野文化事業団	S59.11~									
5 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団	S62.10~									
6 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団	H元.9~									
7 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会	H元.10~									
8 公益財団法人 武蔵野市子ども協会	H4.1~									
9 一般財団法人 武蔵野市給食・食育振興財団	H22.3~									
10 有限会社 武蔵野交流センター(※1)	H13.9~ H24.4~									
11 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター	S53.1~									
12 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会	S37.6~									
13 社会福祉法人 武蔵野	H4.3~									
14 武蔵野市民防災協会(※2)	H5.4~ H22.4~									
15 株式会社 エフエムむさしの(※3)	H6.10~ H24.4~									

(※1) 設立は平成13年9月、財援団体指定は平成24年4月である。

(※2) 設立は平成5年4月、財援団体指定は平成22年4月である。

(※3) 設立は平成6年10月、財援団体指定は平成24年4月である。

市の財援団体数を東京都内の他市と比較すると、他自治体よりも団体数が多いことがわかる。

【図表3】出資団体数の近隣自治体における比較<sup>4</sup>（平成25年4月調査）

八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市
2	2	10	5	1	4	1
調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市
6	7	2	2	3	2	2
国立市	福生市	狛江市	東大和市	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市
2	1	2	1	2	1	1
多摩市	稲城市	羽村市	あきる野市	西東京市		
2	2	2	3	1		

<sup>2</sup> 地方自治法第221条第3項に規定する予算の執行に関する長の調査権を有する団体で別に指定するものをいう。

<sup>3</sup> 市が主導的に設立し、継続して財政援助及び人的援助をしている団体で別に指定するものをいう。

<sup>4</sup> 援助団体の指定基準は各市により異なるため、出資団体での比較とした。

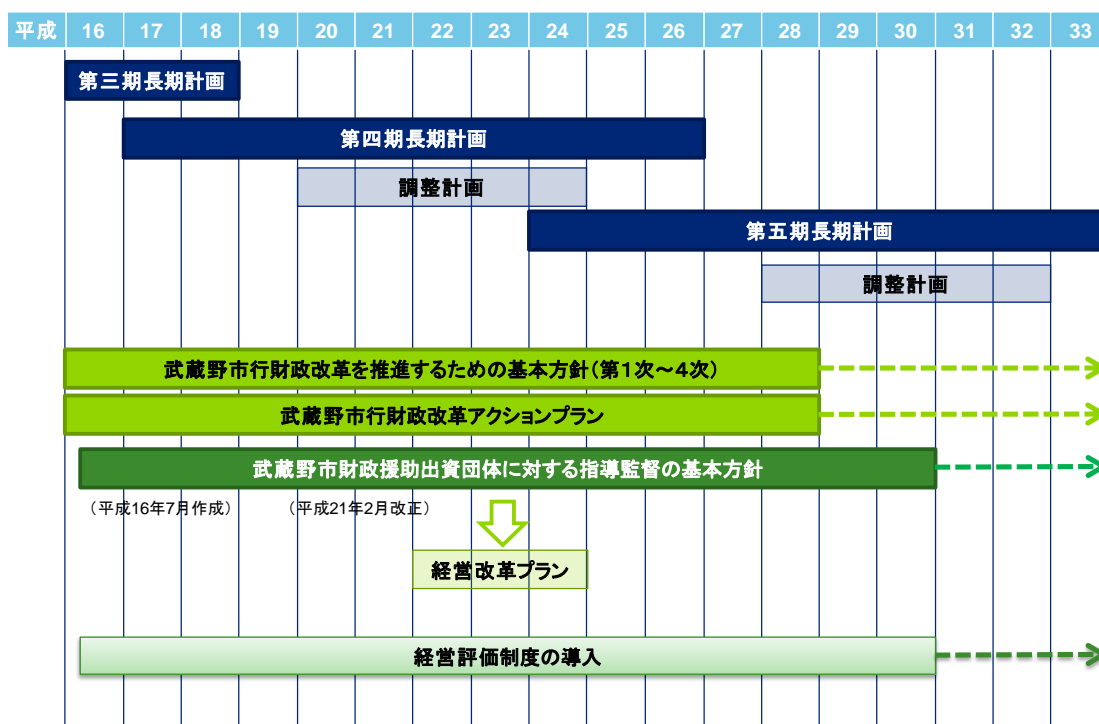


### (3) 財政援助出資団体に対するこれまでの取組み

市は、各団体の更なる自律的経営を促進するため、『武蔵野市財政援助出資団体に対する指導監督の基本方針』（以下、「指導監督の基本方針」という。）（平成16年7月作成、21年2月改正）に基づき指導監督を行うとともに、この方針のもと団体の経営責任を明確にするため経営評価制度を導入し、団体経営の一層の透明性向上を図ってきた。あわせて、団体ごとに実行計画となる「経営改革プラン」（平成22年～24年度）を改定し、各団体もそれに基づき経営改善に努力してきた。

また、平成15年に指定管理者制度が導入された際には、市もこの制度に沿い「指定管理者制度導入に係る基本方針」を策定して、財援団体のいくつかを公共施設の指定管理者に指定してきたほか、平成20年に公益法人制度改革が行われた際には、市も財援団体に対し、積極的に公益法人化を目指すことを指導するなど、財援団体に対する数多くの取組みを実行し、一定の成果を挙げてきた。

【図表4】 財援団体に対するこれまでの取組み経過



#### (4) 財政援助出資団体の見直しの必要性

近年では、介護保険制度の導入や規制緩和などにより民間事業者の参入機会が広がり、公共サービスの提供に民間セクター等<sup>5</sup>の参入が進んでいる。また市民ニーズや価値観の多様化・複雑化が進むとともに、市民活動が活発化し、公共サービスの担い手となる等、従前の「公共」の概念が変化してきており、公共サービスの担い手を新たな視点も含め検討する必要性が生じてきている。また、財援団体が実施してきた個々のサービスも社会情勢の変化を踏まえて、サービス水準や主体の再編・選択等の視点から検証が必要となっている。さらに、今後少子高齢化が進展する中で市の財政も厳しさを増してくるため、より効率的・効果的な公共サービスの提供が必要となってきている。

このような現状を踏まえ、以下の点から市において財援団体の見直しを図ることとし、新たな時代に対応した効率的かつ効果的な行政サービスを、様々な主体と連携して実施していくこととする。

#### 【図表 5】 財援団体の見直しの視点

- 行政セクター<sup>6</sup>が取り組むべき課題を選別し、最も効率的で効果的な主体を選択することで、サービスの向上を目指すとともに経費の最小化を図る。
- 市が委託・補助している事業についても、行政セクターが行うべきかという観点や市の関与の方法を見直すことで団体の自立化や地域社会の活性化を図る。
- 財政援助出資団体がより効率的・効果的なサービス提供を行う主体となるため、団体の存立意義に立ち返るとともに、現在の社会情勢から求められる機能を再確認し、団体が担うべき役割と団体の在り方について検討・整理を行う。

<sup>5</sup> 財援団体を除く民間企業、NPO、市民団体等をいう。

<sup>6</sup> 民間セクター等の対となる概念であり、市及び財援団体をいう。

## 2. 見直しの方法

### (1) 見直しの基本的考え方

財援団体の見直しにあたっては、『武蔵野市財政援助出資団体の見直しに関する基本方針』に従い、以下の考えを基本原則として検討する。

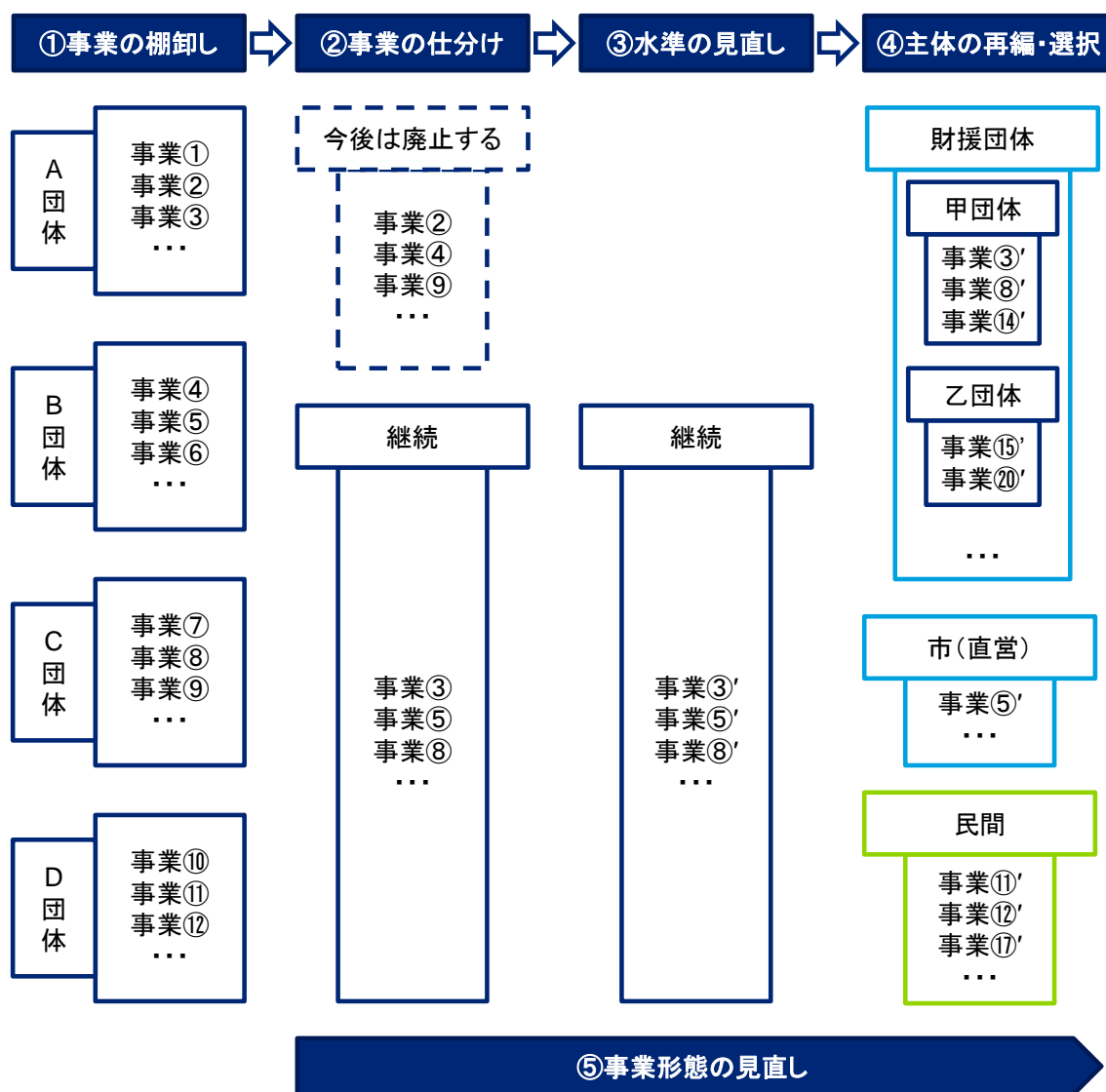
【図表 6】 財援団体見直しにあたっての基本原則

1	財援団体が現に行っている公共サービスのうち、公共課題の解決に繋がらないものは廃止する。
2	財援団体の実施している業務を市からの受託事業、指定管理事業、補助事業、自主事業等に明確に分類し、財援団体が市から受託、補助を受けて実施している公共サービスについて、民間セクター等でも実施可能で効率的、効果的に実施できるものは民間セクター等に移行する。
3	既存事業の見直しにより、事業規模が縮小した団体や、機能が類似・関連している団体は、他の団体と統合することも視野に入れる。原則として新たな財援団体の設立は行わない。
4	公共施設の指定管理者は、原則として競争原理のもと担い手を選択するが、これまでの経緯や成果を検証し、財援団体が行うことが市民サービスに不可欠な場合は引き続き財援団体を指定する。
5	財援団体の自立性やガバナンスを高めるため、市は人的支援・財政的支援などの関与を必要最小限にするとともに、出資者・援助者としての監督手法を改めて検討する。
6	財援団体はその設立時期、規模により、まだ揺籃期のものから自立度の高い成熟期のものまで発展段階は様々であり、その状況にふさわしい改革を行っていく。

## (2) 見直しの手順

財援団体の見直しは、『武蔵野市財政援助出資団体の見直しに関する基本方針』に従い、以下の手順で実施する。

【図表 7】 見直しの手順



### ① 事業の棚卸し

各団体の事業の棚卸しを実施し、事業の形態別分類（「受託事業」「指定管理事業」「補助事業」及び「自主事業」）を行う。

この後、各団体及び所管部課は、『武蔵野市 財政援助出資団体の事業に関する調査シート』の作成を行い、その内容についてヒアリングを実施する。

② 事業の仕分け

事業の継続・廃止の方向性について、公共課題の解決に繋がっているか否かを基準とした以下の視点をもとにして、仕分けを行う。

【図表 8】 公共課題の解決との関連性についての視点

視点	公共課題解決との関連性が高い	公共課題解決との関連性が低い
生活環境水準の確保	生活環境水準の確保に貢献している	生活環境水準の確保に貢献していない、あるいは、関連していない
サービスの対価性	サービス対価の徴収が困難、あるいは徴収できない	サービス対価の徴収は困難でない、あるいは、徴収している
市民生活の擁護・不安解消	市民の生命、財産、権利の擁護、あるいは市民の不安の解消に貢献している	市民生活の擁護・不安解消に貢献していない、あるいは、関連していない
リスク	財務リスクや事業リスクが相対的に高い(民間事業者では負担できない程度)	財務リスクや事業リスクが相対的に低い(民間事業者でも負担できる程度)
弱者支援	社会的・経済的弱者を対象とし、生活安定やセーフティネット整備を行っている	弱者支援を必ずしも目的としない

③ 水準の見直し

②で今後も事業を継続することが適切であると判断された事業については、今後、事業をどの程度のサービス水準で実施することが適切であるかについて、以下の視点をもとに見直しを行う。

【図表 9】 サービス水準の見直しの視点

視点	サービス水準の見直しが必要と考えられる場合
市民ニーズ	市民ニーズの低下が起こっている、あるいは潜在的なニーズが高まっている
事業の公平性	対象者への事業の公平性が確保されていない
近隣自治体のサービス水準	近隣自治体の同種サービスと比較して、特段の事情なくサービス水準が著しく高い、あるいは低い
サービス過不足	質・量の面で、サービスに著しい過不足がある
費用対効果	投入コストに見合った成果があがっていない、あるいは成果が限定的である
事業を縮小、休止、廃止した場合の市民生活への影響	事業を縮小、休止、廃止した場合でも、市民活動への影響が小さい、あるいは、限定的である

④ 主体の再編・選択

③の見直しを実施後、今後それぞれの事業を、どのような主体が実施することが適切であるか、以下の視点をもとに主体の再編・選択を実施する。

【図表 10】 主体の再編・選択にあたっての視点

視点	主体の再編・整理にあたっての考え方	主体	
		行政	民間
法規制	主体を行政セクターに限定する法規制上の制限がある	●	×
	主体を行政セクターに限定する法規制上の制限はない	▲	●
採算性	民間セクターが実施可能な程度の事業採算性がある	▲	●
	民間セクターが実施困難なほど事業採算性がない	●	×
事業リスク	民間セクターが許容できる程度の事業リスクである	▲	●
	民間セクターが許容できないほど事業リスクが高い	●	×

また、主体として行政セクターが適切とされた場合、市が直営で実施すべきか、財援団体が実施すべきかについても、あわせて判断を行う。判断にあたっては1. (1)の【図表】財援団体の意義をもとに、次の事業の性質を基準とする。

財援団体間で重複する事業がある場合は、事業目的や他事業との関連性等に照らして適切な主体を判断する。

【図表 11】 財援団体が主体になるべきと考えられる事業の性質

- サービスに専門性を要するもの。
- サービスに継続性・安定性が求められるもの。
- 民間の多様な人材・知識・ノウハウを活かすことで、事業の効率・効果がより高まると考えられるもの。
- 民間資金の活用により、柔軟に事業の効率・効果を高められるもの。

⑤ 事業形態の見直し

②③④の検討とあわせ、事業形態の見直しを行う。なお、これまで一部で曖昧であった「受託事業」「指定管理事業」「補助事業」「自主事業」については、以下の考え方をもとに、事業の内容、性質にあった形態への見直しを図ることとする。

【図表 12】事業形態についての市の考え方

事業形態	概要【市の方針】
市直営	市が自ら実施
委託	受託者に委ねたほうが効率的 実施主体は市、受託者は履行責任を負う
指定管理	公の施設について指定管理者が一括管理したほうが効率的、効果的 市が指定する内容のほかに事業者の自由度あり
補助	事業者が主体的に実施 市がその公益性を認め助成 【運営補助から事業補助へ転換していく】
	運営補助 補助事業者自体に助成 【自立できるようになれば縮小・撤退】
	事業補助 事業に対して助成 【基本的に市が必要性を認める限り継続】
自主	事業者が責任を持って自ら実施 【事業そのものに対しては、原則として市は助成等も、指導監督等も行わない】

(3) 見直しにあたっての自主事業の取扱い

財援団体が実施する自主事業については、各事業者が自らの責任で実施し、原則的として市は助成等も指導監督等も行わない方針であるが、委託事業等と自主事業が相互に関連してサービスを提供しているケースも多いことから、今回の見直し案の策定にあたっては、自主事業も上記(2)見直しの手順の①～⑤のプロセスに沿った検討を実施し、事業見直しにあたっての提言を行っている。

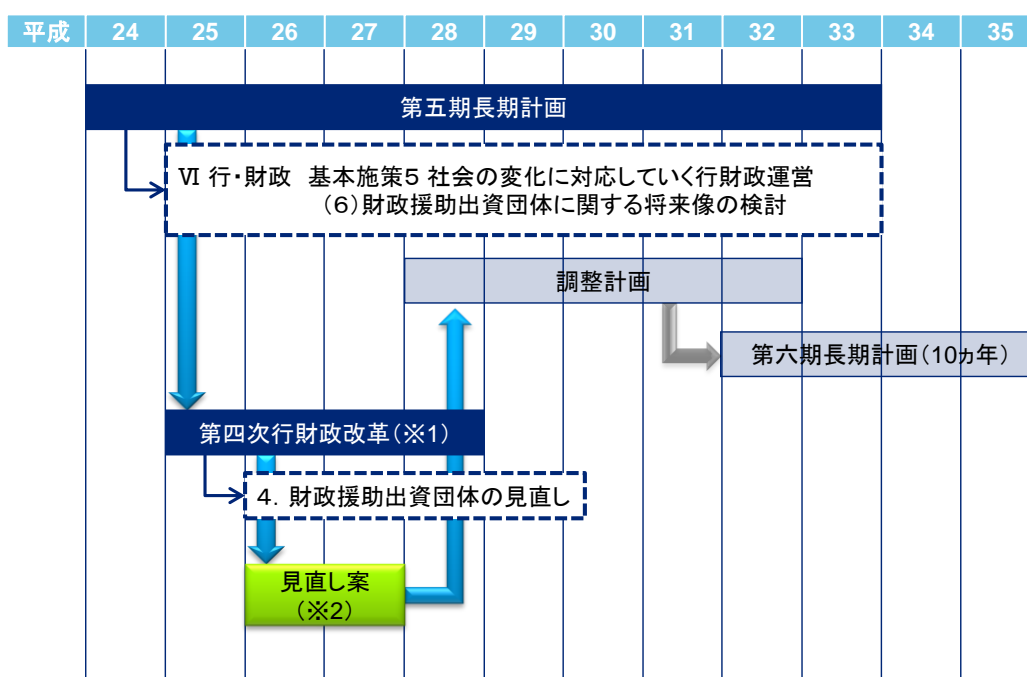
### 3. 武蔵野市財政援助出資団体に関する見直し案の位置づけ及び対象団体

#### (1) 見直し案の位置づけ

本見直し案は、「武蔵野市第五期長期計画（平成 24 年度～平成 33 年度）」を受けて作成された「第四次武蔵野市行財政改革を推進するための基本方針及び武蔵野市行財政改革アクションプラン（平成 25 年度～平成 28 年度）」に基づいて作成されるものである。

本見直し案の内容を踏まえて具体的な見直しの検討を行い、団体の統廃合等の主要な事項は平成 28 年度を開始年度とする調整計画において議論し、段階的に見直しを実施することとする。

【図表 13】 本見直し案の他の計画との関係



(※1)第四次武蔵野市行財政改革を推進するための基本方針及び武蔵野市行財政改革アクションプラン

(※2)武蔵野市財政援助出資団体見直し計画



## (2) 見直し案の対象団体

見直し案は、『武蔵野市財政援助出資団体指導事務要綱細則』（以下、「事務要綱細則」という。）別表に出資団体及び援助団体として掲載されている全 15 団体を対象とする。

【図表 14】対象団体一覧（平成 26 年 4 月時点）

団体名	所管部課	本文中の略称
出資団体		
1 一般財団法人 武蔵野市開発公社	都市整備部 まちづくり推進課	市開発公社
2 武蔵野市土地開発公社	都市整備部 用地課	土地開発公社
3 公益財団法人 武蔵野市福祉公社	健康福祉部 高齢者支援課	福祉公社
4 公益財団法人 武蔵野文化事業団	市民部 市民活動推進課	文化事業団
5 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団	健康福祉部 健康課	健康事業団
6 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団	教育部 生涯学習スポーツ課	生涯学習事業団
7 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会	市民部 交流事業課	交流協会
8 公益財団法人 武蔵野市子ども協会	子ども家庭部 子ども政策課	子ども協会
9 一般財団法人 武蔵野市給食・食育振興財団	教育部 教育支援課	給食財団
10 有限会社 武蔵野交流センター	市民部 生活経済課	交流センター
援助団体		
11 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター	健康福祉部 高齢者支援課	シルバー
12 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会	健康福祉部 地域支援課	市民社協
13 社会福祉法人 武蔵野	健康福祉部 障害者福祉課	社福武蔵野
14 武蔵野市民防災協会	防災安全部 防災課	防災協会
15 株式会社 エフエムむさしの	総合政策部 秘書広報課	エフエム

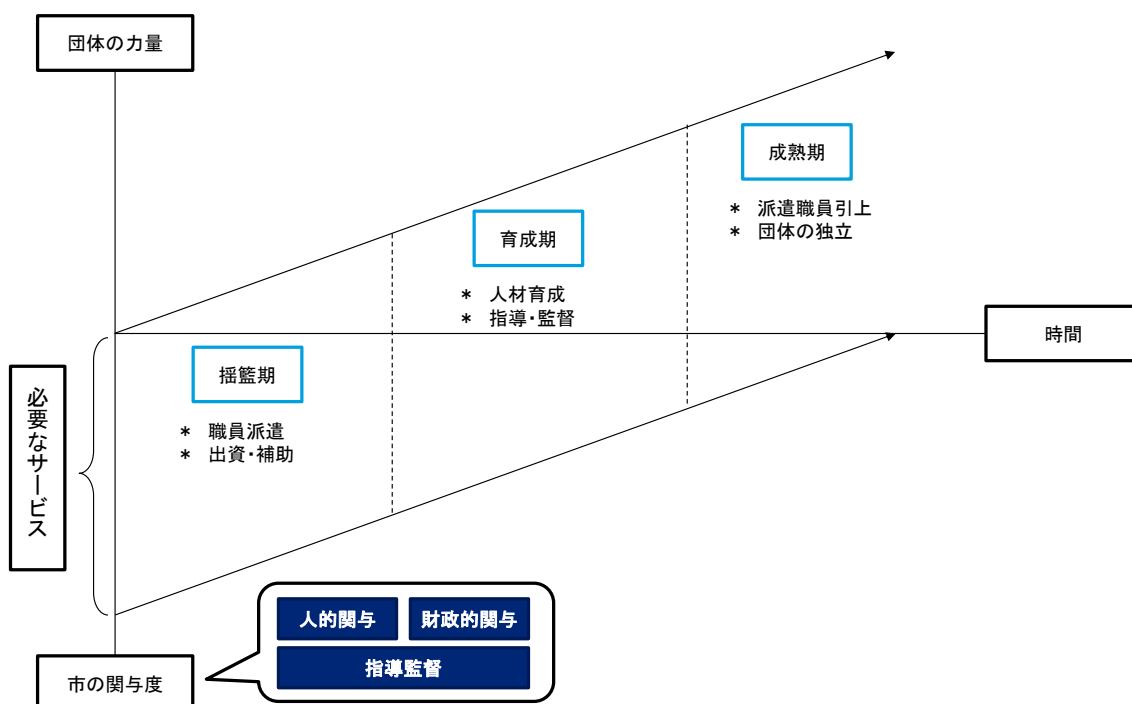
#### 4. 見直し実現に向けた市の考え方

##### (1) 財援団体への関与に関する考え方

財援団体の見直しにあたっては、事業の水準や実施主体の見直しだけでなく、団体の自立性<sup>7</sup>やガバナンスを高めていくことが不可欠である。

市は、財援団体に対する人的支援、財政的支援などの関与を必要最小限としていくが、各団体は、その設立時期、規模により、まだ揺籃期のものから自立度の高い成熟期のものまで発展段階は様々であることから、その状況にふさわしい適切な関与度を見極め、改革を行っていく必要がある。

【図表 15】 財援団体の進化と市の関与の関係

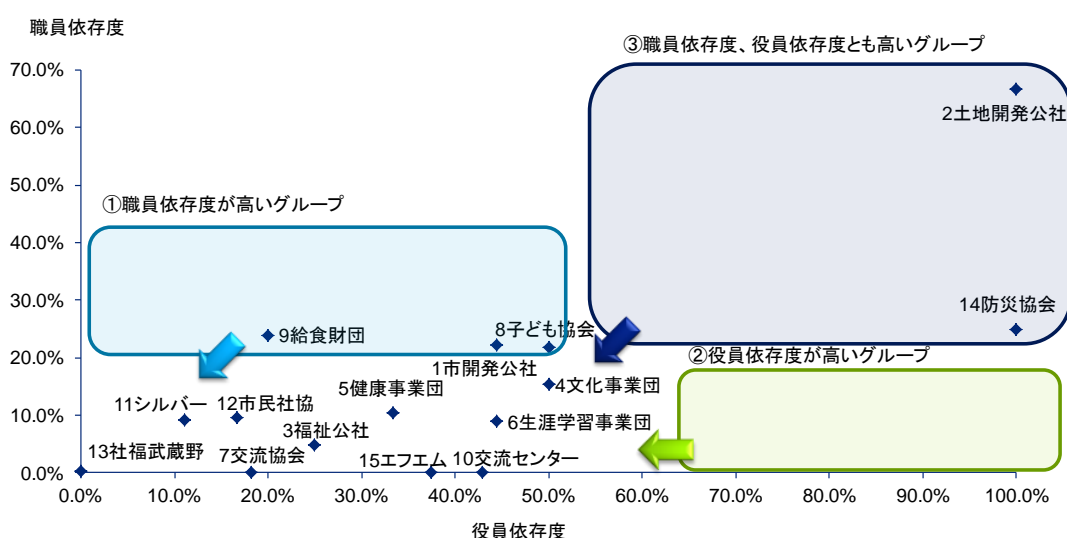


<sup>7</sup> 市による指導監督に頼らず、また市から団体運営に必要な人的・物的・財政的な面で援助を受けることなく、団体のガバナンスを発揮し健全な経営を営み、市と十分に連携して公共の課題解決に取り組むこと。

## (2) 人的関与に関する考え方

市は、財援団体の運営を効率的・効果的に進めるとともに、市との円滑な連携を確保する観点から、財援団体に対して、市職員を団体の役員及び職員として派遣してきた。その結果、平成 25 年 4 月 1 日時点での団体の職員依存度<sup>8</sup>及び役員依存度<sup>9</sup>は、以下の状況となっている。

【図表 16】財援団体の人的依存の状況（平成 25 年 4 月 1 日時点）



この図表からわかるとおり、①職員依存度が高いグループ、②役員依存度が高いグループ、③職員依存度、役員依存度とも高いグループ、の3つとその他のグループ（職員依存度、役員依存度とも相対的に低いグループ）に分けることができる。

市の人的関与度を低減させることは、各グループの人的依存度を図中の矢印の方向に進めることを意味するが、一概に人的関与をなくすことが適切ではない場合もあることから、各団体の性格、事業内容、事業規模等に応じた目標水準を設定し、適切な水準を確保する必要がある。

<sup>8</sup> 職員に占める市職員及び市OBの割合。

<sup>9</sup> 役員（理事・監事を指し、評議員は除く）に占める市職員及び市OBの割合。

### (3) 財政的関与に関する考え方

市は、施策目的の実現のための手段として、財援団体に一定の財政支出を行い、財援団体を通じてより効率的・効果的な公共サービスを行ってきた。

市の財政支出の種類とその支出基準は、事務要綱細則に以下のとおり規定されている。

【図表 17】 財政支出する場合の基準（事務要綱細則第 3）

支出の種類	基準
出資又は出えん	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市が出資又は出えんする意義が十分認められること。</li> <li>● 団体の行う事業が市の施策及び長期的計画に適合するもので、団体がその事業を行うことにより、市民福祉の向上につながるものであること。</li> </ul>
補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助対象事業を明確にするとともに、人件費、運営費等の間接的経費に対する補助については、必要最小限にとどめること。</li> <li>● 補助割合は、対象事業の性格、内容、団体の財政能力等を考慮して定めること。</li> </ul>
貸付	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貸付対象事業が市の施策及び長期的計画に適合するもので、団体がその事業を行うことにより、市民福祉の向上につながるものであること。</li> <li>● 団体の財政能力、事業内容等を十分に検討し、真に必要なものに限定して貸付を行うこと。</li> </ul>
委託	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の事業を委託することにより、市が直接行うよりも市民サービスの向上及び効率的な事業執行が確保できること。</li> <li>● 事業を実施するための十分な専門知識、技術、施設、設備等を備えた団体に委託すること。</li> <li>● 公の施設の管理運営を委託する場合には、効率的かつ弾力的運営を積極的に進めること。</li> <li>● 委託するにあたって、公共性、行政責任の確保、経済性等が図られるよう十分配慮すること。</li> </ul>

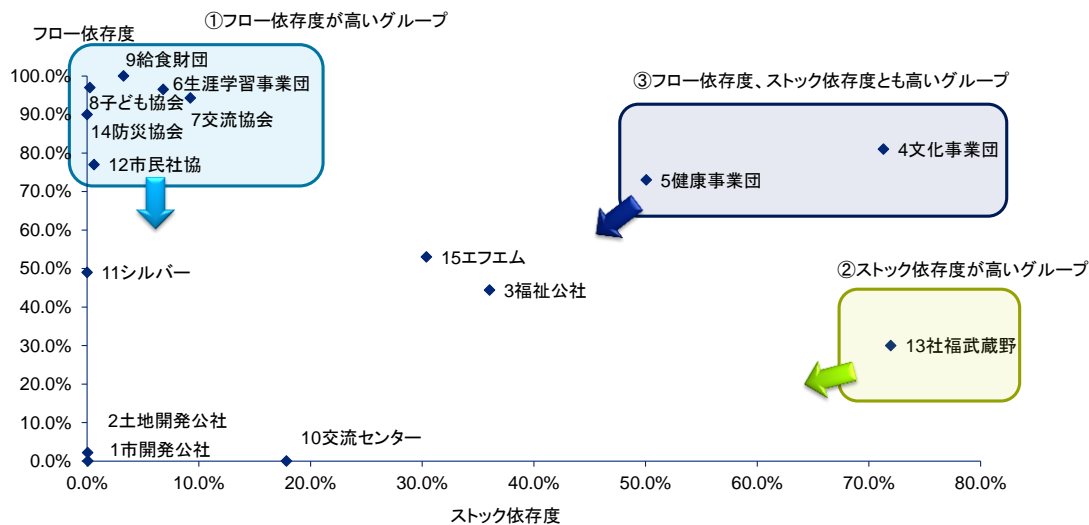
上表からわかるとおり、市は、補助や委託のように、年度単位で支出されるもの（フローの支出）と、出資又は出えんや貸付のように、その団体の財政的基盤の強化等を目的としてより中長期的なスパンで支出されるもの（ストックの支出）とを組み合わせで行っている。

平成 25 年 3 月 31 日時点（平成 24 年度末時点）の各団体のフロー依存度<sup>10</sup>とストック依存度<sup>11</sup>は、以下の状況となっている。

<sup>10</sup> 平成 24 年度決算における、総収入に占めるフロー支出額（団体からみるとフロー収入額）割合。

<sup>11</sup> 平成 24 年度決算における、総資産額に占めるストック支出額（団体からみるとストック収入額）割合。

【図表 18】 財援団体の財政的依存の状況（平成 25 年 3 月 31 日時点）



この図表からわかるとおり、各団体は、①フロー依存度が高いグループ、②ストック依存度が高いグループ、③フロー依存度、ストック依存度とも高いグループ、の3つとその他のグループ（フロー依存度、ストック依存度とも相対的に低いグループ）に分けることができる。

市の財政的関与度を低減させることは、各グループの財政的依存度を図中の矢印の方向に進めることを意味する<sup>12</sup>が、財政的依存度は、団体の運営に大きく影響するものであり、特に、フロー依存度が高い団体は、市が財政的関与度を引き下げることが団体の存続自体に関わることもあることから、各団体の性格、事業内容、事業規模等に応じた目標水準を設定し、適切な水準を確保する必要がある。

<sup>12</sup> なお、矢印の方向は、あくまで、財政的依存度が低くなる方向を示しており、矢印の方向にある団体の財政状況がよいということを必ずしも含意しない。

#### (4) 指導監督に関する考え方

財援団体への市の関与は段階的に縮小していく方向であるものの、市の財援団体である以上、市は各団体に対して、公正・適正な運営がなされているか、健全な経営がなされているか、見直しの実現に向けて着実に努力しているかなどをチェックし、適切な指導監督を行う責務がある。

これまで、市は財援団体の指導監督を「指導監督の基本方針」に沿って実施してきた。指導監督の基本方針では、以下の4つの基本方針と、9つの具体的な取組を掲げている。

【図表 19】 指導監督の基本方針

項目	内容
基本方針	(1) 経営責任の明確化 (2) 自律的経営の促進 (3) 人材育成と経営基盤強化 (4) 経営の透明性の向上
具体的な取組	(1) 経営健全性の確保 (2) 事業評価の導入と事務事業の見直し (3) 指定管理者制度への対応 (4) 団体職員の人材育成と財政基盤の強化 (5) 人事・給与制度の見直し (6) 組織・職員数等の適正化と目的・目標達成に向けた効率的運営の推進 (7) 情報公開の更なる推進 (8) 武蔵野市財政援助出資団体経営懇談会 (9) 公益法人改革への対応

また、市は事務要綱及び事務要綱細則の以下の基準に基づき、組織・定数面及び財政運営面の指導監督等を行っている。

【図表 20】財援団体の組織及び定数に対する指導監督等の基準（事務要綱細則第 6, 7）

対象	基準
組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業目的、事業内容等の変化に的確に対応した組織とすること。</li> <li>● 新たに組織を設置する場合には、スクラップ・アンド・ビルドの原則により全体の組織の見直しを図ること。</li> </ul>
定数	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 少数精鋭主義に基づき、事業量に見合った定数を定めるとともに、適正な定数管理を行うこと。</li> <li>● 常に既定の執行体制の見直しを図り、新規事業の実施、既存の事業の拡大等の理由から新たに増員を必要とする場合にも、スクラップ・アンド・ビルドの原則により増員の抑制に努めること。</li> <li>● 嘱託員及び非常勤職員の数についても、適正な管理に努めること。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出資団体については、経営形態の特徴を活かして、弾力的運営が図られるようにする。</li> <li>● 援助団体については、当該団体の性格、事業内容、事業規模等を考慮する。</li> </ul>

【図表 21】財援団体の財政運営に対する指導監督等の基準（事務要綱細則第 4, 5）

項目	基準
独立採算性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体が責任をもって自主的な財政運営が行えるよう、可能な限り独立採算性の確保に努めるよう指導すること。</li> </ul>
事業区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主事業と市からの受託事業については、明確に区分し、指導監督等を行うこと。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 自主事業については、財源の確保が十分図られるようにすること。</li> <li>➢ 市からの受託事業については、事業の実施状況を精査し、年度末においては精算すること。</li> </ul> </li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出資団体については、経営形態の特徴を活かして、弾力的運営が図られるようにする。</li> <li>● 援助団体については、当該団体の性格、事業内容、事業規模等を考慮する。</li> </ul>

他方で、これまでの財援団体の指導監督において、①指導監督にあたり財援団体が作成すべき資料が多く、負担感が大きい上、作成された一部の資料については、十分に活用がなされていない、②指導監督結果が各団体の見直し、改善に十分に活用されていない、③経営懇談会が十分に機能していない、④各団体の所管部署が、当該団体が実施する他部署所管の事業の状況を十分に把握していない、などの課題が見られた。

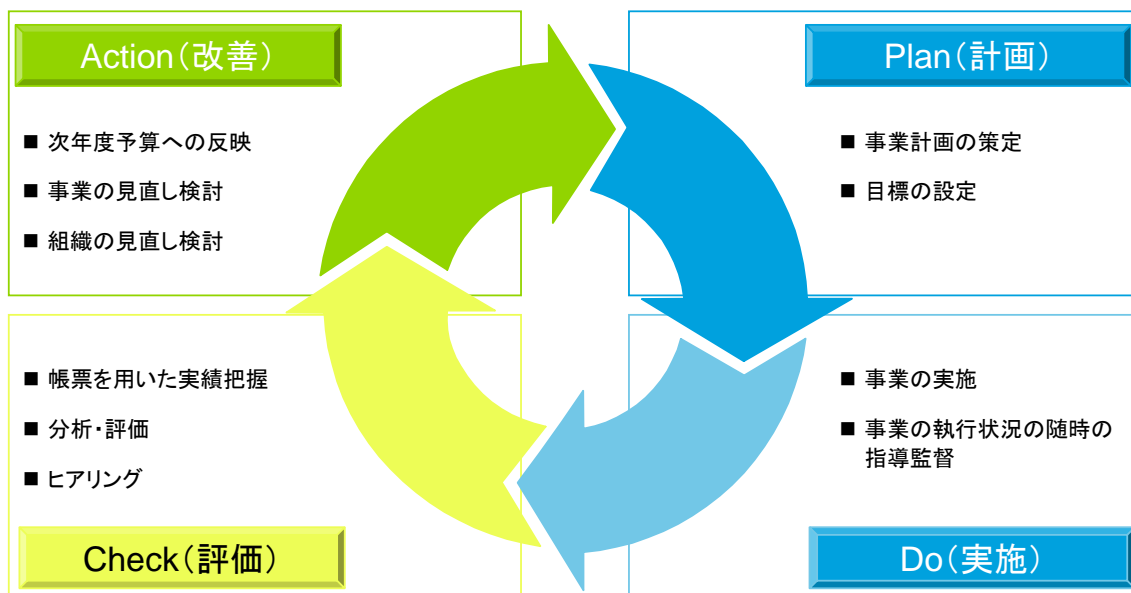
そこで、財援団体の指導監督について、以下の考え方をもとに見直しを図ることとする。

【図表 22】 指導監督の見直しの方向性

見直し項目	見直しにあたっての考え方
指導監督目的に沿った情報収集と分析	指導監督の目的を達成するために必要な情報を明らかにし、必要な情報のみを効率的に収集し、深度ある分析を実施する。
指導監督結果の活用	指導監督結果を、次年度の予算編成や事業計画の策定の基礎資料とし、目標設定と実績評価を徹底することで、効果的な活用を図る。
経営懇談会の見直し	現状では状況報告の場となっている経営懇談会について、本来の役割を持たせるための見直しを図る。
所管部署の適切な指導監督	各団体の所管部署は、自部署の所管事業であるか否かに関わらず、当該団体が実施する事業の状況を適切に把握し、団体のマネジメントの指導監督の強化を図る。

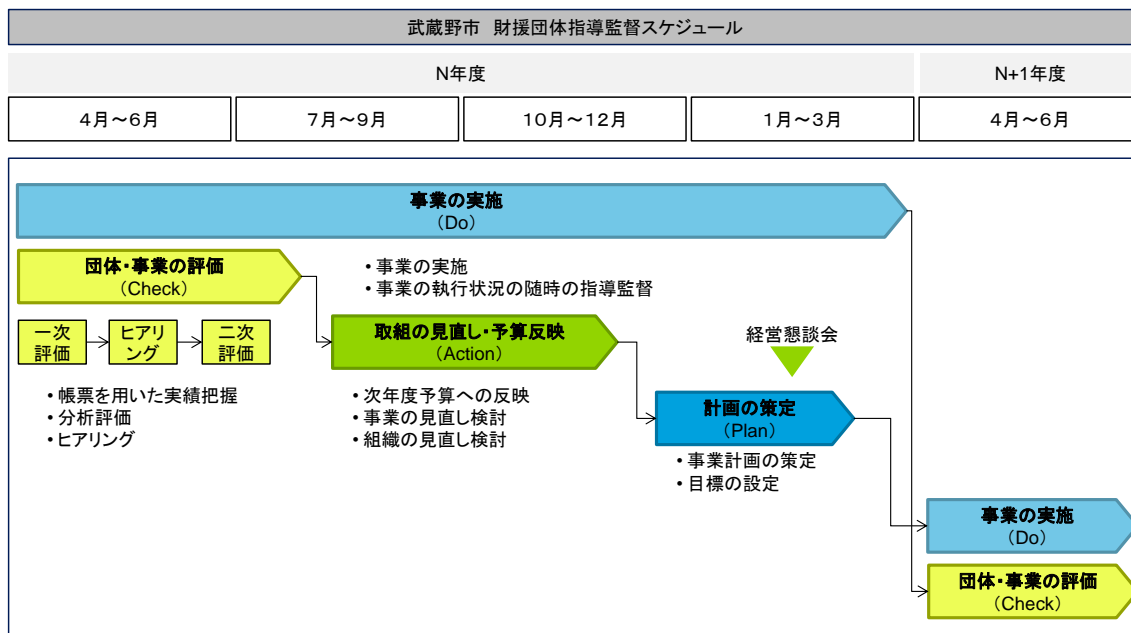
なお、指導監督にあたっては、PDCA サイクルが十分機能するよう、企画調整課が中心となり、各団体や所管部課と連携・協力して実施していく必要がある。

【図表 23】 指導監督における PDCA サイクルのイメージ





【図表 24】 指導監督のスケジュールイメージ



## (5) 財援団体の共通課題

財援団体の見直しにあたり、各団体が抱える課題には、①各団体に共通して見られる課題と、②各団体の個々の課題とが存在する。

ここでは、①各団体に共通して見られる課題について整理する。なお、②各団体の個々の課題については、Ⅱ. 各論で団体毎に詳述している。

【図表 25】 財援団体の共通課題

課題	内容
職員の雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 見直しの結果、他の財援団体との統合を行う場合や、事業の廃止等を行う場合、合理化の一環等で人員削減が必要となる可能性がある。この場合、財援団体職員の雇用の確保に努める必要がある。</li> <li>● 事業水準を高める場合等、新たな人員を確保する必要がある。この場合、正職員で対応するか、非正規職員で対応するか等、将来的な人員体制のあり方を踏まえ、検討を行う必要がある。</li> </ul>
サービス水準の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サービス水準の変更は、市民にとって大きな影響を与えることが想定される。特に影響が大きいと考えられる事業のサービス水準の見直しにあたっては、単に行政セクター側の都合を押し付けるのではなく、十分な説明を行ったうえで、激変緩和を行う等の配慮が求められる。</li> </ul>
公共施設を用いたサービス (指定管理者制度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指定管理者として、公共施設を利用したサービスを提供する財援団体は、施設老朽化の影響が団体の経営に直結する場合がある。施設の廃止や建替え、大規模修繕等により閉館する場合を見越した経営が求められる。</li> <li>● 指定管理者となっている財援団体において、委託料の全額精算方式の在り方について、市として検討を進める必要がある。</li> </ul>
民間セクターのサービス代替性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主体の見直しにあたり、民間セクターでも事業実施が可能と判断された場合でも、近隣等で実際に同種サービスを提供できる事業者がいない場合があるため、事業者の確保に努める必要がある。</li> <li>● 民間セクターにサービスを代替させる場合、事業内容や仕様、サービス水準を明確にして伝えることに留意する必要がある。</li> </ul>

## (6) 推進体制

財援団体の見直しにあたっては、各所管部課のみならず、企画調整課、財政課、人事課等が連携した取組みを進めることとする。なかでも、企画調整課は、武蔵野市組織規則において分掌事務として「財政援助出資団体に関すること。」が示されており、財援団体の見直しにあたっては、全庁のとりまとめや指導監督手法の開発及び実施を行うこととする。

また、地方自治法第 199 条第 7 項で規定されている財政援助団体等監査についても、財援団体にとって重要であることから、引き続き、監査委員及び監査委員事務局の指摘及び意見を踏まえて、財援団体の見直しや経営の充実・強化を推進する。

なお、本報告書の進捗管理及び実効性の確保のため、一定期間（3～5年）の後、あらためて財援団体の在り方について見直しを行うものとする。

## 5. 見直し案 結果概要

「Ⅱ. 各論」に示す各団体の結果の要約は、以下のとおりである。

団体名	見直し案	短期的課題	中長期的課題
1 一般財団法人 武蔵野市開発公 社	<p>&lt;存続&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 不動産管理業務は民間を活用して負荷を下げ、今後は市の政策に合致したまちづくり事業を主体とした事業展開を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちづくり事業の展開のためのノウハウと人材の確保（団体）</li> <li>● 吉祥寺まちづくり事務所と境開発事務所における役割の引継ぎの検討（市）</li> <li>● 財務安定化に向けた早急な対策（団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● F &amp; F ビルの更新とその活用方法の検討（市・団体）</li> </ul>
2 武蔵野市土地開 発公社	<p>&lt;当面存続&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 当面は現状のまま存続とするが、長期的には土地購入の行政課題が縮小した時点で、廃止を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● （不動産鑑定、補償算定及び折衝のできる）人材の確保（団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃止時期の検討（市）</li> </ul>
3 公益財団法人 武蔵野市福祉公 社	<p>&lt;中長期的に市民社協と統合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 権利擁護事業や困難ケースへの対応など、より公益性が高く民間事業者が実施しづらいサービスに重点を置くとともに、市民共助による福祉を推進していくため、福祉公社の役割の明確化を行った上で市民社協と統合する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームヘルプセンターの継続検討（市・団体）</li> <li>● 福祉公社の役割の明確化（市・団体）</li> <li>● 市民社協との統合手法の検討（市・団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営能力を持つ人材の育成（団体）</li> </ul>
4 公益財団法人 武蔵野文化事業 団	<p>&lt;中長期的に生涯学習事業団と統合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯学習分野とスポーツ分野を所管している生涯学習事業団</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定型的管理業務を主とする指定管理施設（スイングホール、公会堂、松露庵、かたらいの道市民スペ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「文化」に関する市の考え方や所管部署などの整理（市）</li> <li>● 吉祥寺美術館の今後の在り方の検討（市・</li> </ul>

団体名	見直し案	短期的課題	中長期的課題
	と統合することで、文化・生涯学習・スポーツ分野の市民サービスを一体として推進する。	ース、芸能劇場)の適切な管理運営方法や担い手の検討(市)	団体) ● 生涯学習事業団と統合した場合の所管課の検討(市)
5 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団	<当面存続> ● 当面は現状のまま存続とするが、今後さらに事業の目的・手法等の再検討を行い、役割達成による事業廃止等が進んだ場合、団体の統廃合についてあらためて検討する。	● 健康づくりや食育に関する事業についての生涯学習事業団や給食財団など他団体との役割分担(団体) ● 健康課との役割分担の明確化(市・団体) ● 総合健康診査(人間ドック)事業において、公益法人としての役割を踏まえた上で補助の在り方についての検討(市・団体)	● 依頼検査業務の在り方の検討(団体) ● 高額医療機器の保有の必要性の検討(市・団体) ● 健康づくり施策全般についての適切な役割分担の検討(市) ● 他団体との統合可能性の検討(市)
6 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団	<中長期的に文化事業団と統合> ● 芸術文化の分野を所管している文化事業団と統合することで、文化・生涯学習・スポーツ分野の市民サービスを一体として推進する。	● 自主事業の拡充と適切な受益者負担の検討(団体) ● 自然の村の適切な管理運営方法や担い手の検討(市) ● 今後の団体運営を担う固有職員の人材育成(団体)	● 文化事業団と統合した場合の所管課の検討(市)
7 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会	<存続> ● 一部事業の民間との差別化や適切な受益者負担による経費削減により、経営改善を図る。	● 会員拡大のためのPR活動やSNS等の活用による広報の充実(団体) ● 会費の徴収方法の検討(団体)	● 近隣自治体との広域化の検討(市・団体) ● 経営能力を持つ人材の育成(団体)

団体名	見直し案	短期的課題	中長期的課題
8 公益財団法人 武蔵野市子ども 協会	<p>&lt;存続&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体の規模拡大に対応できるよう、人材育成や事務の効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人事や複数の会計基準への対応力の強化（市・団体）</li> <li>● 0123事業についての団体の独自性の発揮（困難ケースの対応等）（市・団体）</li> <li>● 学童クラブと地域子ども館あそべえの運営主体の一体化の検討（市）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● みどりのこども館の指定管理者引き受けについての検討（市・団体）</li> <li>● 社会福祉法人への移行検討（市・団体）</li> <li>● 自立化についての検討（市）</li> </ul>
9 一般財団法人 武蔵野市給食・ 食育振興財団	<p>&lt;存続&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 組織運営基盤を整備し、安心・安全な学校給食の提供を継続しつつ、幅広く食育を推進する団体を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共同調理場の老朽化に関する市の方向性の決定（市）</li> <li>● 教育支援課との事務部門重複の解消（市・団体）</li> <li>● 学校給食財務委員会事務局の機能の引継ぎ（団体）</li> <li>● 配送業務の民営化の検討（市・団体）</li> <li>● 食育に関する事業についての健康事業団や生涯学習事業団など他団体との役割分担（団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自立化についての検討（市）</li> <li>● 市が実施する他の給食業務への拡大の検討（市）</li> </ul>
10 有限会社 武蔵 野交流センター	<p>&lt;短期的に自立化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アンテナショップとしての機能は残しつつ、一定の利益を求める経営に転換し、市から自立した団体を目指す。ただし、有効な経営改革案が示せな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営安定後、市の関与の在り方を見直すことの検討（市）</li> <li>● アンテナショップとしての機能は残しつつ、一定の利益を求める経営への円滑な転換（市）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 店舗立地の検討（団体）</li> <li>● 新たな出資拡大を図るなど経営基盤の確立（団体）</li> </ul>

団体名	見直し案	短期的課題	中長期的課題
	<p>い場合は、団体の在り方についてあらためて検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出資している友好都市の経営参画への必要性に対する理解（団体）</li> <li>● 市からの店舗家賃、備品費、事務所光熱水費の負担の終期検討（市）</li> <li>● 経営を担える人材（後任）の育成（団体）</li> </ul>	
<p>11 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター</p>	<p>&lt;存続&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者の生きがいと健康づくりを主たる目的とし、団体は存続させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事務局経費の削減に向けた事務局業務内容の精査（団体）</li> <li>● 会員の意識改革と接遇向上（団体）</li> <li>● 契約先の開拓による財源確保（団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員の高齢化への対応（団体）</li> <li>● 会員の確保（団体）</li> </ul>
<p>12 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会</p>	<p>&lt;中長期的に福祉公社と統合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業の整理等を行い、市民共助による福祉を推進していくため、市民社協の役割の明確化を行った上で福祉公社と統合する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 軽度の要介護者への事業展開の検討（市・団体）</li> <li>● 企画提案力のある職員の育成（団体）</li> <li>● 会員の拡大及び会費の徴収方法の検討（団体）</li> <li>● 福祉公社との統合手法の検討（市・団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営能力を持つ人材の育成（団体）</li> </ul>
<p>13 社会福祉法人 武蔵野</p>	<p>&lt;中長期的に自立&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者サービスと障害者サービスを多様に提供する法人として、経済的に自立していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各保有施設の健全な維持管理（団体）</li> <li>● 各保有施設の将来的な更新を見据えた経営（団体）</li> <li>● 困難ケースを受け入れる場合の統一的な</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間と競合している分野において、対等な条件で競争ができる体制の確立（団体）</li> <li>● 困難ケースの受入れ体制の拡大（団体）</li> <li>● 子ども協会に委託し</li> </ul>

団体名	見直し案	短期的課題	中長期的課題
		ルールづくり（市）	ているおもちゃのぐるりん事業を含めたみどりのこども館の指定管理の在り方の検討（市・団体）
14 武蔵野市民防災協会	<p>&lt;当面存続&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 当面は現状のまま存続とし、市と連携して市民の防災力向上に寄与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間と競合している防災用品販売事業の在り方の検討（市・団体）</li> <li>● 防災推進委員の活動等の拡大（団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の直営とするか、市と役割分担し拡大するかの検討（市）</li> </ul>
15 株式会社 エフエムむさしの	<p>&lt;存続&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時に情報発信の役割が期待されており、中長期的には市への財政的依存の解消を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エフエム認知度の向上（団体）</li> <li>● 出資者の拡大並びに放送リスナー及びスポンサーの獲得（団体）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機器更新費用の負担についての検討（市・団体）</li> </ul>

（注1）ここで記載している「短期的」課題は、今後必要な検討を行った上で、第五期長期計画・調整計画期間（～平成32年度）までに実施することを原則とし、「中長期的」課題は、短期的課題解決後早急に実施すべきものとする。

（注2）ここで記載している「当面存続」とは、各々指摘されている課題を検討・解決していく中で、あらためて財援団体の意義や当該団体の目的、市民ニーズを含めた社会情勢等を踏まえ、引き続き団体の在り方を検討していくということである。

## Ⅱ. 各論

### 各論編の見方

<b>団体名</b>		団体名を記載している。				
<b>1. 基本情報</b>						
設立年月日		団体の設立年月日を記載している。				
目的		団体の設立目的を記載している。				
背景		団体が設立された背景とこれまでの状況を記載している。				
市への貢献・成果		団体のこれまでの市への貢献や成果を記載している。				
<b>2. 経営状況</b>						
財務	要約	(1)出資等の状況				
		①出資・出えんの状況 <span style="float:right">[千円]</span>				
		合計額				経過
		内訳	基本財産			
		団体に対する出資・出えんの状況を記載している。				
		②補助金、委託料、貸付金の推移 <span style="float:right">[千円]</span>				
		区分	H22	H23	H24	
		収入総額				
		委託料				
		補助金				
貸付金						
計						
支出総額						
収支差額						
団体が受けている補助金、委託料、貸付金の金額とその割合等を記載している。						



<b>団体名</b>		団体名を記載している。				
財務	要約	<b>(2) 団体の財務状況</b>				
		<b>①要約貸借対照表</b> [千円]				
		項目		H22	H23	H24
		資産	流動資産			
			固定資産			
			資産合計			
		負債	流動負債			
			固定負債			
		正味財産				
		負債・正味財産合計				
団体の貸借対照表の要約を記載している。						
<b>②要約正味財産増減計算書</b> [千円]						
項目		H22	H23	H24		
一般正味財産増減の部						
収益	事業収益					
	その他					
	収益計					
費用	事業費					
	管理費					
	その他					
	費用計					
当期一般正味財産増減額						
指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額						
正味財産期末残高						
団体の正味財産増減計算書の要約を記載している。						

<b>団体名</b>		団体名を記載している。																																		
財務	要約	<b>③有利子負債の推移</b> [千円] <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>有利子負債がある場合、その項目と金額を記載している。</p>			項目	H22	H23	H24																												
	項目	H22	H23	H24																																
現況	財務の要約から把握される事実を記載している。																																			
人事	要約	<b>(1) 役員の状況</b> [人] <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤役員数</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td rowspan="3"> </td> <td>市派遣</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>非常勤役員数</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td rowspan="3"> </td> <td>市派遣</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>団体の役員数を記載している。(各年4月1日現在)          ※理事・監事を指し、評議員は除く。(役員定義は各団体の定款に基づく。)          ※市職員の兼任は、市派遣に含む。</p>				H23	H24	H25	常勤役員数					市派遣			市OB			その他			非常勤役員数					市派遣			市OB			その他		
		H23	H24	H25																																
常勤役員数																																				
	市派遣																																			
	市OB																																			
	その他																																			
非常勤役員数																																				
	市派遣																																			
	市OB																																			
	その他																																			
	<b>(2) 職員の状況</b> [人] <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員数</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td rowspan="4"> </td> <td>市派遣</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>固有</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>( )内は、うち管理職の人数</p> <p>団体の職員数を記載している。(各年4月1日現在)</p>				H23	H24	H25	職員数					市派遣			市OB			固有			その他														
	H23	H24	H25																																	
職員数																																				
	市派遣																																			
	市OB																																			
	固有																																			
	その他																																			

<b>団体名</b>		団体を記載している。										
人事	要約	<p>(3) 人件費の推移 <span style="float: right;">[千円]</span></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 16.6%;">H22</th> <th style="width: 16.6%;">H23</th> <th style="width: 16.6%;">H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、人件費に含めている科目は、XXX である。</p> <p>団体の人件費の金額を記載している。</p>				H22	H23	H24	人件費			
		H22	H23	H24								
人件費												
現況	人事の要約から把握される事実を記載している。											
施設	要約	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33.3%;">主要施設の名称</th> <th style="width: 33.3%;">建設時期</th> <th style="width: 33.3%;">延べ床面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>施設を所有している場合に、施設の状況を記載している。</p>			主要施設の名称	建設時期	延べ床面積					
	主要施設の名称	建設時期	延べ床面積									
現況	施設の要約から把握される事実を記載している。											
その他	現況	財務、人事、施設の状況以外の、団体を取り巻く状況を記載している。										
経営上の課題		上記の現況を踏まえ、団体が解決すべき経営上の課題を記載している。										

<b>団体名</b>	団体名を記載している。												
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>													
事業の分析・評価	<table border="1" data-bbox="469 510 1348 609"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> <td>⑤</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="469 636 1348 1234" style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>「基本方針」に沿った見直しの結果を記載している。</p> <p>①「事業の棚卸し」の結果、検討対象となった事業名を記載している。</p> <p>②「事業の仕分け」の結果を「継続」「廃止」のいずれかで記載している。</p> <p>③「水準の見直し」の結果を、「現状程度」「要検討」のいずれかで記載している。</p> <p>④「主体の再編・選択」の結果を、「現団体」「要検討」のいずれかで記載している。</p> <p>⑤「事業形態の見直し」の結果を、「委託」「指定管理」「補助」「自主」のいずれかで記載している。</p> <p>(注1)「委託」は原則として市からの委託事業を表している。そのほかの主体から委託を受けている場合は、委託元を脚注で示している。</p> <p>(注2)⑤の事業分類欄に、複数の事業形態が記載されることがあるが、これは、①に記載する事業の内訳として、複数の事業が存在しているためである。</p> </div>	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類		①	②	③	④	⑤
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類								
	①	②	③	④	⑤								
事業の見直しの方向性	<table border="1" data-bbox="469 1330 1348 1429"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>①</td> <td>②</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="469 1442 1348 1644" style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>「事業の分析・評価」の結果として、事業の見直しの方向性を記載している。</p> <p>①「事業の分析・評価」と同様の事業名を記載している。</p> <p>②「事業の分析・評価」で得られた結論をもとに、事業の見直しの方向性を記載している。</p> </div>	No.	事業名	方向性		①	②						
No.	事業名	方向性											
	①	②											
団体の見直しの方向性	<div data-bbox="469 1733 1348 1816" style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>「基本方針」に基づく検討の結果として、団体の見直しの方向性を記載している。</p> </div>												

団体名	団体名を記載している。
<b>4. 見直し案</b>	
見直しにあたり留意すべき事項	「3. 基本方針に基づく検討」で得られた結論の実行を妨げる団体固有の特別の事情等、見直しにあたって留意すべき事項がある場合、当該事項を記載している。
見直し案	「3. 基本方針に基づく検討」で得られた結論と「見直しにあたり留意すべき事項」を踏まえ、団体の見直し案を記載している。
見直しに向けての課題	「見直し案」の実現にあたって課題となる事項を、「短期的課題」と「中長期的課題」とに分けて記載している。

(注) 数値については、端数処理の関係で合計額が不一致となる場合がある。

団体名	1. 一般財団法人 武蔵野市開発公社																																																												
1. 基本情報																																																													
設立年月日	昭和43年8月7日																																																												
目的	市が行うまちづくりに関連する事業を推進することにより、快適で豊かな生活環境の実現を目指し、もって市民福祉の増進と市の発展に寄与する。																																																												
背景	<p>昭和39年に吉祥寺駅周辺都市計画事業が計画決定されたことに伴い、計画該当地で移転を要する商業者への対策と、吉祥寺発展の拠点的作用を担う商業核となる施設建設を推進するために設立された。</p> <p>その後、寄附行為の一部を変更し、吉祥寺駅周辺の都市計画事業の進展に伴う街づくりのための調査・研究など、幅広い事業を行い、事業対象区域も吉祥寺地区から全市に拡大し、武蔵境圏の再開発にも参画して駅周辺の活性化の拠点づくりに寄与している。</p> <p>平成25年4月に、一般財団法人に移行している。</p>																																																												
市への貢献・成果	吉祥寺圏の再開発の牽引役として、「住みたい街」として紹介されることの多い吉祥寺のブランド形成に寄与してきた。所有するF&Fビルは昭和40年代の吉祥寺圏開発の目玉であり、今なお吉祥寺の中心的な商業施設として機能している。寄附行為変更後は、全市的な再開発にも参画し、「公にしかできない」貢献を果たしている。																																																												
2. 経営状況																																																													
財務	要約	(1)出資等の状況																																																											
		①出資・出えんの状況 [千円]																																																											
		<table border="1"> <tr> <td>合計額</td> <td>10,000</td> <td>100.0%</td> <td colspan="2">経過</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>基本財産</td> <td>10,000</td> <td>100.0%</td> <td>設立時</td> <td>10,000</td> </tr> </table>				合計額	10,000	100.0%	経過		内訳	基本財産	10,000	100.0%	設立時	10,000																																													
合計額	10,000	100.0%	経過																																																										
内訳	基本財産	10,000	100.0%	設立時	10,000																																																								
		②補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]																																																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th colspan="2">H22</th> <th colspan="2">H23</th> <th colspan="2">H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入総額</td> <td colspan="2">5,053,051</td> <td colspan="2">1,657,269</td> <td colspan="2">2,936,372</td> </tr> <tr> <td rowspan="4"> <table border="1"> <tr> <td>委託料</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>補助金</td> <td>11,460</td> <td>0.2%</td> <td>1,422</td> <td>0.1%</td> <td>660</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>貸付金</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,460</td> <td>0.2%</td> <td>1,422</td> <td>0.1%</td> <td>660</td> <td>0.0%</td> </tr> </table> </td> <td colspan="2">4,696,294</td> <td colspan="2">2,113,215</td> <td colspan="2">2,913,911</td> </tr> <tr> <td>収支差額</td> <td colspan="2">356,757</td> <td colspan="2">△455,946</td> <td colspan="2">22,462</td> </tr> </tbody> </table>				区分	H22		H23		H24		収入総額	5,053,051		1,657,269		2,936,372		<table border="1"> <tr> <td>委託料</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>補助金</td> <td>11,460</td> <td>0.2%</td> <td>1,422</td> <td>0.1%</td> <td>660</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>貸付金</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,460</td> <td>0.2%</td> <td>1,422</td> <td>0.1%</td> <td>660</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	委託料	-	-	-	-	-	-	補助金	11,460	0.2%	1,422	0.1%	660	0.0%	貸付金	-	-	-	-	-	-	計	11,460	0.2%	1,422	0.1%	660	0.0%	4,696,294		2,113,215		2,913,911		収支差額	356,757		△455,946		22,462	
区分	H22		H23		H24																																																								
収入総額	5,053,051		1,657,269		2,936,372																																																								
<table border="1"> <tr> <td>委託料</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>補助金</td> <td>11,460</td> <td>0.2%</td> <td>1,422</td> <td>0.1%</td> <td>660</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>貸付金</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,460</td> <td>0.2%</td> <td>1,422</td> <td>0.1%</td> <td>660</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	委託料	-	-	-	-	-	-	補助金	11,460	0.2%	1,422	0.1%	660	0.0%	貸付金	-	-	-	-		-	-	計	11,460	0.2%	1,422	0.1%	660	0.0%	4,696,294		2,113,215		2,913,911																											
	委託料	-	-	-	-	-	-																																																						
	補助金	11,460	0.2%	1,422	0.1%	660	0.0%																																																						
	貸付金	-	-	-	-	-	-																																																						
計	11,460	0.2%	1,422	0.1%	660	0.0%																																																							
収支差額	356,757		△455,946		22,462																																																								

団体名		1. 一般財団法人 武蔵野市開発公社			
財務	要約	(2) 団体の財務状況			
		① 要約貸借対照表 [千円]			
		項目	H22	H23	H24
	資産	流動資産	746,324	347,496	332,477
		固定資産	14,924,398	14,498,591	14,070,011
		資産合計	15,670,722	14,846,087	14,402,488
	負債	流動負債	865,899	1,788,062	675,014
		固定負債	6,592,791	5,111,100	6,050,788
		正味財産	8,212,032	7,946,925	7,676,686
		負債・正味財産合計	15,670,722	14,846,087	14,402,488
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]			
		項目	H22	H23	H24
		一般正味財産増減の部			
	収益	事業収益	1,134,040	1,302,225	1,300,860
		その他	201,319	117,167	66,630
		収益計	1,335,359	1,419,392	1,367,490
	費用	事業費	1,300,517	1,355,651	1,419,828
		管理費	107,063	142,075	174,556
		その他	731,367	166,072	22,644
		費用計	2,138,948	1,663,797	1,617,027
		当期一般正味財産増減額	△803,588	△244,405	△249,537
		指定正味財産増減の部			
		当期指定正味財産増減額	△20,702	△20,702	△20,702
		正味財産期末残高	8,212,032	7,946,925	7,676,686
		③ 有利子負債の推移 [千円]			
		項目	H22	H23	H24
		短期借入金	400,890	486,000	497,000
		割賦未払金	285,564	1,065,500	38,500
		長期借入金	3,869,250	3,540,250	4,463,250
		長期割賦未払金	1,269,000	203,500	256,000
	現況	● 流動比率 (=流動資産/流動負債×100) が 49.3%と、低い水準にある。			

<b>団体名</b>		<b>1. 一般財団法人 武蔵野市開発公社</b>				
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総資産に占める固定資産の割合が大きいが、固定比率（＝固定資産/正味財産×100）は183.3%と、目安である100%を大きく上回っている。</li> <li>● 正味財産比率（＝正味財産/総資産×100）は53.3%と一定程度の水準にある。</li> <li>● 3年連続で当期一般正味財産増減額が赤字の状況にある</li> </ul>				
人事	要約	<b>(1) 役員の状況</b> [人]				
			H23	H24	H25	
		常勤役員数	1	1	1	
		市派遣	市派遣	-	-	-
			市OB	1	1	1
			その他	-	-	-
		非常勤役員数	22	22	8	
		市派遣	市派遣	5	5	2
			市OB	4	4	1
			その他	13	13	5
<b>(2) 職員の状況</b> [人]						
	H23	H24	H25			
職員数	11 (3)	8 (3)	9 (3)			
市派遣	市派遣	2 (2)	2 (2)	2 (2)		
	市OB	-	-	-		
	固有	5 (1)	5 (1)	5 (1)		
	その他	4	1	2		
( ) 内は、うち管理職の人数						
<b>(3) 人件費の推移</b> [千円]						
	H22	H23	H24			
人件費	65,946	75,629	75,846			
なお、人件費に含めている科目は、給料、報酬、諸手当、退職給付費用、法定福利費、福利厚生費、派遣職員人件費である。						
現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成25年度から非常勤役員数が大きく減少している。</li> <li>● 市派遣職員は2名で推移しており、市への人的依存度はそれほど高くない。</li> <li>● 人件費は平成22年度から平成23年度にかけて増加した後、同程度の水準で推移している。</li> </ul>					



団体名		1. 一般財団法人 武蔵野市開発公社																				
施設	要約	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要施設の名称</th> <th>建設時期</th> <th>延べ床面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F &amp; F ビル</td> <td>A棟 昭和 47 年（区分所有） B棟 昭和 46 年（全部所有）</td> <td>A棟 17,282.682 m<sup>2</sup> B棟 28,738.953 m<sup>2</sup> 合計 46,021.635 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>公社第 2 ビル (MICHELLE)</td> <td>昭和 61 年</td> <td>293.572 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>公社第 3 ビル (MICHELLE-II)</td> <td>昭和 61 年</td> <td>362.626 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>公社第 4 ビル</td> <td>昭和 32 年</td> <td>56.31 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>スイングビル</td> <td>平成 8 年（区分所有）</td> <td>11,897.96 m<sup>2</sup> (駐車場 900 m<sup>2</sup>別)</td> </tr> </tbody> </table>			主要施設の名称	建設時期	延べ床面積	F & F ビル	A棟 昭和 47 年（区分所有） B棟 昭和 46 年（全部所有）	A棟 17,282.682 m <sup>2</sup> B棟 28,738.953 m <sup>2</sup> 合計 46,021.635 m <sup>2</sup>	公社第 2 ビル (MICHELLE)	昭和 61 年	293.572 m <sup>2</sup>	公社第 3 ビル (MICHELLE-II)	昭和 61 年	362.626 m <sup>2</sup>	公社第 4 ビル	昭和 32 年	56.31 m <sup>2</sup>	スイングビル	平成 8 年（区分所有）	11,897.96 m <sup>2</sup> (駐車場 900 m <sup>2</sup> 別)
	主要施設の名称	建設時期	延べ床面積																			
F & F ビル	A棟 昭和 47 年（区分所有） B棟 昭和 46 年（全部所有）	A棟 17,282.682 m <sup>2</sup> B棟 28,738.953 m <sup>2</sup> 合計 46,021.635 m <sup>2</sup>																				
公社第 2 ビル (MICHELLE)	昭和 61 年	293.572 m <sup>2</sup>																				
公社第 3 ビル (MICHELLE-II)	昭和 61 年	362.626 m <sup>2</sup>																				
公社第 4 ビル	昭和 32 年	56.31 m <sup>2</sup>																				
スイングビル	平成 8 年（区分所有）	11,897.96 m <sup>2</sup> (駐車場 900 m <sup>2</sup> 別)																				
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● F&amp;F ビル及び公社第 4 ビルは老朽化が進んでいる。</li> <li>● F&amp;F ビルは平成 18 年度の耐震・リニューアル工事を行っている。</li> <li>● 公社第 4 ビルは平成 21 年度の新テナント出店に合わせて内・外装のリニューアル工事を行っている。</li> </ul>																				
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般財団法人移行後、事業の中心を不動産管理運営事業からまちづくり関連事業へと転換する方針としている。</li> <li>● 市直営の出先機関である、吉祥寺まちづくり事務所、武蔵境開発事務所が、開発計画の策定や市街地整備等のまちづくり関連事業を実施している。</li> </ul>																				
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正味財産比率は一定程度の水準にあるものの、流動比率と固定比率の状況から、財務安全性に懸念がある。特に、資金繰りに留意し、ここ数年のうちに資金ショートが生じる恐れがあるので、早急の対策が求められる。</li> <li>● 収支差額である当期一般正味財産増減額が連続して赤字であり、回復傾向にはあるものの、収益性が低い状況にある。</li> <li>● 所有施設の老朽化が進んでいるが、更新コストを賄える財務体質ではなく、更新コストを負担する場合は、新たな借り入れを行うか、市から財政援助を行う必要がある。</li> <li>● 収入の柱である F&amp;F ビルの更新時は、収入が大きく落ち込み、資金繰りや団体の活動そのものにまで大きな影響が生じることが懸念される。</li> <li>● 不動産管理運営事業からまちづくり関連事業への転換を図っていることから、これらの事業展開のためのノウハウと人材の確保が求められる。</li> <li>● まちづくり関連事業について、市直営の出先機関の実施事業との重複があることから、役割分担を明確にする必要がある。</li> </ul>																				

団体名	1. 一般財団法人 武蔵野市開発公社																																														
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>																																															
事業の分析・評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="469 416 555 461">No.</th> <th data-bbox="555 416 823 461">事業名</th> <th data-bbox="823 416 954 461">仕分け</th> <th data-bbox="954 416 1086 461">水準</th> <th data-bbox="1086 416 1219 461">主体</th> <th data-bbox="1219 416 1351 461">事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="469 461 555 607">1</td> <td data-bbox="555 461 823 607">都市整備再開発事業 (まちづくり専門家派遣等)</td> <td data-bbox="823 461 954 607">継続</td> <td data-bbox="954 461 1086 607">要検討</td> <td data-bbox="1086 461 1219 607">要検討</td> <td data-bbox="1219 461 1351 607">自主</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 607 555 658">2</td> <td data-bbox="555 607 823 658">都市緑化環境保全事業</td> <td data-bbox="823 607 954 658">継続</td> <td data-bbox="954 607 1086 658">要検討</td> <td data-bbox="1086 607 1219 658">要検討</td> <td data-bbox="1219 607 1351 658">自主</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 658 555 804">3</td> <td data-bbox="555 658 823 804">住宅関連事業(住み替え支援、マンション対策等)</td> <td data-bbox="823 658 954 804">継続</td> <td data-bbox="954 658 1086 804">要検討</td> <td data-bbox="1086 658 1219 804">現団体</td> <td data-bbox="1219 658 1351 804">自主 補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 804 555 949">4</td> <td data-bbox="555 804 823 949">都市活性化地域振興事業(吉祥寺方式物流対策委員会支援事業等)</td> <td data-bbox="823 804 954 949">継続</td> <td data-bbox="954 804 1086 949">要検討</td> <td data-bbox="1086 804 1219 949">要検討</td> <td data-bbox="1219 804 1351 949">自主 補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 949 555 1001">5</td> <td data-bbox="555 949 823 1001">調査研究事業</td> <td data-bbox="823 949 954 1001">継続</td> <td data-bbox="954 949 1086 1001">現状程度</td> <td data-bbox="1086 949 1219 1001">現団体</td> <td data-bbox="1219 949 1351 1001">自主</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1001 555 1052">6</td> <td data-bbox="555 1001 823 1052">不動産賃貸管理事業</td> <td data-bbox="823 1001 954 1052">継続</td> <td data-bbox="954 1001 1086 1052">現状程度</td> <td data-bbox="1086 1001 1219 1052">要検討</td> <td data-bbox="1219 1001 1351 1052">自主</td> </tr> </tbody> </table>					No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	都市整備再開発事業 (まちづくり専門家派遣等)	継続	要検討	要検討	自主	2	都市緑化環境保全事業	継続	要検討	要検討	自主	3	住宅関連事業(住み替え支援、マンション対策等)	継続	要検討	現団体	自主 補助	4	都市活性化地域振興事業(吉祥寺方式物流対策委員会支援事業等)	継続	要検討	要検討	自主 補助	5	調査研究事業	継続	現状程度	現団体	自主	6	不動産賃貸管理事業	継続	現状程度	要検討	自主
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類																																										
1	都市整備再開発事業 (まちづくり専門家派遣等)	継続	要検討	要検討	自主																																										
2	都市緑化環境保全事業	継続	要検討	要検討	自主																																										
3	住宅関連事業(住み替え支援、マンション対策等)	継続	要検討	現団体	自主 補助																																										
4	都市活性化地域振興事業(吉祥寺方式物流対策委員会支援事業等)	継続	要検討	要検討	自主 補助																																										
5	調査研究事業	継続	現状程度	現団体	自主																																										
6	不動産賃貸管理事業	継続	現状程度	要検討	自主																																										
事業の見直しの方 向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="469 1149 555 1193">No.</th> <th data-bbox="555 1149 823 1193">事業名</th> <th data-bbox="823 1149 1351 1193">方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="469 1193 555 1339">1</td> <td data-bbox="555 1193 823 1339">都市整備再開発事業 (まちづくり専門家派遣等)</td> <td data-bbox="823 1193 1351 1339">・都市整備部の出先機関との役割分担を明確にした上で事業を継続する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1339 555 1485">2</td> <td data-bbox="555 1339 823 1485">都市緑化環境保全事業</td> <td data-bbox="823 1339 1351 1485">・環境部や同種事業を行っている民間事業者との役割分担を明確にした上で、適切な主体を判断する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1485 555 1630">3</td> <td data-bbox="555 1485 823 1630">住宅関連事業(住み替え支援、マンション対策等)</td> <td data-bbox="823 1485 1351 1630">・今後のニーズの高まりに対応できるような体制を構築し事業を継続する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1630 555 1877">4</td> <td data-bbox="555 1630 823 1877">都市活性化地域振興事業(吉祥寺方式物流対策委員会支援事業等)</td> <td data-bbox="823 1630 1351 1877">・事業内容を精査し、当団体が引き続き担うべき事業と他の主体が実施すべき事業とを明確にする。 ・当団体が引き続き担うべき事業については、負担の水準等、サービス水準を適正にする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1877 555 1966">5</td> <td data-bbox="555 1877 823 1966">調査研究事業</td> <td data-bbox="823 1877 1351 1966">・当団体が実施する事業の効果・効率が高まるよう適切なコストをかけて引き続き実施する。</td> </tr> </tbody> </table>					No.	事業名	方向性	1	都市整備再開発事業 (まちづくり専門家派遣等)	・都市整備部の出先機関との役割分担を明確にした上で事業を継続する。	2	都市緑化環境保全事業	・環境部や同種事業を行っている民間事業者との役割分担を明確にした上で、適切な主体を判断する。	3	住宅関連事業(住み替え支援、マンション対策等)	・今後のニーズの高まりに対応できるような体制を構築し事業を継続する。	4	都市活性化地域振興事業(吉祥寺方式物流対策委員会支援事業等)	・事業内容を精査し、当団体が引き続き担うべき事業と他の主体が実施すべき事業とを明確にする。 ・当団体が引き続き担うべき事業については、負担の水準等、サービス水準を適正にする。	5	調査研究事業	・当団体が実施する事業の効果・効率が高まるよう適切なコストをかけて引き続き実施する。																								
No.	事業名	方向性																																													
1	都市整備再開発事業 (まちづくり専門家派遣等)	・都市整備部の出先機関との役割分担を明確にした上で事業を継続する。																																													
2	都市緑化環境保全事業	・環境部や同種事業を行っている民間事業者との役割分担を明確にした上で、適切な主体を判断する。																																													
3	住宅関連事業(住み替え支援、マンション対策等)	・今後のニーズの高まりに対応できるような体制を構築し事業を継続する。																																													
4	都市活性化地域振興事業(吉祥寺方式物流対策委員会支援事業等)	・事業内容を精査し、当団体が引き続き担うべき事業と他の主体が実施すべき事業とを明確にする。 ・当団体が引き続き担うべき事業については、負担の水準等、サービス水準を適正にする。																																													
5	調査研究事業	・当団体が実施する事業の効果・効率が高まるよう適切なコストをかけて引き続き実施する。																																													

<b>団体名</b>	<b>1. 一般財団法人 武蔵野市開発公社</b>		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	6	不動産賃貸管理事業	・民間事業者へのアウトソーシングを検討し、 財援団体職員はより公益性の高い事業にシフトする。
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他の主体が同種事業を実施しているケースがあることから、市開発公社と他の主体の役割分担、特に、市開発公社が担うべき役割を明確にした上で、まちづくり事業を主体とした事業展開を図る。</li> </ul>		
<b>4. 見直し案</b>			
見直しにあたり留 意すべき事項	特になし		
見直し案	<p>&lt;存続&gt;</p> <p>不動産管理業務は民間を活用して負荷を下げ、今後は市の政策に合致したまちづくり事業を主体とした事業展開を図る。</p>		
見直しに向けての 課題	<p>【短期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● まちづくり事業の展開のためのノウハウと人材の確保（団体）</li> <li>● 吉祥寺まちづくり事務所と境開発事務所における役割の引継ぎの検討（市）</li> <li>● 財務安定化に向けた早急な対策（団体）</li> </ul> <p>【中長期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● F &amp; F ビルの更新とその活用方法の検討（市・団体）</li> </ul>		

<b>団体名</b>		<b>2. 武蔵野市土地開発公社</b>							
<b>1. 基本情報</b>									
設立年月日		昭和49年5月1日							
目的		公共用地、公用地等の取得、管理、処分等を行うことにより、地域の秩序ある整備と市民福祉の増進に寄与する。							
背景		<p>地価高騰の進んだ高度成長期においても良好な都市環境の計画的整備を促進するため、公有地の拡大の推進に関する法律第10条に基づき市の全額出資(基本財産500万円)による特別法人として設立された。</p> <p>市と先行取得の覚書を締結することにより、地権者との売買契約交渉、所有権移転登記をし、事業用地の先行取得を行っている。</p>							
市への貢献・成果		<p>市の政策に基づき事業用地の先行取得を行うことにより、地域の秩序を守り、市の街づくりや、市民利用施設建設の推進に寄与してきた。</p> <p>経営破綻する土地開発公社が散見される中、市と緊密に連携し、適切な用地取得と処分を実施することで、健全な財務体質を維持し、市の財政計画への貢献も果たしている。</p>							
<b>2. 経営状況</b>									
財務	要約	(1)出資等の状況							
		①出資・出えんの状況 [千円]							
		合計額		5,000	100.0%	経過			
		内訳	基本財産	5,000	100.0%	設立時	5,000		
		②補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]							
		区分		H22		H23		H24	
		収入総額		5,171,037		4,880,449		4,102,139	
		補助金	委託料	-	-	-	-	-	-
			補助金	139,518	2.7%	137,774	2.8%	91,319	2.2%
			貸付金	-	-	-	-	-	-
計		139,518	2.7%	137,774	2.8%	91,319	2.2%		
支出総額		5,317,946		4,556,969		4,166,477			
収支差額		△146,909		323,481		△64,338			

団体名		2. 武蔵野市土地開発公社																																																															
財務	要約	(2) 団体の財務状況																																																															
		① 要約貸借対照表 [千円]																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">資産</td> <td>流動資産</td> <td>8,293,436</td> <td>10,260,241</td> <td>11,513,863</td> </tr> <tr> <td>(うち土地)</td> <td>(8,043,422)</td> <td>(9,686,975)</td> <td>(11,004,935)</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td>10,725</td> <td>6,714</td> <td>6,407</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td>8,304,161</td> <td>10,266,955</td> <td>11,520,270</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">負債</td> <td>流動負債</td> <td>31,345</td> <td>193,086</td> <td>145,632</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td>7,543,921</td> <td>9,301,240</td> <td>10,530,222</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産</td> <td>728,895</td> <td>772,628</td> <td>844,416</td> </tr> <tr> <td colspan="2">負債・正味財産合計</td> <td>8,304,161</td> <td>10,266,955</td> <td>11,520,270</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	資産	流動資産	8,293,436	10,260,241	11,513,863	(うち土地)	(8,043,422)	(9,686,975)	(11,004,935)	固定資産	10,725	6,714	6,407	資産合計	8,304,161	10,266,955	11,520,270	負債	流動負債	31,345	193,086	145,632	固定負債	7,543,921	9,301,240	10,530,222	正味財産		728,895	772,628	844,416	負債・正味財産合計		8,304,161	10,266,955	11,520,270																			
項目		H22	H23	H24																																																													
資産	流動資産	8,293,436	10,260,241	11,513,863																																																													
	(うち土地)	(8,043,422)	(9,686,975)	(11,004,935)																																																													
	固定資産	10,725	6,714	6,407																																																													
	資産合計	8,304,161	10,266,955	11,520,270																																																													
負債	流動負債	31,345	193,086	145,632																																																													
	固定負債	7,543,921	9,301,240	10,530,222																																																													
正味財産		728,895	772,628	844,416																																																													
負債・正味財産合計		8,304,161	10,266,955	11,520,270																																																													
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">一般正味財産増減の部</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">収益</td> <td>事業収益</td> <td>3,385,528</td> <td>1,429,099</td> <td>1,257,303</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,682</td> <td>622</td> <td>1,645</td> </tr> <tr> <td>収益計</td> <td>3,387,210</td> <td>1,429,721</td> <td>1,258,948</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用</td> <td>事業原価</td> <td>3,292,322</td> <td>1,347,991</td> <td>1,149,889</td> </tr> <tr> <td>販管費</td> <td>56,082</td> <td>34,366</td> <td>37,272</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>196</td> <td>3,631</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>費用計</td> <td>3,348,600</td> <td>1,385,988</td> <td>1,187,161</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期一般正味財産増減額</td> <td>38,610</td> <td>43,733</td> <td>71,787</td> </tr> <tr> <td colspan="5">指定正味財産増減の部</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期指定正味財産増減額</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産期末残高</td> <td>728,895</td> <td>772,628</td> <td>844,416</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	一般正味財産増減の部					収益	事業収益	3,385,528	1,429,099	1,257,303	その他	1,682	622	1,645	収益計	3,387,210	1,429,721	1,258,948	費用	事業原価	3,292,322	1,347,991	1,149,889	販管費	56,082	34,366	37,272	その他	196	3,631	-	費用計	3,348,600	1,385,988	1,187,161	当期一般正味財産増減額		38,610	43,733	71,787	指定正味財産増減の部					当期指定正味財産増減額		-	-	-	正味財産期末残高		728,895	772,628	844,416
項目		H22	H23	H24																																																													
一般正味財産増減の部																																																																	
収益	事業収益	3,385,528	1,429,099	1,257,303																																																													
	その他	1,682	622	1,645																																																													
	収益計	3,387,210	1,429,721	1,258,948																																																													
費用	事業原価	3,292,322	1,347,991	1,149,889																																																													
	販管費	56,082	34,366	37,272																																																													
	その他	196	3,631	-																																																													
	費用計	3,348,600	1,385,988	1,187,161																																																													
当期一般正味財産増減額		38,610	43,733	71,787																																																													
指定正味財産増減の部																																																																	
当期指定正味財産増減額		-	-	-																																																													
正味財産期末残高		728,895	772,628	844,416																																																													
		③ 有利子負債の推移 [千円]																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長期借入金</td> <td>7,543,921</td> <td>9,301,240</td> <td>10,530,222</td> </tr> </tbody> </table>				項目	H22	H23	H24	長期借入金	7,543,921	9,301,240	10,530,222																																																				
項目	H22	H23	H24																																																														
長期借入金	7,543,921	9,301,240	10,530,222																																																														
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収益、すなわち市への用地売却額が3年連続で減少している。</li> <li>● 借入金が増加傾向にある。これにより正味財産比率が平成22年度は8.7%、平成23年度は7.5%平成24年度は7.3%と低下している。</li> </ul>																																																															

<b>団体名</b>		<b>2. 武蔵野市土地開発公社</b>																																																																	
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>保有土地回転期間（＝当期土地保有額／事業原価。保有土地がどれくらいの期間で市に売却されているかを示す指標。）は平成 22 年度が 2.4 年、平成 23 年度が 7.1 年、平成 24 年度が 9.5 年と長くなっている。</li> </ul>																																																																	
人事	要約	<p>(1) 役員の状況 [人]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤役員数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>非常勤役員数</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 職員の状況 [人]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員数</td> <td>4(2)</td> <td>4(3)</td> <td>3(2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>2</td> <td>2(1)</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>固有</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2(2)</td> <td>2(2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>( ) 内は、うち管理職の人数</p> <p>(3) 人件費の推移 [千円]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>23,548</td> <td>29,903</td> <td>30,627</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、人件費に含めている科目は、報酬、給料、職員手当等、共済費、報償費である。</p>		H23	H24	H25	常勤役員数	-	-	-	市派遣	市派遣	-	-	市OB	-	-	その他	-	-	非常勤役員数	11	11	12	市派遣	市派遣	9	9	市OB	2	2	その他	-	-		H23	H24	H25	職員数	4(2)	4(3)	3(2)	市派遣	市派遣	2	2(1)	市OB	-	-	固有	-	-	その他	2(2)	2(2)				1(1)		H22	H23	H24	人件費	23,548	29,903	30,627
		H23	H24	H25																																																															
常勤役員数	-	-	-																																																																
市派遣	市派遣	-	-																																																																
	市OB	-	-																																																																
	その他	-	-																																																																
非常勤役員数	11	11	12																																																																
市派遣	市派遣	9	9																																																																
	市OB	2	2																																																																
	その他	-	-																																																																
	H23	H24	H25																																																																
職員数	4(2)	4(3)	3(2)																																																																
市派遣	市派遣	2	2(1)																																																																
	市OB	-	-																																																																
	固有	-	-																																																																
	その他	2(2)	2(2)																																																																
			1(1)																																																																
	H22	H23	H24																																																																
人件費	23,548	29,903	30,627																																																																
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>人件費が増加傾向にあり、収益に対する人件費の比率も上昇している。</li> <li>平成 25 年度からは職員が 1 名減少しているため、人件費の減少が見込まれる。</li> <li>団体固有の正職員はおらず、市派遣職員とその他職員が実務を担っている。</li> </ul>																																																																	
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の事業用地取得は中長期的には収束の方向に向かう見込みである。</li> <li>用地取得に際して、不動産鑑定等の専門知識が必要となるが、内製化ではなく外注化で対応している。</li> </ul>																																																																	

<b>団体名</b>	<b>2. 武蔵野市土地開発公社</b>																	
経営上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保有土地回転期間が長期化しており、土地開発公社の想定どおりに市への用地売却が進んでいない。</li> <li>● 地価算定技術や関係法令の知識など、用地買収に必要な専門的能力を有する人材が不足している。</li> <li>● 市の派遣職員を中心に折衝業務を行っているため、人事異動により職員が短期間で入れ替わることから、地権者との人的関係を構築することが困難な状況にある。</li> </ul>																	
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>																		
事業の分析・評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公有地先行取得事業</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>現団体</td> <td>補助</td> </tr> </tbody> </table>						No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	公有地先行取得事業	継続	現状程度	現団体	補助
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類													
1	公有地先行取得事業	継続	現状程度	現団体	補助													
事業の見直しの方 向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公有地先行取得事業</td> <td>・用地先行取得のニーズそのものは低下してきているが、事業自体は当面継続する。</td> </tr> </tbody> </table>						No.	事業名	方向性	1	公有地先行取得事業	・用地先行取得のニーズそのものは低下してきているが、事業自体は当面継続する。						
No.	事業名	方向性																
1	公有地先行取得事業	・用地先行取得のニーズそのものは低下してきているが、事業自体は当面継続する。																
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体の存続は、団体の一存で決められるものではなく、市の政策的判断により決定されるものである。市の事業用地取得は中長期的には収束の方向に向かう見込みとなっており、当面存続するが、これら事業用地取得の状況にあわせ、長期的には解散の検討を行う。</li> </ul>																	
<b>4. 見直し案</b>																		
見直しにあたり留 意すべき事項	特になし																	
見直し案	<p>&lt;当面存続&gt;</p> <p>当面は現状のまま存続とするが、長期的には土地購入の行政課題が縮小した時点で、廃止を検討する。</p>																	
見直しに向けての 課題	<p>【短期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (不動産鑑定、補償算定及び折衝のできる) 人材の確保 (団体)</li> </ul> <p>【中長期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃止時期の検討 (市)</li> </ul>																	

<b>団体名</b>		<b>3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社</b>					
<b>1. 基本情報</b>							
設立年月日		昭和 55 年 12 月 1 日					
目的		在宅高齢者等に対しよりよい生きがいと健康づくりの情報と福祉サービスの提供を通じて新しい福祉機能を開発することにより、地域の福祉サービスを補完し、もって福祉全体のレベルアップを図るとともに市民福祉の増進に寄与する。					
背景		<p>昭和 56 年当時、来るべき高齢化社会に対処するため、「契約による福祉サービス供給体系の確立を図るとともに、広く高齢市民のニーズを把握し、それらに対し行政機関では果たし得ない、きめ細かな相談や心理的支援を行い、すべての市民に安心できる老後生活を保障すること」を目的として、任意団体として設立された。</p> <p>創業当時に日本で初めて有償在宅福祉サービス事業を開始するなど、独自の先進的な取組みを行っている。</p> <p>平成 25 年 3 月に公益認定を受け、平成 25 年 4 月 1 日から公益財団法人に移行している。</p>					
市への貢献・成果		<p>高齢者や障害者をはじめとした利用者が住み慣れた地域でいつまでも住み続けられるよう、多種多様な福祉サービスの担い手として市の福祉政策に貢献している。</p> <p>日本で初めて開始した有償在宅福祉サービス事業や、リバースモーゲージのスキームを活用した福祉資金貸付サービスなど、先進的な独自の取組を推進することで、市の福祉向上のみならず、他自治体のモデルとなるような貢献を果たしている。</p>					
<b>2. 経営状況</b>							
財務	要約	(1) 出資等の状況					
		① 出資・出えんの状況 [千円]					
		合計額		415,995	100.0%	経過	
		内訳	基本財産	415,995	100.0%	設立時	1,000
						平成元年 3 月	300,000
						平成 2 年 4 月	90,000
平成 5 年 4 月	4,900						
平成 10 年 1 月	20,095						



団体名		3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社					
財務	要約	②補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]					
		区分	H22		H23		H24
		収入総額	893,615		839,766		780,484
		委託料	228,774	25.6%	224,533	26.7%	212,232 27.2%
		補助金	92,167	10.3%	114,966	13.7%	97,933 12.5%
		貸付金	-	-	-	-	-
		計	320,941	35.9%	339,499	40.4%	310,165 39.7%
		支出総額	944,662		874,327		753,346
		収支差額	△51,047		△34,561		27,138
		(2) 団体の財務状況					
		①要約貸借対照表 [千円]					
		項目	H22	H23	H24		
		資産	流動資産	135,287	98,450	113,168	
			固定資産	1,108,889	1,107,878	1,041,213	
			資産合計	1,244,176	1,206,328	1,154,381	
		負債	流動負債	72,791	70,515	58,095	
			固定負債	54,470	51,245	52,686	
		正味財産	1,116,914	1,084,568	1,043,601		
		負債・正味財産合計	1,244,176	1,206,328	1,154,381		
		②要約正味財産増減計算書 [千円]					
		項目	H22	H23	H24		
		一般正味財産増減の部					
		収益	事業収益	838,241	762,315	697,822	
			その他	-	-	4,835	
			収益計	838,241	762,315	702,658	
		費用	事業費	698,678	678,268	653,397	
			管理費	93,576	113,686	92,804	
			その他	2,365	2,707	-	
			費用計	794,619	794,661	746,201	
		当期一般正味財産増減額	43,621	△32,346	△43,543		
		指定正味財産増減の部					
		当期指定正味財産増減額	-	-	2,576		
		正味財産期末残高	1,116,914	1,084,568	1,043,601		

団体名		3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社				
財務	要約	③有利子負債の推移 なし				
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収益、費用とも3年連続で減少しているが、収益の減少幅が大きいことから、平成23年度に当期一般正味財産増減額が赤字となり、平成24年度にはその赤字額が増加している。</li> <li>● 流動比率は平成22年度が185.9%、平成23年度が139.6%、平成24年度が194.8%となっている。</li> <li>● 正味財産比率は平成22年度が89.8%、平成23年度が89.9%、平成24年度が90.4%となっている。</li> </ul>				
人事	要約	(1) 役員の状況 [人]				
			H23	H24	H25	
		常勤役員数	2	2	2	
			市派遣	1	1	1
			市OB	1	1	1
			その他	-	-	-
		非常勤役員数	7	6	6	
			市派遣	1	-	-
			市OB	-	-	-
			その他	6	6	6
(2) 職員の状況 [人]						
	H23	H24	H25			
職員数	233(2)	221(3)	206(4)			
	市派遣	6(1)	6(1)	6(2)		
	市OB	-	-	4		
	固有	24(1)	26(2)	26(2)		
	その他	203	189	170		
( ) 内は、うち管理職の人数						
(3) 人件費の推移 [千円]						
	H22	H23	H24			
人件費	564,587	561,603	535,983			
なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、退職給付費用、法定福利費、福利厚生費、臨時雇賃金である。						

<b>団体名</b>		<b>3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社</b>
人事	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員数が減少傾向にあり、これに伴い人件費が減少している。</li> <li>● 職員のうち市からの派遣職員の割合は平成 22 年度が 2.6%、平成 23 年度が 2.7%、平成 24 年度が 2.9%と、人的依存度は比較的低い状況にある。</li> </ul>
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本部社屋の賃借料を市が補助していたが、福祉公社が社屋を購入することとしている。</li> <li>● 高齢者総合センター、北町高齢者センターの指定管理者となっている。</li> </ul>
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経常赤字の状況にあり、サービス内容やサービス原価に見合った受益者負担を求めるなど、財政健全化に取り組む必要がある。</li> <li>● 市への人的依存度は高くないが、市派遣職員が法人運営を総括する主要な事務を担っていることから、将来を見据え団体固有職員が法人運営に関わる必要性が生じている。</li> </ul>

### 3. 基本方針に基づく検討

事業の分析・評価	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	1	有償在宅福祉サービス事業	廃止	-	-	補助
	2	普及啓発事業	継続	現状程度	現団体	自主
	3	権利擁護事業	継続	要検討	現団体	補助
	4	地域福祉権利擁護事業	継続	現状程度	現団体	委託 <sup>13</sup>
	5	成年後見事業	継続	現状程度	現団体	補助
	6	居宅介護支援事業	継続	現状程度	要検討	自主
	7	訪問介護サービス事業	継続	現状程度	要検討	自主
	8	居宅介護サービス事業 (障害者総合支援法)	継続	現状程度	要検討	自主
	9	生活支援事業（生活支援ヘルパー派遣事業、認知症高齢者見守り事業）	継続	現状程度	要検討	委託
	10	ホームヘルパー養成等講習事業	継続	現状程度	要検討	補助 委託

<sup>13</sup> 東京都社会福祉協議会からの委託である。

団体名	3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社					
事業の分析・評価	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	11	居宅介護支援事業所 (在宅介護支援センター)	継続	現状程度	現団体	委託 自主
	12	ふれあいまつもと運営 事業(社会活動センター)	継続	要検討	要検討	自主
	13	高齢者総合センターデ イサービスセンター	継続	要検討	要検討	指定管理
	14	高齢者総合センター (社会活動センター)	継続	現状程度	要検討	指定管理
	15	シルバーピア生活援助 員業務	継続	現状程度	現団体	委託
	16	補助器具センター事業 (介護保険住宅改修事 前申請審査等含む)	継続	現状程度	現団体	委託
	17	北町高齢者センターコ ミュニティケアサロン	継続	現状程度	現団体	指定管理
	18	北町高齢者センター (小規模サービスハウ ス)	継続	現状程度	現団体	指定管理
	19	世代間交流事業 境南 小学校ふれあいサロン (社会活動センター)	継続	現状程度	現団体	委託
	20	高齢者総合センター在 宅介護支援センター管 理運営	継続	要検討	現団体	委託
21	高齢者食事サービス事 業	継続	現状程度	要検討	委託	

団体名	3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	1	有償在宅福祉サービス事業	・福祉資金貸付事業以外の事業は廃止する。
	2	普及啓発事業	・市や民間でも同種の事業があるため、市と連携しつつ事業を継続する。
	3	権利擁護事業	・No. 4 の事業と一体的に提供していく。
	4	地域福祉権利擁護事業	・引き続き当団体により事業を継続する。
	5	成年後見事業	・引き続き当団体により事業を継続する。
	6	居宅介護支援事業	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、担い手の見直しを含め、財援団体として担うべき役割について検討を行う。
	7	訪問介護サービス事業	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、担い手の見直しを含め、財援団体として担うべき役割について検討を行う。
	8	居宅介護サービス事業 (障害者総合支援法)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、担い手の見直しを含め、財援団体として担うべき役割について検討を行う。
	9	生活支援事業（生活支援ヘルパー派遣事業、認知症高齢者見守り事業）	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、担い手の見直しを含め、財援団体として担うべき役割について検討を行う。
	10	ホームヘルパー養成等講習事業	・民間の実施状況を勘案して、ニーズに適応した事業展開を検討する。
	11	居宅介護支援事業所 (在宅介護支援センター)	・引き続き当団体により事業を継続する。
	12	ふれあいまつもと運営事業（社会活動センター）	・当面は当団体が継続するが、赤字事業であり、民間でも類似の事業があるため、事業の在り方を含め、運営方法の見直しを検討する。

団体名	3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	13	高齢者総合センターデ イサービスセンター	・当面は当団体が継続するが、民間や他の財援 団体でも実施していることから、介護保険制度 の動向も踏まえながら役割分担を明確にして いく。
	14	高齢者総合センター (社会活動センター)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可 能であるため、地域との連携状況等も踏まえな がら、必要に応じて適切な担い手の検討を行 う。
	15	シルバーピア生活援助 員業務	・引き続き当団体により事業を継続する。
	16	補助器具センター事業 (介護保険住宅改修事 前申請審査等含む)	・引き続き当団体により事業を継続する。
	17	北町高齢者センターコ ミュニティケアサロン	・引き続き当団体により事業を継続する。
	18	北町高齢者センター (小規模サービスハウ ス)	・引き続き当団体により事業を継続する。
	19	世代間交流事業 境南 小学校ふれあいサロン (社会活動センター)	・引き続き当団体により事業を継続する。
	20	高齢者総合センター在 宅介護支援センター管 理運営	・引き続き当団体により事業を継続する。
	21	高齢者食事サービス事 業	・当面は当団体が継続するが、民間や他の財援 団体でも実施していることから、必要に応じて 適切な担い手の検討を行う。
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者福祉を中心とした様々な事業を実施しており、民間事業者によって代替可能な事業も実施している。権利擁護事業や、困難ケースへの対応など、より公益性が高く民間事業者が実施しづらいサービスに重点を置くとともに、事業の効率化と質の向上を図る。 市民共助による福祉を推進していくため、福祉公社の役割の明確化を行った上で市民社協と統合する。</li> </ul>		

団体名	3. 公益財団法人 武蔵野市福祉公社
<b>4. 見直し案</b>	
見直しにあたり留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉公社が実施している事業の中には、民間事業者により実施可能な事業が存在するが、福祉公社は市内の民間事業者等に対して指導や研修を実施する役割を担っていることから、福祉公社の実務を他の主体に移管すると、これら指導や研修の役割を担うことが困難になることが懸念される。</li> </ul>
見直し案	<p>&lt;中長期的に市民社協と統合&gt;</p> <p>権利擁護事業や困難ケースへの対応など、より公益性が高く民間事業者が実施しづらいサービスに重点を置くとともに、市民共助による福祉を推進していくため、福祉公社の役割の明確化を行った上で市民社協と統合する。</p>
見直しに向けての課題	<p><b>【短期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームヘルプセンターの継続検討（市・団体）</li> <li>● 福祉公社の役割の明確化（市・団体）</li> <li>● 市民社協との統合手法の検討（市・団体）</li> </ul> <p><b>【中長期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営能力を持つ人材の育成（団体）</li> </ul>

<b>団体名</b>		4. 公益財団法人 武蔵野文化事業団					
<b>1. 基本情報</b>							
設立年月日		昭和 59 年 11 月 1 日					
目的		市民に優れた芸術文化を提供し、市民みずから行う芸術文化の創造活動を援助し、市民の文化、福祉の向上を図り、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与する。					
背景		<p>市の文化施設の管理運営を担う団体として、昭和 59 年 11 月に、武蔵野市民文化会館の開館に合わせて財団法人武蔵野市文化事業団として設立された。</p> <p>設立当初は、武蔵野芸能劇場、武蔵野市民文化会館、武蔵野公会堂の管理運営を行っていたが、その後、武蔵野スイングホール、武蔵野市立吉祥寺美術館、松露庵の管理運営をあわせて行っている。指定管理者制度導入後は、上記の施設に加え、吉祥寺シアター、かたらいの道市民スペースの指定管理者として活動している。</p> <p>平成 23 年 4 月に公益認定を受け、公益財団法人に移行している。</p>					
市への貢献・成果		<p>国内外の一流アーティストを招き、質の高い芸術文化事業を低廉な価格で提供することで、市民が芸術文化に身近に触れることのできる機会を提供しており、販売した公演のチケットはほぼ完売するなど好評を博している。</p> <p>また、公共施設の管理運営の担い手として、市と連携して防災ボランティア訓練を実施するなど、単に文化施設の指定管理者としての事業を行うだけでなく、市民の安全を踏まえた施設の管理運営を行っている。</p>					
<b>2. 経営状況</b>							
財務	要約	(1) 出資等の状況					
		① 出資・出えんの状況 [千円]					
		合計額		801,720	100.0%	経過	
		内訳	基本財産				
	武蔵野市	800,000	99.8%	設立時	500,000		
				平成 2 年 4 月	100,000		
				平成 3 年 4 月	100,000		
				平成 4 年 4 月	100,000		
	三菱東京 UFJ 銀行	1,000	0.1%	設立時			
	その他	720	0.1%	設立時			



団体名		4. 公益財団法人 武蔵野文化事業団							
財務	要約	②補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]							
		区分	H22		H23		H24		
		収入総額	962,330		947,790		936,893		
		委託料	763,272	79.3%	770,489	81.3%	757,639	80.9%	
		補助金	700	0.1%	800	0.1%	1,600	0.2%	
		貸付金	-	-	-	-	-	-	
		計	763,972	79.4%	771,289	81.3%	759,239	81.0%	
		支出総額	912,330		897,790		926,913		
		収支差額	50,000		50,000		9,981		
		(2) 団体の財務状況							
		①要約貸借対照表 [千円]							
		項目	H22		H23		H24		
		資産	流動資産	230,763		179,335		210,194	
			固定資産	862,872		942,809		911,764	
			資産合計	1,093,635		1,122,144		1,121,958	
		負債	流動負債	179,497		214,057		180,441	
			固定負債	19,605		22,093		65,134	
正味財産	894,534		885,993		876,383				
負債・正味財産合計	1,093,635		1,122,144		1,121,958				
②要約正味財産増減計算書 [千円]									
項目	H22		H23		H24				
一般正味財産増減の部									
収益	事業収益	121,786		104,766		149,787			
	その他	788,173		792,316		787,105			
	収益計	909,959		897,082		936,893			
費用	事業費	614,293		836,532		855,319			
	管理費	217,968		6,755		10,265			
	その他	80,491		60,829		80,918			
	費用計	912,752		904,118		946,503			
当期一般正味財産増減額	△2,793		△8,540		△9,609				
指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額	-		-		-				
正味財産期末残高	894,534		885,993		876,383				

団体名		4. 公益財団法人 武蔵野文化事業団				
財務	要約	③有利子負債の推移 [千円]				
		項目	H22	H23	H24	
		短期リース債務	-	86,113	20,248	
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収益、費用は平成23年度に落ち込んだものの、平成24年度に増加している。</li> <li>● 収入の約8割が指定管理委託料であり市への財政的依存度が高い状況にある。</li> <li>● 当期一般正味財産増減額は3年連続で赤字が続いている。</li> <li>● 流動比率は平成22年度が128.5%、平成23年度が83.7%、平成24年度が116.4%となっているが、流動負債の一部はチケット販売等の前受金であることから、短期的な財務安全性は概ね確保されている。</li> </ul>				
人事	要約	(1) 役員の状況 [人]				
			H23	H24	H25	
		常勤役員数	1	2	2	
			市派遣	1	1	1
			市OB	-	1	1
			その他	-	-	-
		非常勤役員数	7	6	6	
			市派遣	1	-	-
			市OB	2	2	2
			その他	4	4	4
		(2) 職員の状況 [人]				
			H23	H24	H25	
職員数	40 (4)	39 (3)	39(3)			
	市派遣	3 (3)	2 (2)	1(1)		
	市OB	5(1)	5	5		
	固有	9	9(1)	9(2)		
	その他	23	23	24		
( ) 内は、うち管理職の人数						
(3) 人件費の推移 [千円]						
	H22	H23	H24			
人件費	250,232	238,028	214,825			
なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、退職金掛金、退職給付費用、福利厚生費、臨時雇賃金である。						

<b>団体名</b>		<b>4. 公益財団法人 武蔵野文化事業団</b>																																																																						
人事	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人件費が減少傾向にあり、収益に対する人件費の比率も低下している。</li> <li>● 市からの派遣職員の割合は低下しており、市への人的依存度は比較的低い状況にある。</li> </ul>																																																																						
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公会堂、市民文化会館、芸能劇場、スイングホール、吉祥寺美術館、松露庵、吉祥寺シアター、かたらいの道市民スペースの指定管理者となっている。</li> <li>● 文化事業団が指定管理者となっている公の施設の利用について、武蔵野市民より近隣市民の利用割合が高くなっている。</li> <li>● 一部の指定管理対象施設の老朽化が進んでいる。</li> <li>● 指定管理対象施設である吉祥寺美術館は、以前は結婚式場であり、美術館にあわせた建物仕様となっておらず、美術品の保管に適した温度・湿度環境が整っていない。また、静かに鑑賞することを目的に利用される美術館に音楽室が併設されており、環境面で課題を抱えている。</li> <li>● 市や他の財援団体が実施している生涯学習事業のなかにも文化を取り扱うものがある。</li> </ul>																																																																						
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市への財政的依存度が高い中で赤字経営となっていることから、事業費、管理費の抑制や受益者負担額の見直し等に務め、経営の健全化を進める必要がある。</li> <li>● 指定管理事業を中心に行っているが、一部の指定管理対象施設の老朽化が進んでいることから、これらの改修等による休館の影響で収入が減少し経営を圧迫することが懸念される。</li> </ul>																																																																						
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>																																																																								
事業の分析・評価		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>芸術文化振興事業</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>要検討</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文化団体活動振興事業</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>現団体</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>武蔵野公会堂</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>要検討</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>武蔵野市民文化会館</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>現団体</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>武蔵野芸能劇場</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>要検討</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>武蔵野スイングホール</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>要検討</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>吉祥寺美術館</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>現団体</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>松露庵</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>要検討</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>吉祥寺シアター</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>現団体</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>かたらいの道市民スペース</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>要検討</td> <td>指定管理</td> </tr> </tbody> </table>					No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	芸術文化振興事業	継続	要検討	要検討	指定管理	2	文化団体活動振興事業	継続	要検討	現団体	指定管理	3	武蔵野公会堂	継続	現状程度	要検討	指定管理	4	武蔵野市民文化会館	継続	現状程度	現団体	指定管理	5	武蔵野芸能劇場	継続	現状程度	要検討	指定管理	6	武蔵野スイングホール	継続	現状程度	要検討	指定管理	7	吉祥寺美術館	継続	現状程度	現団体	指定管理	8	松露庵	継続	要検討	要検討	指定管理	9	吉祥寺シアター	継続	現状程度	現団体	指定管理	10	かたらいの道市民スペース	継続	現状程度	要検討	指定管理
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類																																																																			
1	芸術文化振興事業	継続	要検討	要検討	指定管理																																																																			
2	文化団体活動振興事業	継続	要検討	現団体	指定管理																																																																			
3	武蔵野公会堂	継続	現状程度	要検討	指定管理																																																																			
4	武蔵野市民文化会館	継続	現状程度	現団体	指定管理																																																																			
5	武蔵野芸能劇場	継続	現状程度	要検討	指定管理																																																																			
6	武蔵野スイングホール	継続	現状程度	要検討	指定管理																																																																			
7	吉祥寺美術館	継続	現状程度	現団体	指定管理																																																																			
8	松露庵	継続	要検討	要検討	指定管理																																																																			
9	吉祥寺シアター	継続	現状程度	現団体	指定管理																																																																			
10	かたらいの道市民スペース	継続	現状程度	要検討	指定管理																																																																			

団体名	4. 公益財団法人 武蔵野文化事業団		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	1	芸術文化振興事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当団体の意義や強みに沿った事業は当団体が実施し、必ずしも当団体が実施する必要のない事業は他の担い手を検討する。</li> <li>・生涯学習においても文化がその範疇になっていることから、生涯学習事業団との役割分担を検討する。</li> </ul>
	2	文化団体活動振興事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業規模及び対象の適切性を検討の上、事業を継続する。</li> </ul>
	3	武蔵野公会堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型的管理業務が主であり、民間でも実施可能であるため、適切な管理運営方法や担い手の検討を行う。</li> </ul>
	4	武蔵野市民文化会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き当団体により事業を継続する。</li> </ul>
	5	武蔵野芸能劇場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型的管理業務が主であり、民間でも実施可能であるため、適切な管理運営方法や担い手の検討を行う。</li> </ul>
	6	武蔵野スイングホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型的管理業務が主であり、民間でも実施可能であるため、適切な管理運営方法や担い手の検討を行う。</li> </ul>
	7	吉祥寺美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き当団体により事業を継続する。</li> </ul>
	8	松露庵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型的管理業務が主であり、民間でも実施可能であるため、適切な管理運営方法や担い手の検討を行う。</li> <li>・公の施設として引き続き市税を投入して管理運営を継続する必要があるか検討する。</li> </ul>
	9	吉祥寺シアター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き当団体により事業を継続する。</li> </ul>
	10	かたらいの道市民スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型的管理業務が主であり、民間でも実施可能であるため、適切な管理運営方法や担い手の検討を行う。</li> </ul>
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定型的管理業務を中心とする一部施設以外の文化施設については、引き続き指定管理者として管理運営を行う。</li> <li>● 文化、生涯学習、スポーツは関連性が高く、今後一体的に推進することでより効果・効率が高まると考えられるため、中長期的に生涯学習事業団と統合</li> </ul>		

<b>団体名</b>	<b>4. 公益財団法人 武蔵野文化事業団</b>
	し、体制を強化した上で、事業の効率化と質の向上を図る。
<b>4. 見直し案</b>	
見直しにあたり留意すべき事項	特になし
見直し案	<p>&lt;中長期的に生涯学習事業団と統合&gt;</p> <p>生涯学習分野とスポーツ分野を所管している生涯学習事業団と統合することで、文化・生涯学習・スポーツ分野の市民サービスを一体として推進する。</p>
見直しに向けての課題	<p><b>【短期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 定型的管理業務を主とする指定管理施設（スイングホール、公会堂、松露庵、かたらいの道市民スペース、芸能劇場）の適切な管理運営方法や担い手の検討（市）</li> </ul> <p><b>【中長期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「文化」に関する市の考え方や所管部署などの整理（市）</li> <li>● 吉祥寺美術館の今後の在り方の検討（市・団体）</li> <li>● 生涯学習事業団と統合した場合の所管課の検討（市）</li> </ul>

<b>団体名</b>		5. 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団							
<b>1. 基本情報</b>									
設立年月日		昭和 62 年 10 月 1 日							
目的		地域住民の生涯にわたる主体的な健康づくりを専門的に支援し、健康観の向上を図ることによって、健康寿命の延伸と健康なまちづくりに寄与する。							
背景		<p>健診事業等の円滑な推進を図ることを目的として、昭和 62 年 10 月に財団法人武蔵野健康開発事業団として設立され、医療職を含む物的・人的資源を確保し、二次予防を中心とした事業展開を図ってきた。</p> <p>平成 21 年 10 月に健康づくり支援センターが市から移管され、地域との連携による健康づくり意識の普及・啓発を推進する役割も担っている。</p> <p>また、平成 23 年 4 月に公益認定を受け、公益財団法人に移行し、一次予防を強化することで、一次予防と二次予防の連携を中心とした事業を展開している。</p>							
市への貢献・成果		市民の健康づくりの担い手として、市や市医師会と連携して、各種検診・健診事業や検査事業などを行ってきた。また、市から健康づくり支援センターの移管を受け、健康づくりのための市民向けの各種教室を開催するなど、市民にとって身近な存在となっている。平成 24 年 9 月には保険医療機関指定を受け、地域医療機関につながる一端を担うため、保険診療の一般外来を開始するなど、その役割を広げている。							
<b>2. 経営状況</b>									
財務	要約	(1)出資等の状況							
		①出資・出えんの状況 [千円]							
		合計額		500,000	100.0%	経過			
		内訳	武蔵野市	400,000	80.0%	設立時	400,000		
			横河電機(株)	100,000	20.0%	昭和 63 年 4 月	100,000		
		②補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]							
		区分		H22		H23		H24	
		収入総額		357,043		303,312		296,856	
			委託料	65,618	18.4%	66,936	22.1%	58,419	19.7%
			補助金	171,605	48.1%	156,339	51.5%	156,531	52.7%
	貸付金	-	-	-	-	-	-		
	計	237,223	66.4%	223,275	73.6%	214,950	72.4%		
支出総額		333,550		302,040		298,272			
収支差額		23,493		1,272		△1,416			

団体名		5. 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団			
財務	要約	(2) 団体の財務状況			
		① 要約貸借対照表 [千円]			
		項目	H22	H23	H24
	資産	流動資産	43,151	57,496	29,922
		固定資産	755,060	748,244	768,963
		資産合計	798,212	805,740	798,885
	負債	流動負債	19,658	27,114	18,156
		固定負債	17,920	17,629	21,184
		正味財産	760,634	760,997	759,545
		負債・正味財産合計	798,212	805,740	798,885
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]			
		項目	H22	H23	H24
		一般正味財産増減の部			
	収益	事業収益	316,312	303,312	296,855
		その他	191	-	-
		収益計	316,503	303,312	296,855
	費用	事業費	254,335	241,731	270,822
		管理費	66,119	60,310	27,451
		その他	256	909	35
		費用計	320,710	302,950	298,307
		当期一般正味財産増減額	△4,207	363	△1,452
		指定正味財産増減の部			
		当期指定正味財産増減額	-	-	-
		正味財産期末残高	760,634	760,997	759,545
		③ 有利子負債の推移			
		なし			
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 24 年度は、事業収益が減少している一方で、費用全体は下がっているものの事業費が増加しており、結果として当期一般正味財産増減額が赤字となっている。</li> <li>● 固定資産として高額な精密医療機器を所有している。</li> <li>● 流動比率は平成 22 年度が 219.5%、平成 23 年度が 212.0%、平成 24 年度が 164.8%となっている。</li> </ul>			

団体名		5. 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団				
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収益の約 2 割が市からの委託料、約 5 割が市からの補助金(運営費補助金、人間ドック事業補助金)と、収益の約 7 割が市からのものであり、財務的依存度が高い。</li> <li>● 正味財産比率は約 95%と高い状況にある。</li> </ul>				
人事	要約	(1) 役員の状況 [人]				
			H23	H24	H25	
		常勤役員数	1	1	1	
			市派遣	-	-	-
			市OB	1	1	1
			その他	-	-	-
		非常勤役員数	5	5	5	
			市派遣	-	-	-
			市OB	1	1	1
			その他	4	4	4
(2) 職員の状況 [人]						
	H23	H24	H25			
職員数	38(2)	38(2)	38(1)			
	市派遣	7(1)	7(1)	4(1)		
	市OB	-	-	-		
	固有	9	9	11		
	その他	22(1)	22(1)	23		
( ) 内は、うち管理職の人数						
(3) 人件費の推移 [千円]						
	H22	H23	H24			
人件費	195,851	184,940	185,494			
なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、委員報酬、退職給付費、福利厚生費、臨時雇賃金、賞与引当金繰入額である。						
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人員数、人件費とも概ね横ばいで推移しているが、収益が減少していることから、収益に占める人件費の割合が高まっている。</li> <li>● 市派遣職員が 3 名減少し、固有の職員が 2 名、その他の職員が 1 名増加しており、市への人的依存度が低下している。</li> </ul>				
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 24 年 9 月に保険医療機関の指定を受け、保険診療の実施が可能となった。</li> </ul>				



<b>団体名</b>	<b>5. 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団</b>
経営上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収益の市への依存度が高く、市からの委託、補助等の関与がなければ、団体の存続が困難な状況にある。</li> <li>● 市への財政的依存度が高い中で赤字経営となっていることから、事業費、管理費の抑制や受診者数の増加、受益者負担額の見直し等に務め、経営の健全化を進める必要がある。</li> <li>● 市からの財政的支援の結果、財務的な安全性は一定程度の水準にある。</li> <li>● 高額な医療機器等を固定資産として保有しており、維持更新等に係る資金確保のリスクを抱えている。</li> </ul>

### 3. 基本方針に基づく検討

事業の分析・評価	3. 基本方針に基づく検討					
	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	1	一次予防及び二次予防の連携による健康増進事業	継続	要検討	現団体	自主
	2	市から受託する各種検診・健診に関する事業	継続	現状程度	現団体	委託
	3	地域医療機関との連携による各種検査事業	継続	要検討	現団体	自主
	4	総合健康診査（人間ドック）事業	継続	要検討	要検討	自主
	5	職域健診事業	継続	要検討	現団体	自主
	6	地域との連携を主体とした健康づくり意識の普及・啓発に関する事業（各種講座・教室等）	継続	現状程度	要検討	委託
	7	健康づくりに関する調査研究事業	継続	要検討	現団体	自主
	8	健康づくり情報発信に関する事業	継続	現状程度	現団体	補助

団体名	5. 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	1	一次予防及び二次予防の連携による健康増進事業	・市の狙いである一次予防と二次予防の連携を図る事業であるため、現団体で継続し、ニーズに適応した事業展開を検討する。
	2	市から受託する各種検診・健診に関する事業	・一括受託のメリットを生かし、一定水準を確保した柔軟な対応が可能となっていることから、引き続き現団体で継続する。
	3	地域医療機関との連携による各種検査事業	・現団体が有する医療機器を用いて実施する事業であり、当面継続するものの、医療機器を保有する資金面でのリスクや、利用状況を勘案して、適切な担い手を継続して検討する。
	4	総合健康診査（人間ドック）事業	・公益法人としての役割を踏まえた上で、補助の在り方について検討する。
	5	職域健診事業	・民間等でも実施可能であるが、特に障がい者福祉の観点から、行政が関与し引き続き現団体で継続する。 ・市内小規模事業者が受診しやすい健診日程の確保を検討する。
	6	地域との連携を主体とした健康づくり意識の普及・啓発に関する事業（各種講座・教室等）	・他財援団体でも同種事業を実施しているため、役割分担を明確にし、必要に応じ他財援団体に移管することを検討する。
	7	健康づくりに関する調査研究事業	・市民の健康づくりに必要な調査研究を行うため、市所管課と連携して実施する。
	8	健康づくり情報発信に関する事業	・他財援団体でも同種事業を実施しているため、役割分担を明確にした上で、当団体が引き続き実施する。
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一部事業については民業圧迫が懸念されるが、平成 24 年 9 月に保険医療機関の指定を受け、団体の役割の整理を進めていることから、当面は団体の存続を図る。</li> <li>● 健康づくりに関するソフト事業は、他の財援団体でも実施していることから、役割分担により当団体の役割を明確にする必要があり、事業の廃止や移管が進んだ場合には、統廃合について検討する。</li> </ul>		

団体名	5. 公益財団法人 武蔵野健康づくり事業団
4. 見直し案	
見直しにあたり留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 検査事業については、横河電機㈱の資本提供を受けていること、医師会の依頼に基づいて実施していることを勘案し、慎重に方向性を検討する必要がある。</li> <li>● 平成 26 年度に設置する地域医療の在り方検討委員会の議論を踏まえて検討する。</li> </ul>
見直し案	<p>&lt;当面存続&gt;</p> <p>当面は現状のまま存続とするが、今後さらに事業の目的・手法等の再検討を行い、役割達成による事業廃止等が進んだ場合、団体の統廃合についてあらためて検討する。</p>
見直しに向けての課題	<p>【短期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康づくりや食育に関する事業についての生涯学習事業団や給食財団など他団体との役割分担（団体）</li> <li>● 健康課との役割分担の明確化（市・団体）</li> <li>● 総合健康診査（人間ドック）事業において、公益法人としての役割を踏まえた上で補助の在り方についての検討（市・団体）</li> </ul> <p>【中長期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 依頼検査業務の在り方の検討（団体）</li> <li>● 高額医療機器の保有の必要性の検討（市・団体）</li> <li>● 健康づくり施策全般についての適切な役割分担の検討（市）</li> <li>● 他団体との統合可能性の検討（市）</li> </ul>

<b>団体名</b>		6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団							
<b>1. 基本情報</b>									
設立年月日		平成元年9月29日							
目的		すべてのライフステージにおいて、市民一人ひとりが自発的にスポーツや学習、交流等の生涯学習活動に取り組めるような環境を整備し、生涯を通じた健やかな心身の育成と地域社会の発展を推進し、もって潤いのある豊かな市民生活の形成に寄与する。							
背景		<p>市の体育施設の管理のために、市より全額出資を受け、スポーツ振興事業団として設立された。</p> <p>生涯学習のニーズの高まりと、武蔵野プレイスの開館にあわせて、平成22年度に武蔵野生涯学習振興事業団と名称変更し、生涯学習事業を実施している。</p> <p>平成23年4月に公益認定を受け、公益財団法人に移行している。</p>							
市への貢献・成果		<p>設立当初は、スポーツ振興事業団として、市のスポーツ振興の担い手として寄与してきた。平成23年7月にオープンした、図書館、生涯学習支援、青少年活動支援、市民活動機能の4機能を合わせ持つ、「ひと・まち・情報創造館武蔵野プレイス」（武蔵野プレイス）の指定管理者となつてからは、単にスポーツにとどまらず、多様化する市民ニーズに対応した幅広いサービスを実施し、市民の心身の健康増進の牽引役として、市政への貢献を果たしている。</p>							
<b>2. 経営状況</b>									
財務	要約	(1) 出資等の状況							
		① 出資・出えんの状況 [千円]							
		合計額		500,000	100.0%	経過			
		内訳	基本財産	500,000	100.0%	設立時	500,000		
		② 補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]							
		区分		H22		H23		H24	
		収入総額		709,048		1,166,683		1,156,916	
			委託料	670,841	94.6%	1,127,921	96.7%	1,115,867	96.5%
			補助金	-	-	-	-	-	-
			貸付金	-	-	-	-	-	-
	計	670,841	94.6%	1,127,921	96.7%	1,115,867	96.5%		
支出総額		709,048		1,166,272		1,152,744			
収支差額		-		411		4,172			

<b>団体名</b>		<b>6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団</b>				
財務	要約	(2) 団体の財務状況				
		① 要約貸借対照表 [千円]				
		項目	H22	H23	H24	
		資産	流動資産	70,829	173,373	112,771
			固定資産	552,572	641,477	621,626
			資産合計	623,401	814,849	734,397
		負債	流動負債	70,829	172,961	111,535
			固定負債	43,440	128,868	105,913
		正味財産	509,132	513,020	516,949	
		負債・正味財産合計	623,401	814,849	734,397	
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]				
		項目	H22	H23	H24	
		一般正味財産増減の部				
		収益	事業収益	704,720	1,161,016	1,150,830
			その他	4,329	5,668	6,146
			収益計	709,048	1,166,683	1,156,976
		費用	事業費	586,326	1,014,206	1,065,867
			管理費	85,844	37,717	37,796
			その他	40,653	110,871	49,385
			費用計	712,822	1,162,795	1,153,047
		当期一般正味財産増減額	△3,774	3,888	3,929	
		指定正味財産増減の部				
		当期指定正味財産増減額	-	-	-	
		正味財産期末残高	509,132	513,020	516,949	
		③ 有利子負債の推移 [千円]				
		項目	H22	H23	H24	
		リース債務	22,887	103,776	77,331	
現況		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 23 年度に武蔵野プレイスがオープンし、生涯学習事業団が指定管理者となったことを受け、平成 22 年度から平成 23 年度にかけて、収益、費用、資産、負債の金額が大きく増加している。</li> </ul>				

団体名		6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団																																																														
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入の 96.5%が市からの委託料であり、市への財政的依存度が極めて高い状況にある。</li> <li>● 流動比率は平成 22 年度が 100.0%、平成 23 年度が 100.2%、平成 24 年度が 101.1%と、100%程度で推移している。</li> </ul>																																																														
人事	要約	<p>(1) 役員の状況 [人]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤役員数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>非常勤役員数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 職員の状況 [人]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員数</td> <td>96 (4)</td> <td>108 (4)</td> <td>111 (4)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>11 (1)</td> <td>11 (1)</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>固有</td> <td>27 (3)</td> <td>27 (3)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>58</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> <p>( ) 内は、うち管理職の人数</p> <p>(3) 人件費の推移 [千円]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>253,576</td> <td>507,813</td> <td>515,886</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、顧問報酬、法定福利費、福利厚生費、退職給付費用、臨時雇賃金、退職給付繰入金、中小企業退職金掛金である。</p>			H23	H24	H25	常勤役員数	3	3	3	市派遣	市派遣	2	2	市OB	1	1	その他	-	-	非常勤役員数	7	7	6	市派遣	市派遣	1	1	市OB	1	1	その他	5	5		H23	H24	H25	職員数	96 (4)	108 (4)	111 (4)	市派遣	市派遣	11 (1)	11 (1)	市OB	-	-	固有	27 (3)	27 (3)	その他	58	70		H22	H23	H24	人件費	253,576	507,813	515,886
	H23	H24	H25																																																													
常勤役員数	3	3	3																																																													
市派遣	市派遣	2	2																																																													
	市OB	1	1																																																													
	その他	-	-																																																													
非常勤役員数	7	7	6																																																													
市派遣	市派遣	1	1																																																													
	市OB	1	1																																																													
	その他	5	5																																																													
	H23	H24	H25																																																													
職員数	96 (4)	108 (4)	111 (4)																																																													
市派遣	市派遣	11 (1)	11 (1)																																																													
	市OB	-	-																																																													
	固有	27 (3)	27 (3)																																																													
	その他	58	70																																																													
	H22	H23	H24																																																													
人件費	253,576	507,813	515,886																																																													
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 23 年度に武蔵野プレイスがオープンし、生涯学習事業団が指定管理者となったことを受け、平成 22 年度から平成 23 年度にかけて、職員数や人件費が増加している。</li> <li>● 市からの派遣職員の割合は平成 25 年度は 9.0%であり、市への人的依存度は比較的低い状況にある。</li> </ul>																																																														

<b>団体名</b>		<b>6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団</b>
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市や他の財援団体でも生涯学習に関連する事業を実施している。</li> <li>● 武蔵野プレイス、境南ふれあい広場公園、自然の村、陸上競技場、軟式野球場、庭球場、市営プール、総合体育館、緑町スポーツ広場の指定管理者となっている。</li> <li>● 他自治体の貸館を中心としたスポーツ施設については、民間事業者が指定管理者となるケースが見られる。</li> </ul>
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 流動比率がやや低く、短期的な財務安全性に対する懸念がある。特に、市からの指定管理委託料への依存度が高いことから、短期的な資金繰りに留意する必要がある。</li> <li>● 指定管理事業を中心に行っているが、一部の指定管理対象施設の老朽化が進んでいることから、これらの改修等による休館の影響で委託料収入が減少し経営を圧迫することが懸念される。</li> <li>● 指定管理者として今後も市の公の施設の管理運営を行おうとした場合、民間事業者と競合できるだけのサービスの維持・向上が求められる。</li> </ul>

### 3. 基本方針に基づく検討

事業の分析・評価						
	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	1	野外活動事業（自然観察・学習・体験事業）	継続	現状程度	要検討	指定管理
	2	読書の普及・推進事業	継続	現状程度	現団体	指定管理
	3	講座・講演会等事業（プレイス生涯学習講座）	継続	要検討	現団体	指定管理
	4	イベント事業（プレイス総合イベント、境南ふれあい広場公園活用事業）	継続	要検討	現団体	指定管理
	5	連携事業（大学、市民団体、地域企業等）	継続	要検討	要検討	指定管理委託
	6	地域映像アーカイブ運営事業	継続	現状程度	現団体	指定管理
	7	市民活動支援事業（プレイス）	継続	現状程度	現団体	指定管理

団体名	6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団					
事業の分析・評価	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	8	青少年活動支援事業 (プレイス)	継続	要検討	現団体	指定管理
	9	生涯学習情報発信事業	継続	要検討	現団体	指定管理
	10	プレイスPR事業	継続	現状程度	現団体	指定管理
	11	市民による運営参画推進事業	継続	要検討	現団体	指定管理
	12	スポーツ教室事業(各プログラム、ワンデーレッスン)	継続	要検討	現団体	指定管理
	13	野外活動事業(登山、キャンプ、アウトドアスポーツ)	継続	現状程度	要検討	指定管理
	14	スポーツイベント事業	継続	要検討	現団体	指定管理
	15	個人開放事業(トレーニング室・体力測定室、種目別個人開放事業)	継続	現状程度	現団体	指定管理
	16	スポーツ関連情報発信・提供事業	継続	要検討	現団体	指定管理
	17	中央公園スポーツ広場管理運営事業	継続	現状程度	現団体	委託
	18	四中温水プール管理運営事業	継続	現状程度	現団体	委託
	19	体育施設管理運営事業(陸上競技場)	継続	現状程度	要検討	指定管理
	20	体育施設管理運営事業(軟式野球場)	継続	現状程度	要検討	指定管理
	21	体育施設管理運営事業(庭球場)	継続	現状程度	要検討	指定管理
	22	体育施設管理運営事業(プール)	継続	現状程度	要検討	指定管理
23	体育施設管理運営事業(温水プール)	継続	現状程度	要検討	指定管理	



団体名	6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団						
事業の分析・評価	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	
	24	体育施設管理運営事業 (総合体育館)	継続	現状程度	要検討	指定管理	
	25	体育施設管理運営事業 (緑町スポーツ広場)	継続	現状程度	要検討	指定管理	
	26	プレイス管理運営事業	継続	現状程度	現団体	指定管理	
	27	境南ふれあい広場公園 管理運営事業	継続	現状程度	現団体	指定管理	
	28	一時保育事業(総合体 育館)	継続	現状程度	現団体	指定管理	
	29	一時保育事業(プレイ ス)	継続	要検討	現団体	指定管理	
	30	自然の村管理運営事業	継続	要検討	要検討	指定管理	
	31	自然の村利用促進バス 運行事業	継続	要検討	要検討	指定管理	
	32	武蔵野プレイスカフェ 事業	継続	現状程度	現団体	指定管理	
	33	武蔵野プレイスプリン ト工房事業	継続	現状程度	現団体	指定管理	
	事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性			
		1	野外活動事業(自然観 察・学習・体験事業)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可 能な事業もあるため、担い手の見直しを検討す る。			
2		読書の普及・推進事業	・引き続き当団体が継続する。				
3		講座・講演会等事業(プ レイス生涯学習講座)	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体 が継続する。				
4		イベント事業(プレイ ス総合イベント、境南 ふれあい広場公園活用 事業)	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体 が継続する。				

団体名	6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	5	連携事業（大学、市民 団体、地域企業等）	・事業の精査を行い、市や他の財援団体が実施 している同種事業との棲み分けを行った上で、 適切な担い手を検討する。
	6	地域映像アーカイブ運 営事業	・引き続き当団体が継続する。
	7	市民活動支援事業（プ レイス）	・引き続き当団体が継続する。
	8	青少年活動支援事業 （プレイス）	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体が 継続する。
	9	生涯学習情報発信事業	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体が 継続する。
	10	プレイスPR事業	・引き続き当団体が継続する。
	11	市民による運営参画推 進事業	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体が 継続する。
	12	スポーツ教室事業（各 プログラム、ワンデー レッスン）	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体 が継続する。
	13	野外活動事業（登山、 キャンプ、アウトドア スポーツ）	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可 能な事業もあるため、必要に応じて担い手の選 択に競争性を持たせることを検討する。
	14	スポーツイベント事業	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体 が継続する。
	15	個人開放事業（トレー ニング室・体力測定室、 種目別個人開放事業）	・引き続き当団体が継続する。
	16	スポーツ関連情報発 信・提供事業	・引き続き当団体が継続するが、情報発信・提 供の媒体について工夫することを検討する。
17	中央公園スポーツ広場 管理運営事業	・引き続き当団体が継続する。	

団体名	6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	18	四中温水プール管理運営事業	・引き続き当団体が継続する。
	19	体育施設管理運営事業 (陸上競技場)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、必要に応じて担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。
	20	体育施設管理運営事業 (軟式野球場)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、必要に応じて担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。
	21	体育施設管理運営事業 (庭球場)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、必要に応じて担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。
	22	体育施設管理運営事業 (プール)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、必要に応じて担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。 ・施設の老朽化に対する対応を行う。
	23	体育施設管理運営事業 (温水プール)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、必要に応じて担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。 ・施設の老朽化に対する対応を行う。
	24	体育施設管理運営事業 (総合体育館)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、必要に応じて担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。
	25	体育施設管理運営事業 (緑町スポーツ広場)	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であるため、必要に応じて担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。
	26	プレイス管理運営事業	・引き続き当団体が継続する。
	27	境南ふれあい広場公園 管理運営事業	・引き続き武蔵野プレイスと同じ指定管理者である当団体が継続する。
	28	一時保育事業 (総合体育館)	・引き続き当団体が継続する。
	29	一時保育事業 (プレイス)	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体が継続する。
30	自然の村管理運営事業	・事業の効率・効果が最も高くなるよう主体の検討を行う。	

<b>団体名</b>	<b>6. 公益財団法人 武蔵野生涯学習振興事業団</b>		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	31	自然の村利用促進バス 運行事業	・事業の在り方を含め、運営方法の検討を行う。
	32	武蔵野プレイスカフェ 事業	・引き続き指定管理者が継続する。
	33	武蔵野プレイスプリン ト工房事業	・引き続き指定管理者が継続する。
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一部を除く公の施設については、引き続き指定管理者として管理運営を行う。</li> <li>● 文化、生涯学習、スポーツは関連性が高く、今後一体的に推進することでより効果・効率が高まると考えられるため、中長期的に文化事業団と統合し、体制を強化した上で、事業の効率化と質の向上を図る。</li> </ul>		
<b>4. 見直し案</b>			
見直しにあたり留 意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 武蔵野プレイスは市の生涯学習に係る政策の中心的機能を果たす施設であり、市の政策の推進に向けて市と指定管理者が密接な連携を図りながら施設の管理運営を行うことが求められる。</li> </ul>		
見直し案	<p>&lt;中長期的に文化事業団と統合&gt;</p> <p>芸術文化の分野を所管している文化事業団と統合することで、文化・生涯学習・スポーツ分野の市民サービスを一体として推進する。</p>		
見直しに向けての 課題	<p>【短期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主事業の拡充と適切な受益者負担の検討（団体）</li> <li>● 自然の村の適切な管理運営方法や担い手の検討（市）</li> <li>● 今後の団体運営を担う団体固有職員の人材育成（団体）</li> </ul> <p>【中長期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化事業団と統合した場合の所管課の検討（市）</li> </ul>		

<b>団体名</b>		7. 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会						
<b>1. 基本情報</b>								
設立年月日		平成元年 10 月 13 日						
目的		武蔵野市における市民主体の国際交流及び国際協力並びに在住外国人への支援を推進することにより、国際相互理解と地域の多文化共生を図り、もって国際平和に寄与する開かれたまちづくりに貢献する。						
背景		<p>昭和 63 年 4 月の武蔵野市国際交流委員会最終答申を受け、平成元年 10 月に武蔵野市民と世界の人々との幅広い交流促進を目指し、国際平和に寄与する開かれたまちづくりのため、行政と民間活力を一体化した団体（任意団体）として設立された。</p> <p>平成 21 年 4 月 1 日には、旧協会を解散し、一般財団法人武蔵野市国際交流協会が設立された。その後、公益認定を受け、平成 22 年 4 月に公益財団法人に移行している。</p>						
市への貢献・成果		<p>市の国際交流事業の担い手として、特に在住外国人向けの多言語による各種相談や日本語学習支援、生活情報提供などのサービスを実施し、外国人が住みやすい街づくりに貢献している。</p> <p>また、市民ボランティアと連携した様々な取組を企画・実施することで、市民の地域活動への参画の場づくりや、相互理解を促進し、生活の安全・安心や治安維持にも寄与している。</p>						
<b>2. 経営状況</b>								
財務	要約	(1) 出資等の状況						
		① 出資・出えんの状況 [千円]						
		合計額		3,000	100.0%	経過		
		内訳	基本財産	3,000	100.0%	設立時	3,000	
		② 補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]						
		区分	H22		H23		H24	
		収入総額	74,576		69,596		68,655	
		委託料	-	-	-	-	-	-
		補助金	70,174	94.1%	66,214	95.1%	64,748	94.3%
		貸付金	-	-	-	-	-	-
計	70,174	94.1%	66,214	95.1%	64,748	94.3%		
支出総額	71,880		64,518		68,114			
収支差額	2,696		5,078		541			

団体名		7. 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会																																																															
財務	要約	(2) 団体の財務状況																																																															
		① 要約貸借対照表 [千円]																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">資産</td> <td>流動資産</td> <td>19,512</td> <td>24,531</td> <td>25,049</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td>6,655</td> <td>6,979</td> <td>7,437</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td>26,167</td> <td>31,510</td> <td>32,486</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">負債</td> <td>流動負債</td> <td>2,125</td> <td>2,066</td> <td>2,043</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td>3,655</td> <td>3,979</td> <td>4,437</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産</td> <td>20,387</td> <td>25,465</td> <td>26,006</td> </tr> <tr> <td colspan="2">負債・正味財産合計</td> <td>26,167</td> <td>31,510</td> <td>32,486</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	資産	流動資産	19,512	24,531	25,049	固定資産	6,655	6,979	7,437	資産合計	26,167	31,510	32,486	負債	流動負債	2,125	2,066	2,043	固定負債	3,655	3,979	4,437	正味財産		20,387	25,465	26,006	負債・正味財産合計		26,167	31,510	32,486																							
項目		H22	H23	H24																																																													
資産	流動資産	19,512	24,531	25,049																																																													
	固定資産	6,655	6,979	7,437																																																													
	資産合計	26,167	31,510	32,486																																																													
負債	流動負債	2,125	2,066	2,043																																																													
	固定負債	3,655	3,979	4,437																																																													
正味財産		20,387	25,465	26,006																																																													
負債・正味財産合計		26,167	31,510	32,486																																																													
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">一般正味財産増減の部</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">収益</td> <td>事業収益</td> <td>2,931</td> <td>1,938</td> <td>2,586</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>71,644</td> <td>67,658</td> <td>66,069</td> </tr> <tr> <td>収益計</td> <td>74,575</td> <td>69,596</td> <td>68,655</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用</td> <td>事業費</td> <td>62,188</td> <td>55,657</td> <td>58,787</td> </tr> <tr> <td>管理費</td> <td>9,691</td> <td>8,861</td> <td>9,327</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>費用計</td> <td>71,880</td> <td>64,518</td> <td>68,114</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期一般正味財産増減額</td> <td>2,696</td> <td>5,078</td> <td>541</td> </tr> <tr> <td colspan="5">指定正味財産増減の部</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期指定正味財産増減額</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産期末残高</td> <td>20,387</td> <td>25,465</td> <td>26,006</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	一般正味財産増減の部					収益	事業収益	2,931	1,938	2,586	その他	71,644	67,658	66,069	収益計	74,575	69,596	68,655	費用	事業費	62,188	55,657	58,787	管理費	9,691	8,861	9,327	その他	-	-	-	費用計	71,880	64,518	68,114	当期一般正味財産増減額		2,696	5,078	541	指定正味財産増減の部					当期指定正味財産増減額		-	-	-	正味財産期末残高		20,387	25,465	26,006
項目		H22	H23	H24																																																													
一般正味財産増減の部																																																																	
収益	事業収益	2,931	1,938	2,586																																																													
	その他	71,644	67,658	66,069																																																													
	収益計	74,575	69,596	68,655																																																													
費用	事業費	62,188	55,657	58,787																																																													
	管理費	9,691	8,861	9,327																																																													
	その他	-	-	-																																																													
	費用計	71,880	64,518	68,114																																																													
当期一般正味財産増減額		2,696	5,078	541																																																													
指定正味財産増減の部																																																																	
当期指定正味財産増減額		-	-	-																																																													
正味財産期末残高		20,387	25,465	26,006																																																													
		③ 有利子負債の推移																																																															
		なし																																																															
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入の 94.3%が市からの補助金であり、市への財政的依存度が極めて高い状況にある。</li> <li>● 収益、費用は大きな増減がなく安定して推移しており、毎年度収支の均衡を図っている。</li> <li>● 流動比率は平成 22 年度が 918.2%、平成 23 年度が 1,187.4%、平成 24 年度が 1,226.1%と、高い値を示している。</li> </ul>																																																															

団体名		7. 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会				
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正味財産比率は平成22年度が77.9%、平成23年度が80.8%、平成24年度が80.1%となっている。</li> </ul>				
人事	要約	(1) 役員の状況 [人]				
			H23	H24	H25	
		常勤役員数	1	1	1	
			市派遣	-	-	-
			市OB	-	-	-
			その他	1	1	1
		非常勤役員数	10	10	10	
			市派遣	1	1	1
			市OB	1	1	1
			その他	8	8	8
(2) 職員の状況 [人]						
	H23	H24	H25			
職員数	7 (1)	7 (1)	7 (1)			
	市派遣	1	1	-		
	市OB	-	-	-		
	固有	3	3	3		
	その他	3 (1)	3 (1)	4 (1)		
( ) 内は、うち管理職の人数						
(3) 人件費の推移 [千円]						
	H22	H23	H24			
人件費	43,643	40,470	41,242			
<p>なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、退職給付費用、福利厚生費、臨時雇賃金である。</p>						
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人員数に大きな増減はなく、人件費も概ね横ばいで推移している。</li> <li>● 収益に対する人件費の割合は60%前後で安定して推移している。</li> <li>● 平成25年度からは市からの派遣職員がゼロになっており、市への人的依存度は低い状況にある。</li> </ul>				
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会員数が減少傾向にある。</li> <li>● 近隣自治体でも同種事業が行われているが、当団体に比べると規模が小さい。</li> <li>● 交流協会の事業への近隣住民の利用・参画も行われている。</li> <li>● 団体事務所はスイングビル9階にある。</li> </ul>				

<b>団体名</b>	<b>7. 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会</b>
経営上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主財源が収入の 5%程度と極めて少なく、市への財政的依存度が高いことから、会員、会費収入を増やす等、自主財源の安定確保を進める必要がある。</li> <li>● 市が手厚い補助を行ってきたことと、団体としても管理的経費等の削減に努力してきた結果、団体は潤沢な手元預金を持っており、一般正味財産を積み上げてきている。これにより、流動比率が極めて高い状態にあり、正味財産比率も高い値を示している。手元預金の活用方法の検討を進めるほか、補助金支給額の精査を行い、事業実施に必要な金額に限るようにして不要なストックを生じさせないようにする必要がある。</li> <li>● 会員は日本人（登録有料）、外国人（登録無料）ともに減少してきている。外国人については、大震災の影響があるが、日本人については高齢化が進んでおり、若年層の開拓を進めることが求められる。</li> <li>● 団体事務所はスイングビル9階と高層階にあることから、利用者がやや訪れにくい立地であるため、今後必要に応じて、事務所の移転等を検討する余地がある。</li> </ul>

### 3. 基本方針に基づく検討

事業の分析・評価						
	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	1	日本語学習の支援事業	継続	要検討	現団体	補助
	2	多言語による各種相談事業	継続	現状程度	現団体	補助
	3	留学生の社会参加促進事業	継続	要検討	要検討	補助
	4	多言語による生活情報提供事業	継続	現状程度	現団体	補助
	5	通訳者の派遣及び翻訳事業	継続	現状程度	現団体	補助
	6	地域における国際理解の推進事業	継続	現状程度	現団体	補助
	7	国際交流及び国際協力に関するボランティア活動の支援事業	継続	現状程度	現団体	補助
	8	国際交流及び国際協力に関する地域団体との連携事業	継続	現状程度	現団体	補助



団体名	7. 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会					
事業の分析・評価	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	9	国際交流及び国際協力に関する調査研究事業	継続	要検討	要検討	補助
	10	国際交流及び国際協力に関する広報事業	継続	要検討	現団体	補助
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性			
	1	日本語学習の支援事業	・利用者ニーズを踏まえたサービス拡充を図りつつ、事業を継続する。			
	2	多言語による各種相談事業	・引き続き当団体により事業を継続する。			
	3	留学生の社会参加促進事業	・当面は参加希望留学生の希望を充足できるように市内の参加希望ファミリーを確保しつつ、事業を継続する。 ・将来的には、近隣自治体とノウハウを共有し、より広域で対応することで受け皿を広げる。			
	4	多言語による生活情報提供事業	・引き続き当団体により事業を継続する。			
	5	通訳者の派遣及び翻訳事業	・引き続き当団体により事業を継続する。			
	6	地域における国際理解の推進事業	・引き続き当団体により事業を継続する。			
	7	国際交流及び国際協力に関するボランティア活動の支援事業	・引き続き当団体により事業を継続する。			
	8	国際交流及び国際協力に関する地域団体との連携事業	・引き続き当団体により事業を継続する。			
	9	国際交流及び国際協力に関する調査研究事業	・当団体が引き続き実施するが、他団体と連携を図りつつ、調査研究の質・量の向上に努める。			
	10	国際交流及び国際協力に関する広報事業	・サービス利用の増加や、会員数、ボランティア数を増やすために、より積極的に推進する。			

<b>団体名</b>	<b>7. 公益財団法人 武蔵野市国際交流協会</b>
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公益性が高く独自性もあることから、民間との差別化を図りつつ引き続き存続する。</li> <li>● 自主財源の確保を図り経営改善に努める。</li> </ul>
<b>4. 見直し案</b>	
見直しにあたり留 意すべき事項	特になし
見直し案	<p>&lt;存続&gt;</p> <p>一部事業の民間との差別化や適切な受益者負担による経費削減により、経営改善を図る。</p>
見直しに向けての 課題	<p><b>【短期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会員拡大のためのPR活動やSNS等の活用による広報の充実（団体）</li> <li>● 会費の徴収方法の検討（団体）</li> </ul> <p><b>【中長期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 近隣自治体との広域化の検討（市・団体）</li> <li>● 経営能力を持つ人材の育成（団体）</li> </ul>

<b>団体名</b>		<b>8. 公益財団法人 武蔵野市子ども協会</b>						
<b>1. 基本情報</b>								
設立年月日		平成4年1月7日						
目的		武蔵野市全市域の子ども育成活動全般を横断的、効率的、包括的に支える機関として、市の長期計画や子どもプランの実現に向けて、安心して子どもを生き育てることができる環境づくり、育児等における子育ての支援を行い、地域と協働した子育てや子どもの育成活動を促進し、活力ある地域社会の形成に寄与する。						
背景		<p>平成4年に、0～3歳児とその親を対象とした子育て支援施設「0123吉祥寺」の管理運営を行わせるために、市の任意団体として設立された。</p> <p>平成13年には「0123はらっば」の管理運営を受託し、指定管理者制度導入後は、両施設の指定管理者として施設の管理運営を行っている。</p> <p>平成22年2月に一般財団法人化後、平成23年4月には公益認定を受け、公益財団法人に移行している。</p>						
市への貢献・成果		<p>設立当初から、当時全国的にも類を見ない取組であった、0歳児から3歳児の子育て支援施設「0123吉祥寺」の管理運営を行い、市の子育て施策の担い手として、市と連携した先進的な取組を推進している。</p> <p>また、新武蔵野方式による公立保育園の設置・運営主体変更により、公立保育園の移管や、市内初の認定こども園の開設など、新たな取組に着手する一方、市内認可保育所における保育の質の維持・向上に貢献している。</p>						
<b>2. 経営状況</b>								
財務	要約	<b>(1) 出資等の状況</b>						
		<b>① 出資・出えんの状況</b> [千円]						
		合計額		3,000	100.0%	経過		
		内訳	武蔵野市	3,000	100.0%	設立時	3,000	
		<b>② 補助金、委託料、貸付金の推移</b> [千円]						
		区分	H22		H23		H24	
		収入総額	227,813		784,717		1,215,654	
		委託料	130,818	57.4%	423,936	54.0%	455,734	37.5%
		補助金	76,966	33.8%	360,367	45.9%	719,434	59.2%
		貸付金	-	-	-	-	-	-
計	207,784	91.2%	784,303	99.9%	1,175,168	96.7%		
支出総額	167,163		779,360		1,212,995			
収支差額	60,650		5,357		2,659			

団体名		8. 公益財団法人 武蔵野市子ども協会																																																															
財務	要約	(2) 団体の財務状況																																																															
		① 要約貸借対照表 [千円]																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">資産</td> <td>流動資産</td> <td>67,462</td> <td>122,054</td> <td>422,231</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td>13,808</td> <td>199,514</td> <td>804,533</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td>81,270</td> <td>321,568</td> <td>1,226,765</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">負債</td> <td>流動負債</td> <td>6,606</td> <td>56,192</td> <td>93,470</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td>10,264</td> <td>15,142</td> <td>430,626</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産</td> <td>64,401</td> <td>250,234</td> <td>702,669</td> </tr> <tr> <td colspan="2">負債・正味財産合計</td> <td>81,270</td> <td>321,568</td> <td>1,226,765</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	資産	流動資産	67,462	122,054	422,231	固定資産	13,808	199,514	804,533	資産合計	81,270	321,568	1,226,765	負債	流動負債	6,606	56,192	93,470	固定負債	10,264	15,142	430,626	正味財産		64,401	250,234	702,669	負債・正味財産合計		81,270	321,568	1,226,765																							
項目		H22	H23	H24																																																													
資産	流動資産	67,462	122,054	422,231																																																													
	固定資産	13,808	199,514	804,533																																																													
	資産合計	81,270	321,568	1,226,765																																																													
負債	流動負債	6,606	56,192	93,470																																																													
	固定負債	10,264	15,142	430,626																																																													
正味財産		64,401	250,234	702,669																																																													
負債・正味財産合計		81,270	321,568	1,226,765																																																													
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">一般正味財産増減の部</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">収益</td> <td>事業収益</td> <td>227,813</td> <td>651,928</td> <td>765,473</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>49</td> <td>47,688</td> <td>39,795</td> </tr> <tr> <td>収益計</td> <td>227,862</td> <td>699,616</td> <td>805,268</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用</td> <td>事業費</td> <td>14,692</td> <td>582,938</td> <td>695,029</td> </tr> <tr> <td>管理費</td> <td>141,711</td> <td>63,633</td> <td>67,786</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10,264</td> <td>-</td> <td>404</td> </tr> <tr> <td>費用計</td> <td>166,667</td> <td>646,571</td> <td>763,219</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期一般正味財産増減額</td> <td>61,195</td> <td>53,044</td> <td>42,049</td> </tr> <tr> <td colspan="5">指定正味財産増減の部</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期指定正味財産増減額</td> <td>-</td> <td>132,789</td> <td>410,385</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産期末残高</td> <td>64,401</td> <td>250,234</td> <td>702,668</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	一般正味財産増減の部					収益	事業収益	227,813	651,928	765,473	その他	49	47,688	39,795	収益計	227,862	699,616	805,268	費用	事業費	14,692	582,938	695,029	管理費	141,711	63,633	67,786	その他	10,264	-	404	費用計	166,667	646,571	763,219	当期一般正味財産増減額		61,195	53,044	42,049	指定正味財産増減の部					当期指定正味財産増減額		-	132,789	410,385	正味財産期末残高		64,401	250,234	702,668
項目		H22	H23	H24																																																													
一般正味財産増減の部																																																																	
収益	事業収益	227,813	651,928	765,473																																																													
	その他	49	47,688	39,795																																																													
	収益計	227,862	699,616	805,268																																																													
費用	事業費	14,692	582,938	695,029																																																													
	管理費	141,711	63,633	67,786																																																													
	その他	10,264	-	404																																																													
	費用計	166,667	646,571	763,219																																																													
当期一般正味財産増減額		61,195	53,044	42,049																																																													
指定正味財産増減の部																																																																	
当期指定正味財産増減額		-	132,789	410,385																																																													
正味財産期末残高		64,401	250,234	702,668																																																													
		③ 有利子負債の推移 [千円]																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年内返済予定長期借入金</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>22,524</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>409,476</td> </tr> </tbody> </table>				項目	H22	H23	H24	1年内返済予定長期借入金	-	-	22,524	長期借入金	-	-	409,476																																																
項目	H22	H23	H24																																																														
1年内返済予定長期借入金	-	-	22,524																																																														
長期借入金	-	-	409,476																																																														
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年4月に千川保育園、北町保育園の移管を受け、認可保育園事業を開始したことから、平成22年度から平成23年度にかけて、収益、費用、資産、正味財産の金額が大きく増加している。</li> </ul>																																																															

<b>団体名</b>		<b>8. 公益財団法人 武蔵野市子ども協会</b>																																																							
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 24 年度には、北町保育園の改築及び境こども園建設に係る建設仮勘定の増加により、資産、負債及び正味財産の金額が大きく増加している。</li> <li>● 子育て支援事業については、収入のほぼ全額が市からの委託料等で賄われており、市への財政的依存度が極めて高い状況にある。保育園については保育所運営費（国都負担金・市委託料）の割合が高いが、認定こども園については短時間保育への給付費が少ないこともあり、市への財政的依存度が高い。</li> <li>● 当期一般正味財産増減額は平成 22 年度が 61,195 千円、平成 23 年度が 53,044 千円、平成 24 年度が 42,049 千円となっており、一般正味財産が増加している。</li> <li>● 流動比率は平成 22 年度が 1021.2%、平成 23 年度が 217.2%、平成 24 年度が 451.7%となっている。工事支払用の資金を手元に置いていることから、平成 24 年度の比率が上昇している。</li> <li>● 正味財産比率が、平成 23 年度 77.8%から、平成 24 年度 57.2%と減少しているが、これは、平成 24 年度中に固定資産整備のために借入れを行ったためである。</li> </ul>																																																							
人事	要約	<p>(1) 役員の状況 [人]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤役員数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>市派遣</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>非常勤役員数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>市派遣</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 職員の状況 [人]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員数</td> <td>204(1)</td> <td>195(1)</td> <td>343(1)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4"></td> <td>市派遣</td> <td>35(1)</td> <td>39(1)</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>固有</td> <td>41</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>128</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>( ) 内は、うち管理職の人数</p>				H23	H24	H25	常勤役員数	1	1	1		市派遣	-	-	市OB	1	1	その他	-	-	非常勤役員数	7	7	7		市派遣	1	1	市OB	2	2	その他	4	4		H23	H24	H25	職員数	204(1)	195(1)	343(1)		市派遣	35(1)	39(1)	市OB	-	-	固有	41	56	その他	128	100
	H23	H24	H25																																																						
常勤役員数	1	1	1																																																						
	市派遣	-	-																																																						
	市OB	1	1																																																						
	その他	-	-																																																						
非常勤役員数	7	7	7																																																						
	市派遣	1	1																																																						
	市OB	2	2																																																						
	その他	4	4																																																						
	H23	H24	H25																																																						
職員数	204(1)	195(1)	343(1)																																																						
	市派遣	35(1)	39(1)																																																						
	市OB	-	-																																																						
	固有	41	56																																																						
	その他	128	100																																																						

団体名		8. 公益財団法人 武蔵野市子ども協会																							
人事	要約	(3)人件費の推移 [千円]																							
			H22	H23	H24																				
		人件費	126,467	571,229	670,084																				
		なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、退職給付費用、法定福利費、福利厚生費、臨時職員給料、臨時雇賃金である。																							
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 23 年 4 月に千川保育園、北町保育園の移管を受け、認可保育園事業を開始したことから、平成 22 年度から平成 23 年度にかけて、人件費が大きく増加している。</li> <li>● 平成 25 年度から桜堤保育園、東保育園及び境南第 2 保育園の 3 園の認可保育園事業の開始と、認定こども園（境こども園）の開設で、平成 25 年度の職員数が増加している。</li> <li>● 認可保育園事業への早期対応の観点から、市の派遣職員を増やして対応を行っている。</li> </ul>																							
施設	要約	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要施設の名称</th> <th>建設時期</th> <th>延べ床面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>千川保育園</td> <td>昭和 50 年 6 月</td> <td>830.15 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>北町保育園</td> <td>平成 25 年 3 月（建替え）</td> <td>1,448.20 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>桜堤保育園</td> <td>昭和 58 年 2 月</td> <td>862.22 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>東保育園</td> <td>昭和 46 年 3 月</td> <td>570.43 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>境南第 2 保育園</td> <td>昭和 53 年 3 月</td> <td>732.47 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>境こども園</td> <td>平成 25 年 11 月（新設）</td> <td>1,667.50 m<sup>2</sup></td> </tr> </tbody> </table>			主要施設の名称	建設時期	延べ床面積	千川保育園	昭和 50 年 6 月	830.15 m <sup>2</sup>	北町保育園	平成 25 年 3 月（建替え）	1,448.20 m <sup>2</sup>	桜堤保育園	昭和 58 年 2 月	862.22 m <sup>2</sup>	東保育園	昭和 46 年 3 月	570.43 m <sup>2</sup>	境南第 2 保育園	昭和 53 年 3 月	732.47 m <sup>2</sup>	境こども園	平成 25 年 11 月（新設）	1,667.50 m <sup>2</sup>
	主要施設の名称	建設時期	延べ床面積																						
千川保育園	昭和 50 年 6 月	830.15 m <sup>2</sup>																							
北町保育園	平成 25 年 3 月（建替え）	1,448.20 m <sup>2</sup>																							
桜堤保育園	昭和 58 年 2 月	862.22 m <sup>2</sup>																							
東保育園	昭和 46 年 3 月	570.43 m <sup>2</sup>																							
境南第 2 保育園	昭和 53 年 3 月	732.47 m <sup>2</sup>																							
境こども園	平成 25 年 11 月（新設）	1,667.50 m <sup>2</sup>																							
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 0123 吉祥寺、0123 はらっぱの指定管理者となっている。</li> <li>● 平成 23 年度中に、千川保育園及び北町保育園の移管を受けている。</li> <li>● 北町保育園については、平成 25 年 3 月に建替えを行っている。</li> <li>● 平成 25 年度に、桜堤保育園、東保育園及び境南第 2 保育園の 3 園の移管を受けている。</li> <li>● 平成 25 年 11 月に境こども園が竣工、12 月に認定こども園として開園している。</li> </ul>																							
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公益法人会計のほか、認可保育園の指導検査基準対応のため、社会福祉法人会計による経理事務をあわせて行っている。</li> </ul>																							
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育園事業の運営資金として、通常 2～3 か月分を保有することが望ましいが、これら運営資金の確保が十分でなく、安定した運営のための財政基盤が整っていない。</li> <li>● 認可保育園事業については、保育の質の維持向上のため、市の派遣職員が約半数を占めている。初年度から徐々に人材引き上げを進めているが、今後も計画</li> </ul>																							

<b>団体名</b>	<b>8. 公益財団法人 武蔵野市子ども協会</b>																																								
経営上の課題	<p>的に人的依存度を下げていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 認可保育園事業、認定こども園事業の実施以降、協会の規模が急拡大していることから、諸制度の整備を進めるとともに、対応するための財源の確保及び人材育成や事務の効率化を図ることが求められる。</li> <li>● 公益法人会計と社会福祉法人会計の2つの会計基準に対応するため、事務負担と専門知識を有する職員の不在が課題となっている。</li> </ul>																																								
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>																																									
事業の分析・評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>0123 吉祥寺の管理運営</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>要検討</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0123 はらっぱの管理運営</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>要検討</td> <td>指定管理</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>おもちゃのぐるりん</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>要検討</td> <td>委託<sup>14</sup></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>認可保育園</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>現団体</td> <td>委託 補助</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>認定こども園事業（境こども園）</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>現団体</td> <td>委託 補助</td> </tr> </tbody> </table>					No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	0123 吉祥寺の管理運営	継続	要検討	要検討	指定管理	2	0123 はらっぱの管理運営	継続	要検討	要検討	指定管理	3	おもちゃのぐるりん	継続	現状程度	要検討	委託 <sup>14</sup>	4	認可保育園	継続	要検討	現団体	委託 補助	5	認定こども園事業（境こども園）	継続	要検討	現団体	委託 補助
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類																																				
1	0123 吉祥寺の管理運営	継続	要検討	要検討	指定管理																																				
2	0123 はらっぱの管理運営	継続	要検討	要検討	指定管理																																				
3	おもちゃのぐるりん	継続	現状程度	要検討	委託 <sup>14</sup>																																				
4	認可保育園	継続	要検討	現団体	委託 補助																																				
5	認定こども園事業（境こども園）	継続	要検討	現団体	委託 補助																																				
事業の見直しの方 向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>0123 吉祥寺の管理運営</td> <td>・当面は事業継続性の観点から、市西部地域の課題を踏まえつつ当団体が引き続き実施するが、団体の独自性を発揮し、サービスの更なる向上を図る。将来的には、担い手の選択に質の向上も含めた競争性を持たせることを検討する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0123 はらっぱの管理運営</td> <td>・当面は事業継続性の観点から、市西部地域の課題を踏まえつつ当団体が引き続き実施するが、団体の独自性を発揮し、サービスの更なる向上を図る。将来的には、担い手の選択に質の向上も含めた競争性を持たせることを検討する。</td> </tr> </tbody> </table>					No.	事業名	方向性	1	0123 吉祥寺の管理運営	・当面は事業継続性の観点から、市西部地域の課題を踏まえつつ当団体が引き続き実施するが、団体の独自性を発揮し、サービスの更なる向上を図る。将来的には、担い手の選択に質の向上も含めた競争性を持たせることを検討する。	2	0123 はらっぱの管理運営	・当面は事業継続性の観点から、市西部地域の課題を踏まえつつ当団体が引き続き実施するが、団体の独自性を発揮し、サービスの更なる向上を図る。将来的には、担い手の選択に質の向上も含めた競争性を持たせることを検討する。																											
No.	事業名	方向性																																							
1	0123 吉祥寺の管理運営	・当面は事業継続性の観点から、市西部地域の課題を踏まえつつ当団体が引き続き実施するが、団体の独自性を発揮し、サービスの更なる向上を図る。将来的には、担い手の選択に質の向上も含めた競争性を持たせることを検討する。																																							
2	0123 はらっぱの管理運営	・当面は事業継続性の観点から、市西部地域の課題を踏まえつつ当団体が引き続き実施するが、団体の独自性を発揮し、サービスの更なる向上を図る。将来的には、担い手の選択に質の向上も含めた競争性を持たせることを検討する。																																							

<sup>14</sup> 社会福祉法人武蔵野からの委託である。

<b>団体名</b>	<b>8. 公益財団法人 武蔵野市子ども協会</b>		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	3	おもちゃのぐるりん	・当面は当団体が継続するが、将来的には市の療育体制の在り方も含め、現在のままとすべきか、社福武蔵野が実施すべきか、あるいは他の主体が実施すべきかといった検討を行う。
	4	認可保育園	・サービス需要を可能な限り充足できるように、当団体が引き続き実施する。
	5	認定こども園事業（境こども園）	・サービス需要を可能な限り充足できるように、当団体が引き続き実施する。
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の子育て政策の核となる団体であることから、引き続き存続し、認定こども園の開設等による規模拡大への対応を行う。</li> </ul>		
<b>4. 見直し案</b>			
見直しにあたり留 意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● みどりのこども館は社福武蔵野が指定管理者となっているが、当該施設で実施しているおもちゃのぐるりん事業は、社福武蔵野が子ども協会に再委託している状況である。</li> <li>● 0123事業は、実施当時は先進的な取り組みであったが、近年では民間事業者でも同種事業を実施しており、民間事業者による代替が可能になりつつある。</li> </ul>		
見直し案	<p>&lt;存続&gt;</p> <p>団体の規模拡大に対応できるよう、人材育成や事務の効率化を図る。</p>		
見直しに向けての 課題	<p>【短期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人事や複数の会計基準への対応力の強化（市・団体）</li> <li>● 0123事業についての団体の独自性の発揮（困難ケースの対応等）（市・団体）</li> <li>● 学童クラブと地域子ども館あそべえの運営主体の一体化の検討（市）</li> </ul> <p>【中長期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● みどりのこども館の指定管理者引き受けについての検討（市）</li> <li>● 社会福祉法人への移行検討（市・団体）</li> <li>● 自立化についての検討（市）</li> </ul>		



<b>団体名</b>		9. 一般財団法人 武蔵野市給食・食育振興財団						
<b>1. 基本情報</b>								
設立年月日		平成 22 年 3 月 10 日						
目的		学校給食の適正円滑な供給により、その充実振興を図り、児童・生徒及び市民の食育の推進に寄与する。						
背景		平成 20 年 12 月に武蔵野市学校給食運営検討委員会から財団設立の提言を受け、市給食課の機能を移転するために、平成 22 年 3 月に一般財団法人として設立された。						
市への貢献・成果		<p>平成 22 年度から中学校給食が全校で実施されたことを機に、これまで市で培ってきた市の学校給食の文化を継承した上で、給食の質を確保し、安全かつ安定的に供給するために、学校給食の担い手として設立された。</p> <p>小学校 12 校及び中学校 6 校の給食調理や、給食を通じた食育推進のための情報発信や食育指導等の取組を通じて、市の学校給食の充実振興に寄与している。</p>						
<b>2. 経営状況</b>								
財務	要約	(1) 出資等の状況						
		① 出資・出えんの状況 [千円]						
		合計額		3,000	100.0%	経過		
		内訳	基本財産	3,000	100.0%	設立時	3,000	
		② 補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]						
		区分	H22		H23		H24	
		収入総額	187,363		637,165		647,361	
		委託料	187,363	100.0%	637,165	100.0%	647,169	100%
		補助金	-	-	-	-	192	0.0%
		貸付金	-	-	-	-	-	-
計	187,363	100.0%	637,165	100.0%	647,361	100.0%		
支出総額	187,363		637,165		647,361			
収支差額	-		-		-			

<b>団体名</b>		<b>9. 一般財団法人 武蔵野市給食・食育振興財団</b>																																																														
財務	要約	<b>(2) 団体の財務状況</b> <b>① 要約貸借対照表</b> [千円]																																																														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">資産</td> <td>流動資産</td> <td>11,343</td> <td>31,621</td> <td>80,977</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td>3,000</td> <td>7,971</td> <td>11,020</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td>14,343</td> <td>39,592</td> <td>91,996</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">負債</td> <td>流動負債</td> <td>11,246</td> <td>31,525</td> <td>80,889</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td>-</td> <td>3,900</td> <td>7,200</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産</td> <td>3,096</td> <td>4,167</td> <td>3,908</td> </tr> <tr> <td colspan="2">負債・正味財産合計</td> <td>14,343</td> <td>39,592</td> <td>91,996</td> </tr> </tbody> </table>			項目		H22	H23	H24	資産	流動資産	11,343	31,621	80,977	固定資産	3,000	7,971	11,020	資産合計	14,343	39,592	91,996	負債	流動負債	11,246	31,525	80,889	固定負債	-	3,900	7,200	正味財産		3,096	4,167	3,908	負債・正味財産合計		14,343	39,592	91,996																							
項目		H22	H23	H24																																																												
資産	流動資産	11,343	31,621	80,977																																																												
	固定資産	3,000	7,971	11,020																																																												
	資産合計	14,343	39,592	91,996																																																												
負債	流動負債	11,246	31,525	80,889																																																												
	固定負債	-	3,900	7,200																																																												
正味財産		3,096	4,167	3,908																																																												
負債・正味財産合計		14,343	39,592	91,996																																																												
		<b>② 要約正味財産増減計算書</b> [千円]																																																														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">一般正味財産増減の部</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">収益</td> <td>事業収益</td> <td>187,194</td> <td>637,165</td> <td>647,169</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>169</td> <td>163</td> <td>355</td> </tr> <tr> <td>収益計</td> <td>187,363</td> <td>637,328</td> <td>647,524</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用</td> <td>事業費</td> <td>159,195</td> <td>594,617</td> <td>583,217</td> </tr> <tr> <td>管理費</td> <td>28,168</td> <td>41,639</td> <td>64,567</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>費用計</td> <td>187,363</td> <td>636,257</td> <td>647,784</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期一般正味財産増減額</td> <td>-</td> <td>1,071</td> <td>△260</td> </tr> <tr> <td colspan="5">指定正味財産増減の部</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期指定正味財産増減額</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産期末残高</td> <td>3,096</td> <td>4,167</td> <td>3,908</td> </tr> </tbody> </table>			項目		H22	H23	H24	一般正味財産増減の部					収益	事業収益	187,194	637,165	647,169	その他	169	163	355	収益計	187,363	637,328	647,524	費用	事業費	159,195	594,617	583,217	管理費	28,168	41,639	64,567	その他	-	-	-	費用計	187,363	636,257	647,784	当期一般正味財産増減額		-	1,071	△260	指定正味財産増減の部					当期指定正味財産増減額		-	-	-	正味財産期末残高		3,096	4,167	3,908
項目		H22	H23	H24																																																												
一般正味財産増減の部																																																																
収益	事業収益	187,194	637,165	647,169																																																												
	その他	169	163	355																																																												
	収益計	187,363	637,328	647,524																																																												
費用	事業費	159,195	594,617	583,217																																																												
	管理費	28,168	41,639	64,567																																																												
	その他	-	-	-																																																												
	費用計	187,363	636,257	647,784																																																												
当期一般正味財産増減額		-	1,071	△260																																																												
指定正味財産増減の部																																																																
当期指定正味財産増減額		-	-	-																																																												
正味財産期末残高		3,096	4,167	3,908																																																												
		<b>③ 有利子負債の推移</b> なし																																																														
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入の全額が市からの委託料及び補助金で賄われていることから、財政面では市へ完全に依存している状況にある。</li> <li>● 平成22年度に中学校給食が全校で実施されたことにより、平成22年度から平成23年度にかけて、収益、費用の金額が大きく増加している。</li> </ul>																																																														

<b>団体名</b>		<b>9. 一般財団法人 武蔵野市給食・食育振興財団</b>																																		
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 流動負債の大半は、市への受託料返還のための未払金と、未払消費税である。平成 24 年度に課税事業者となったため、未払消費税が計上されている。</li> <li>● 流動比率は平成 22 年度が 100.8%、平成 23 年度が 100.3%、平成 24 年度が 100.1%と、100%程度で推移している。</li> <li>● 正味財産比率は平成 22 年度が 27.2%、平成 23 年度が 10.5%、平成 24 年度が 4.2%となっている。</li> </ul>																																		
人事	要約	<b>(1) 役員の状況</b> [人] <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤役員数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>非常勤役員数</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>				H23	H24	H25	常勤役員数	1	1	1	市派遣	市派遣	1	1	市OB	-	-	その他	-	-	非常勤役員数	9	9	9	市派遣	市派遣	1	1	市OB	-	-	その他	8	8
	H23	H24	H25																																	
常勤役員数	1	1	1																																	
市派遣	市派遣	1	1																																	
	市OB	-	-																																	
	その他	-	-																																	
非常勤役員数	9	9	9																																	
市派遣	市派遣	1	1																																	
	市OB	-	-																																	
	その他	8	8																																	
		<b>(2) 職員の状況</b> [人] <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員数</td> <td>127</td> <td>136</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">市派遣</td> <td>市派遣</td> <td>28</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>固有</td> <td>23</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>76</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table> <p>( ) 内は、うち管理職の人数</p>				H23	H24	H25	職員数	127	136	134	市派遣	市派遣	28	25	市OB	-	-	固有	23	27	その他	76	84											
	H23	H24	H25																																	
職員数	127	136	134																																	
市派遣	市派遣	28	25																																	
	市OB	-	-																																	
	固有	23	27																																	
	その他	76	84																																	
		<b>(3) 人件費の推移</b> [千円] <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>168,572</td> <td>528,018</td> <td>521,127</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、人件費に含めている科目は、給料手当、報酬、退職給付費用、福利厚生費、臨時雇賃金である。</p>				H22	H23	H24	人件費	168,572	528,018	521,127																								
	H22	H23	H24																																	
人件費	168,572	528,018	521,127																																	
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設立経緯が市給食課の機能移転であったため、市からの派遣職員の比率が相対的に高い傾向にある。</li> <li>● 人件費において、平成 23 年度から平成 24 年度にかけては減少している。</li> <li>● 収益の増加に伴い、収益に占める人件費の割合は減少傾向にある。</li> </ul>																																		

<b>団体名</b>		<b>9. 一般財団法人 武蔵野市給食・食育振興財団</b>																							
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在使用している共同調理施設の老朽化が進んでいる。</li> <li>● 調理員の数は、国の配置基準により決まっている。</li> <li>● 学校給食の運営を担う目的で設立された団体でありながら、給食食材の決定は別組織である給食財務委員会が行っており、財団が主体となっていない。</li> </ul>																							
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 流動比率がやや低く、短期的な安全性に問題がある。</li> <li>● 正味財産比率も低い値を示している上、低下傾向にあることから、長期的な財務安全性についても課題がある。</li> <li>● 調理員の数は一定程度を確保する必要があるものの、コスト削減の観点から人件費を抑制する必要があるため、一人当たり人件費を低減できるよう、職員の構成転換（市派遣職員から団体固有職員及び嘱託職員への転換）を進める必要がある。</li> <li>● 収入のすべてを市に依存しており、財務的な独立性を欠いていることから、自主事業による収入増加を図り、自立に向けた方策を検討することが求められる。</li> <li>● 共同調理施設の老朽化が進んでおり、当該施設についての方針が、給食財団の事業や収支に大きく影響する。</li> </ul>																							
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>																									
事業の分析・評価		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学校給食事業（調理、食材検査）</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>現団体</td> <td>委託</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食育推進事業</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>要検討</td> <td>委託</td> </tr> </tbody> </table>						No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	学校給食事業（調理、食材検査）	継続	現状程度	現団体	委託	2	食育推進事業	継続	要検討	要検討	委託
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類																				
1	学校給食事業（調理、食材検査）	継続	現状程度	現団体	委託																				
2	食育推進事業	継続	要検討	要検討	委託																				
事業の見直しの方 向性		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学校給食事業（調理、食材検査）</td> <td>・ 設立の経緯から当面当団体が実施するが、民間でも調理、配送等は可能であり、必ずしも当団体のみでしか実施できない事業ではないため、将来的に当団体が担うべき業務の範囲について検討する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食育推進事業</td> <td>・ 市や他の財援団体の事業重複があるため、それぞれの役割を明確にした上で担い手を検討する。</td> </tr> </tbody> </table>						No.	事業名	方向性	1	学校給食事業（調理、食材検査）	・ 設立の経緯から当面当団体が実施するが、民間でも調理、配送等は可能であり、必ずしも当団体のみでしか実施できない事業ではないため、将来的に当団体が担うべき業務の範囲について検討する。	2	食育推進事業	・ 市や他の財援団体の事業重複があるため、それぞれの役割を明確にした上で担い手を検討する。									
No.	事業名	方向性																							
1	学校給食事業（調理、食材検査）	・ 設立の経緯から当面当団体が実施するが、民間でも調理、配送等は可能であり、必ずしも当団体のみでしか実施できない事業ではないため、将来的に当団体が担うべき業務の範囲について検討する。																							
2	食育推進事業	・ 市や他の財援団体の事業重複があるため、それぞれの役割を明確にした上で担い手を検討する。																							
団体の見直しの方 向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設立から間もない団体であることを踏まえ、組織運営基盤を強化し、同種事業を実施する他団体との役割分担をしつつ、当面存続する。</li> </ul>																							

<b>団体名</b>	9. 一般財団法人 武蔵野市給食・食育振興財団
<b>4. 見直し案</b>	
見直しにあたり留意すべき事項	特になし
見直し案	<p>&lt;存続&gt;</p> <p>組織運営基盤を整備し、安心・安全な学校給食の提供を継続しつつ、幅広く食育を推進する団体を目指す。</p>
見直しに向けての課題	<p><b>【短期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 共同調理場の老朽化に関する市の方向性の決定（市）</li> <li>● 教育支援課との事務部門重複の解消（市・団体）</li> <li>● 学校給食財務委員会事務局の機能の引継ぎ（団体）</li> <li>● 配送業務の民営化の検討（市・団体）</li> <li>● 食育に関する事業についての健康事業団や生涯学習事業団など他団体との役割分担（団体）</li> </ul> <p><b>【中長期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自立化についての検討（市）</li> <li>● 市が実施する他の給食業務への拡大の検討（市）</li> </ul>

<b>団体名</b>		10. 有限会社 武蔵野交流センター					
<b>1. 基本情報</b>							
設立年月日		平成13年9月4日					
目的		都市と地方、生産者と消費者、人と人が交流し友好を深め、ともに発展する場所として、豊かな市民生活と活力ある商業活動の一層の推進を図る。					
背景		<p>「都市と地方が相互に依存し、ともに発展するためのしかけづくりの場」をテーマとし、市の友好都市との交流、情報発信の拠点として、市、市開発公社のほか、友好都市の遠野市、酒田市、南砺市、安曇野市、長岡市、南房総市、大崎上島町の出資により平成13年に設立された。</p> <p>平成20年には岩美町、平成23年には川上村が出資し、計9つの友好都市と市の物産品販売などを行っている。</p>					
市への貢献・成果		<p>吉祥寺中道通り商店会に、市と友好都市9都市が共同で出資運営する形態のアンテナショップ「麦わら帽子」を出店し、市及び友好都市の物産品販売や友好都市の観光情報などを発信している。</p> <p>店舗で友好都市の物産品を販売することで、市民や吉祥寺を訪れた方が気軽に、身近に市の友好都市を知る機会を提供しており、友好都市との交流の新たなモデルを示している。</p>					
<b>2. 経営状況</b>							
財務	要約	(1)出資等の状況					
		①出資・出えんの状況 [千円]					
		合計額		5,400	100.0%	経過	
		内訳	武蔵野市	2,000	37.0%	設立時	2,000
			武蔵野市開発公社	1,000	18.5%	設立時	1,000
			遠野市	500	9.3%	設立時	500
			酒田市	500	9.3%	設立時	500
			南砺市	200	3.7%	設立時	200
			安曇野市	200	3.7%	設立時	200
			長岡市	200	3.7%	設立時	200
			南房総市	200	3.7%	設立時	200
			大崎上島町	200	3.7%	設立時	200
			岩美町	200	3.7%	平成20年6月	200
川上村	200		3.7%	平成23年11月	200		

団体名		10. 有限会社 武蔵野交流センター							
財務	要約	②補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]							
		区分	H22		H23		H24		
		収入総額	135,992		121,711		107,646		
			委託料	-	-	-	-	-	-
			補助金	-	-	-	-	-	-
			貸付金	-	-	-	-	-	-
			計	-	-	-	-	-	-
		支出総額	136,545		122,339		109,603		
		収支差額	△553		△628		△2,048		
		(2) 団体の財務状況							
		①要約貸借対照表 [千円]							
		項目		H22		H23		H24	
		資産	流動資産	13,650		13,002		11,064	
			固定資産	112		91		140	
			資産合計	13,762		13,093		11,204	
		負債	流動負債	9,343		9,102		9,262	
			固定負債	-		-		-	
		正味財産		4,419		3,991		1,942	
		負債・正味財産合計		13,762		13,093		11,204	
		②要約損益計算書 [千円]							
項目		H22		H23		H24			
収益	売上高	135,890		121,699		107,637			
	その他	103		12		9			
	収益計	135,993		121,711		107,646			
費用	売上原価	106,726		94,056		83,489			
	販管費	29,749		28,212		26,133			
	その他	70		71		72			
	費用計	136,546		122,339		109,694			
当期純利益		△553		△428		△2,048			
純資産期末残高		4,419		3,991		1,943			

団体名		10. 有限会社 武蔵野交流センター																																									
財務	要約	<b>③有利子負債の推移</b> なし																																									
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過去3年間、市から店舗家賃、備品費、事務所光熱水費以外の財政的援助は受けておらず、商品販売収入を自主財源として運営している。</li> <li>● 店舗家賃と備品費、事務所光熱水費は市が負担しているため、損益計算書には計上されていない。</li> <li>● 売上高は平成23年度は前年度比10.4%の減少、平成24年度は前年度比11.6%の減少と、減少傾向にある。</li> <li>● 売上原価も、売上高と同様減少傾向にある。</li> <li>● 売上原価率(=売上原価/売上高×100)は77~78%台で推移している。</li> <li>● 当期純利益は平成22年度は△553千円、平成23年度は△428千円、平成24年度は△2,048千円と、3期連続で赤字であり、平成24年度には赤字幅が拡大している。この結果、純資産が圧迫され減少しており、平成25年度に平成24年度と同程度の赤字が生じた場合、債務超過に陥ることとなる。</li> <li>● 流動比率は平成22年度は146.1%、平成23年度は142.8%、平成24年度は119.4%と、低下傾向にある。</li> <li>● 自己資本比率は平成22年度で32.1%、平成23年度で30.5%、平成24年度で17.3%と、低下傾向にある。</li> </ul>																																									
人事	要約	(1) 役員の状況 <span style="float: right;">[人]</span>																																									
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">常勤役員数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>市派遣</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">非常勤役員数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>市派遣</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>					H23	H24	H25	常勤役員数		-	-	-		市派遣	-	-	-	市OB	-	-	-	その他	-	-	-	非常勤役員数		7	7	7		市派遣	1	1	1	市OB	2	2	2	その他	4
		H23	H24	H25																																							
常勤役員数		-	-	-																																							
	市派遣	-	-	-																																							
	市OB	-	-	-																																							
	その他	-	-	-																																							
非常勤役員数		7	7	7																																							
	市派遣	1	1	1																																							
	市OB	2	2	2																																							
	その他	4	4	4																																							



団体名		10. 有限会社 武蔵野交流センター			
人事	要約	(2) 職員の状況 [人]			
			H23	H24	H25
		職員数	9(1)	10(1)	10(1)
		市派遣	-	-	-
		市OB	-	-	-
		固有	2(1)	2(1)	2(1)
		その他	7	8	8
		( ) 内は、うち管理職の人数			
		(3) 人件費の推移 [千円]			
			H22	H23	H24
		人件費	22,805	21,771	21,067
		なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、退職金、賞与、法定福利費、福利厚生費である。			
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市からの派遣職員はなく、人的依存度は低い。</li> <li>● 人件費の金額は減少傾向にあるが、収益に対する人件費の割合は、収益が減少している影響で上昇傾向にある。</li> </ul>			
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常のアンテナショップと比較して、生鮮食料品の取扱いが多く、全体の約6割程度を占めている。</li> <li>● 店舗の立地が南向きであり、生鮮食料品を取り扱う店舗としては好ましくない立地となっている。</li> <li>● 営業、仕入、店舗運営等の経営全般を営業統括マネジャーが実施しており、属人的な運営になっている。</li> <li>● 設立当初は、友好都市との交流を主眼としていたが、現在は、他店舗では買えない産地の商品を取り扱う店舗として認知されている。</li> </ul>			
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 赤字経営が続いていることから、自立的経営のためには、収益性の改善や売上高の拡大を図る必要がある。</li> <li>● 流動比率が低下傾向にあり、短期的な資金繰りに懸念がある。</li> <li>● 営業統括マネジャーへの依存度が高く、大きな負担がかかっていることから、事業上のリスクが高まっている。</li> <li>● 営業統括マネジャーの後進となる団体固有職員の育成が急務となっている。</li> <li>● アンテナショップは本来利益を求めることが目的ではないため、友好都市とつながりを深めるための交流事業として施策目的の達成を目指していくのか、商売として利益を出して法人の存続を図っていくのかについて、所管部署との協議の中で、役割・位置づけを再定義する必要がある。</li> </ul>			

<b>団体名</b>	<b>10. 有限会社 武蔵野交流センター</b>																	
経営上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法人及び店舗の方向性により、出資している友好都市から出資返還を要請される可能性があることから、これらを見据えた財政基盤の強化が必要である。</li> <li>● 店舗家賃、備品費、事務所光熱水費を市が負担しているが、公益性の観点からは、税で負担する根拠が希薄であることから、財務体質を強化し、市から財政的に自立することが求められる。</li> <li>● 店舗の立地が南向きであり、生鮮食品を数多く扱う店舗としては好ましくない環境にあることから、公共施設の再編検討の中で、市の施設の建替えの際に市の施設内に移転するなどの検討を進める必要がある。</li> </ul>																	
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>																		
事業の分析・評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アンテナショップ運営事業</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>現団体</td> <td>自主</td> </tr> </tbody> </table>						No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	アンテナショップ運営事業	継続	要検討	現団体	自主
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類													
1	アンテナショップ運営事業	継続	要検討	現団体	自主													
事業の見直しの方 向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アンテナショップ運営事業</td> <td>・当団体が事業を継続するが、目的を再度明確にし、目的に沿ったサービス水準を確保する。</td> </tr> </tbody> </table>						No.	事業名	方向性	1	アンテナショップ運営事業	・当団体が事業を継続するが、目的を再度明確にし、目的に沿ったサービス水準を確保する。						
No.	事業名	方向性																
1	アンテナショップ運営事業	・当団体が事業を継続するが、目的を再度明確にし、目的に沿ったサービス水準を確保する。																
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 友好都市が、より積極的に経営に参画し、財政的支援を含めた運営協力体制を構築する。協力が得られない場合は、民間事業者への事業譲渡ないし事業の発展的解消を検討する。</li> </ul>																	
<b>4. 見直し案</b>																		
見直しにあたり留 意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設立当初の目的から現在の役割に変化が見られつつあることから、出資している友好都市の経営参画の必要性の理解を得ることが、団体の存続において重要である。</li> </ul>																	
見直し案	<p>&lt;短期的に自立化&gt;</p> <p>アンテナショップとしての機能は残しつつ、一定の利益を求める経営に転換し、市から自立した団体を目指す。ただし、有効な経営改革案が示せない場合は、団体の在り方についてあらためて検討する。</p>																	
見直しに向けての 課題	<p>【短期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営安定後、市の関与の在り方を見直すことの検討（市）</li> <li>● アンテナショップとしての機能は残しつつ、一定の利益を求める経営への円滑な転換（市）</li> <li>● 出資している友好都市の経営参画への必要性に対する理解（団体）</li> </ul>																	

<b>団体名</b>	10. 有限会社 武蔵野交流センター
見直しに向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市からの店舗家賃、備品費、事務所光熱水費の負担の終期検討（市）</li> <li>● 経営を担える人材（後任）の育成（団体）</li> </ul> <p>【中長期的課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 店舗立地の検討（団体）</li> <li>● 新たな出資拡大を図るなど経営基盤の確立（団体）</li> </ul>

<b>団体名</b>		11. 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター						
<b>1. 基本情報</b>								
設立年月日		昭和53年1月24日						
目的		社会参加の意欲ある健康な高齢者に対し、地域社会と連携を保ちながら、その希望、知識及び経験に応じた就業並びに社会奉仕等の活動機会を確保し、生活感の充実及び福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与する。						
背景		<p>高齢者の就業及び社会奉仕等の活動機会の確保を目的として、昭和53年に武蔵野市高齢者事業団として設立された。</p> <p>設立当初より、高齢者の知識と経験を活用し市内の事業所や家庭から仕事を受託し就業するほか、独自事業として粗大ごみ再生事業（リサイクル事業）や小・中学生補習事業等を行ってきた。</p> <p>昭和55年からシルバー奉仕員事業（家事援助）を開始し、同年に社団法人シルバー人材センター武蔵野市高齢者事業団として設立認可を受けた。</p> <p>平成2年に社団法人武蔵野市シルバー人材センターに名称変更し、平成23年4月には公益認定を受け、公益社団法人に移行している。</p>						
市への貢献・成果		<p>設立当初より、高齢者の就業機会、活動機会確保のための各種取組を進めており、市の高齢者福祉施策の一端を担っている。</p> <p>平成24年度末時点での会員数は1,200人を超えており、受託事業のほか、会員のサービスの質の向上のための研修や、就業相談などを実施し、高齢者の生きがいづくりや活力ある地域社会づくりに貢献している。</p>						
<b>2. 経営状況</b>								
財務	要約	(1) 出資等の状況						
		① 出資・出えんの状況 [千円]						
		なし						
		② 補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]						
		区分	H22		H23		H24	
		収入総額	504,812		506,213		467,666	
		委託料	186,649	37.0%	187,407	37.0%	160,997	34.4%
		補助金	68,063	13.5%	66,194	13.1%	66,116	14.1%
		貸付金	-	-	-	-	-	-
		計	254,712	50.5%	253,601	50.1%	227,113	48.6%
支出総額	504,178		501,380		470,542			
収支差額	634		4,833		△2,876			

<b>団体名</b>		<b>11. 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター</b>			
財務	要約	(2) 団体の財務状況			
		① 要約貸借対照表 [千円]			
		項目	H22	H23	H24
	資産	流動資産	66,120	72,725	63,376
		固定資産	29,136	29,569	29,666
		資産合計	95,256	102,294	93,042
	負債	流動負債	38,587	40,359	33,254
		固定負債	2,122	2,554	3,303
		正味財産	54,548	59,381	56,485
		負債・正味財産合計	95,256	102,294	93,042
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]			
		項目	H22	H23	H24
		一般正味財産増減の部			
	収益	事業収益	431,867	437,294	398,947
		その他	72,562	68,920	68,718
		収益計	504,428	506,214	467,666
	費用	事業費	412,704	482,415	448,920
		管理費	84,302	18,965	21,622
		その他	7	-	19
		費用計	497,012	501,380	470,562
		当期一般正味財産増減額	7,416	4,833	△2,896
		指定正味財産増減の部			
		当期指定正味財産増減額	-	-	-
		正味財産期末残高	54,548	59,381	56,485
		③ 有利子負債の推移			
		なし			
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入のおおよそ半分程度を市の委託料及び補助金に依存している。</li> <li>● 平成 24 年度は、国による適正就業指導検査への対応に伴い、請負契約に適さない契約を解除したことや、大規模契約先の駐輪場管理業務が平成 24 年 3 月で終了したこと等の影響により、収益が前年度比で 8.7%減少している。</li> <li>● 平成 24 年度の費用は、収益の減少に伴って減少しているものの、通信運搬費や賃借料等の管理費の増加により、当期一般正味財産増減額は赤字となっている。</li> </ul>			

<b>団体名</b>		<b>11. 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター</b>				
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 流動比率は平成22年度が171.3%、平成23年度が180.2%、平成24年度が190.5%となっている。</li> <li>● 正味財産比率は平成22年度が57.2%、平成23年度が58.0%、平成24年度が60.7%となっており、安定的に推移している。</li> </ul>				
人事	要約	<b>(1) 役員の状況</b> [人]				
			H23	H24	H25	
		常勤役員数	1	1	1	
			市派遣	-	-	-
			市OB	1	1	1
			その他	-	-	-
		非常勤役員数	17	17	17	
			市派遣	1	1	1
			市OB	-	-	-
			その他	16	16	16
<b>(2) 職員の状況</b> [人]						
	H23	H24	H25			
職員数	12(1)	12(1)	11			
	市派遣	1	1	1		
	市OB	1(1)	1(1)	-		
	固有	5	5	5		
	その他	5	5	5		
( ) 内は、うち管理職の人数						
<b>(3) 人件費の推移</b> [千円]						
	H22	H23	H24			
人件費	75,830	76,486	78,008			
なお、人件費に含めている科目は、職員基本給、職員特別給与、職員諸手当、臨時雇賃金、嘱託職員（等）報酬、退職給付費用、法定福利費、福利厚生費である。						
現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 常勤役員は市OBが務めているが、市への人的依存度は比較的低い状況にある。</li> <li>● 人件費は微増しているものの概ね横ばいであり、収益に対する人件費の割合も安定的に推移している。</li> <li>● 職員の高齢化が進んでいる。</li> </ul>					

<b>団体名</b>		<b>1 1. 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター</b>																																									
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従来は社会参加の意欲ある健康な高齢者のための活躍の場の提供としての位置づけであったが、近年は、経済的な理由から収入を求める会員が増加している。</li> <li>● 団塊世代の入会が見込みを下回っている。</li> <li>● ホワイトカラー職を求める会員が増加しており、会員と発注者側のニーズがマッチしないケースが見られる。</li> <li>● 発注者側の要求度が高くなっており、より質の高いサービスを求める傾向にある。</li> <li>● シルバー人材センターの実施事業が民間事業者と競合するケースが見られる。</li> </ul>																																									
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 24 年度に赤字が生じていることから、新規契約先の開拓を進めるとともに、自主事業による自主財源の確保に努める等の取り組みを進める必要がある。</li> <li>● 自主事業の実施にあたっては、民業圧迫を防止する必要がある。</li> <li>● 管理費が増加傾向にあるため、内容を精査し効率化することが求められる。</li> <li>● サービスの質を確保するため、会員の意識改革や接遇向上等を図る必要がある。</li> <li>● 会員と発注者側との間での仕事のミスマッチを避けるため、シルバー人材センターの事業目的と、会員を含む高齢者や市内企業のセンターに対する認識とのギャップを解消する取り組みが必要である。</li> <li>● 職員の高齢化に対応するため、新規職員の採用等を検討する必要がある。</li> </ul>																																									
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>																																											
事業の分析・評価		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>独自事業（リサイクル品販売、学習教室・PC教室・手芸小物販売）</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>現団体</td> <td>補助</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>民間受託等事業（庭木剪定・除草・マンション清掃・家事援助等）</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>現団体</td> <td>補助</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>家事援助会員研修委託</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>現団体</td> <td>委託</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>寝具乾燥車等管理委託</td> <td>廃止</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>委託</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>その他（学校施設管理・市報全戸配付・駐輪場管理・公園清掃等）</td> <td>継続</td> <td>現状程度</td> <td>要検討</td> <td>委託</td> </tr> </tbody> </table>						No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	独自事業（リサイクル品販売、学習教室・PC教室・手芸小物販売）	継続	要検討	現団体	補助	2	民間受託等事業（庭木剪定・除草・マンション清掃・家事援助等）	継続	現状程度	現団体	補助	3	家事援助会員研修委託	継続	現状程度	現団体	委託	4	寝具乾燥車等管理委託	廃止	-	-	委託	5	その他（学校施設管理・市報全戸配付・駐輪場管理・公園清掃等）	継続	現状程度	要検討	委託
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類																																						
1	独自事業（リサイクル品販売、学習教室・PC教室・手芸小物販売）	継続	要検討	現団体	補助																																						
2	民間受託等事業（庭木剪定・除草・マンション清掃・家事援助等）	継続	現状程度	現団体	補助																																						
3	家事援助会員研修委託	継続	現状程度	現団体	委託																																						
4	寝具乾燥車等管理委託	廃止	-	-	委託																																						
5	その他（学校施設管理・市報全戸配付・駐輪場管理・公園清掃等）	継続	現状程度	要検討	委託																																						

<b>団体名</b>	11. 公益社団法人 武蔵野市シルバー人材センター																			
事業の見直しの方 向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>独自事業（リサイクル品販売、学習教室・PC教室・手芸小物販売）</td> <td>・当団体の本来事業の実施に不可欠であるため継続するが、ニーズや民業とのバッティングを踏まえて事業のサービス水準を検討する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>民間受託等事業（庭木剪定・除草・マンション清掃・家事援助等）</td> <td>・当団体が継続するが、当団体の会員のニーズにあったサービスの開拓を検討する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>家事援助会員研修委託</td> <td>・引き続き当団体により事業を継続する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>寝具乾燥車等管理委託</td> <td>・市車両の老朽化に伴い、廃止する。 (※H25年度で廃止した)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>その他（学校施設管理・市報全戸配付・駐輪場管理・公園清掃等）</td> <td>・当面は当団体が継続するが、当団体が独自事業及び民間受託事業により財源確保に一定の目処が立った段階で、担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。</td> </tr> </tbody> </table>		No.	事業名	方向性	1	独自事業（リサイクル品販売、学習教室・PC教室・手芸小物販売）	・当団体の本来事業の実施に不可欠であるため継続するが、ニーズや民業とのバッティングを踏まえて事業のサービス水準を検討する。	2	民間受託等事業（庭木剪定・除草・マンション清掃・家事援助等）	・当団体が継続するが、当団体の会員のニーズにあったサービスの開拓を検討する。	3	家事援助会員研修委託	・引き続き当団体により事業を継続する。	4	寝具乾燥車等管理委託	・市車両の老朽化に伴い、廃止する。 (※H25年度で廃止した)	5	その他（学校施設管理・市報全戸配付・駐輪場管理・公園清掃等）	・当面は当団体が継続するが、当団体が独自事業及び民間受託事業により財源確保に一定の目処が立った段階で、担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。
No.	事業名	方向性																		
1	独自事業（リサイクル品販売、学習教室・PC教室・手芸小物販売）	・当団体の本来事業の実施に不可欠であるため継続するが、ニーズや民業とのバッティングを踏まえて事業のサービス水準を検討する。																		
2	民間受託等事業（庭木剪定・除草・マンション清掃・家事援助等）	・当団体が継続するが、当団体の会員のニーズにあったサービスの開拓を検討する。																		
3	家事援助会員研修委託	・引き続き当団体により事業を継続する。																		
4	寝具乾燥車等管理委託	・市車両の老朽化に伴い、廃止する。 (※H25年度で廃止した)																		
5	その他（学校施設管理・市報全戸配付・駐輪場管理・公園清掃等）	・当面は当団体が継続するが、当団体が独自事業及び民間受託事業により財源確保に一定の目処が立った段階で、担い手の選択に競争性を持たせることを検討する。																		
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の高齢化局面において団体が果たすべき役割は大きいことから、高齢者の生きがいつくり、健康づくりを目的とし、引き続き存続する。</li> </ul>																			
<b>4. 見直し案</b>																				
見直しにあたり留 意すべき事項	特になし																			
見直し案	<存続> 高齢者の生きがいと健康づくりを主たる目的とし、団体は存続させる。																			
見直しに向けての 課題	<b>【短期的課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事務局経費の削減に向けた事務局業務内容の精査（団体）</li> <li>● 会員の意識改革と接遇向上（団体）</li> <li>● 契約先の開拓による財源確保（団体）</li> </ul> <b>【中長期的課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員の高齢化への対応（団体）</li> <li>● 会員の確保（団体）</li> </ul>																			



<b>団体名</b>		12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会							
<b>1. 基本情報</b>									
設立年月日		昭和37年6月9日							
目的		市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図る。							
背景		<p>市民の一人一人が地域社会における主役となり、同じ地域に暮らす人々と協力して地域福祉を充実させることを目的として、昭和37年に武蔵野市社会福祉協議会として設立され、昭和53年に社会福祉法人として認可を受け、当時全国で唯一その名に”民”の字が入った、社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会となった。</p> <p>平成7年には、ボランティアセンター武蔵野と統合し、事業規模を拡大している。</p>							
市への貢献・成果		<p>地域福祉の推進の担い手として、行政の手の届かない、地域に根ざしたきめ細やかなサービスを実施し、市の地域福祉の向上に寄与している。</p> <p>13ある地域福祉活動推進協議会（地域社協・福祉の会）を組織し、地域の支え合い活動の活性化を図るとともに、災害時要援護者対策事業を市とともに進めている。</p> <p>また、外出支援事業であるドア・ツー・ドアの移送サービス「レモンキャブ」や、年間1,000万円（テンミリオン）を上限とした市の補助を得て、デイサービスやショートステイなどのサービスを実施する「テンミリオンハウス」など、市民の共助により行われている事業が継続していけるよう、運営支援を行っている。</p>							
<b>2. 経営状況</b>									
財務	要約	(1) 出資等の状況							
		① 出資・出えんの状況 <span style="float:right">[千円]</span>							
		合計額		3,000	100.0%	経過			
		内訳	基本財産	1,000	33.3%	設立時	1,000		
				2,000	66.7%	平成10年3月	2,000		
		② 補助金、委託料、貸付金の推移 <span style="float:right">[千円]</span>							
		区分	H22		H23		H24		
		収入総額	283,093		276,079		269,430		
		内訳	委託料	68,079	24.0%	68,968	25.0%	68,125	25.3%
			補助金	44,378	15.7%	99,215	35.9%	101,367	37.6%
貸付金	-		-	-	-	-	-		
計	112,457		39.7%	168,183	60.9%	169,492	62.9%		
支出総額	283,093		276,079		269,430				
収支差額	-		-		-				

団体名		12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会																																																											
財務	要約	(2) 団体の財務状況																																																											
		① 要約貸借対照表 [千円]																																																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">資産</td> <td>流動資産</td> <td>61,004</td> <td>60,575</td> <td>68,070</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td>433,788</td> <td>428,944</td> <td>420,724</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td>494,792</td> <td>489,518</td> <td>488,795</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">負債</td> <td>流動負債</td> <td>23,147</td> <td>22,040</td> <td>22,490</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td>13,028</td> <td>14,089</td> <td>15,679</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産</td> <td>458,619</td> <td>453,391</td> <td>450,626</td> </tr> <tr> <td colspan="2">負債・正味財産合計</td> <td>494,792</td> <td>489,518</td> <td>488,795</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	資産	流動資産	61,004	60,575	68,070	固定資産	433,788	428,944	420,724	資産合計	494,792	489,518	488,795	負債	流動負債	23,147	22,040	22,490	固定負債	13,028	14,089	15,679	正味財産		458,619	453,391	450,626	負債・正味財産合計		494,792	489,518	488,795																			
項目		H22	H23	H24																																																									
資産	流動資産	61,004	60,575	68,070																																																									
	固定資産	433,788	428,944	420,724																																																									
	資産合計	494,792	489,518	488,795																																																									
負債	流動負債	23,147	22,040	22,490																																																									
	固定負債	13,028	14,089	15,679																																																									
正味財産		458,619	453,391	450,626																																																									
負債・正味財産合計		494,792	489,518	488,795																																																									
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]																																																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">一般正味財産増減の部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">収益</td> <td>事業収益</td> <td>163,373</td> <td>218,124</td> <td>218,844</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>78,194</td> <td>13,177</td> <td>4,050</td> </tr> <tr> <td>収益計</td> <td>241,567</td> <td>231,301</td> <td>222,893</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用</td> <td>人件費</td> <td>109,882</td> <td>109,699</td> <td>110,196</td> </tr> <tr> <td>人件費以外の 事業活動費</td> <td>110,173</td> <td>113,835</td> <td>111,651</td> </tr> <tr> <td>費用計</td> <td>220,055</td> <td>223,534</td> <td>221,847</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期一般正味財産増減額</td> <td>△52,535</td> <td>△5,228</td> <td>△2,764</td> </tr> <tr> <td colspan="2">指定正味財産増減の部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期指定正味財産増減額</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">正味財産期末残高</td> <td>67,042</td> <td>74,328</td> <td>75,443</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	一般正味財産増減の部					収益	事業収益	163,373	218,124	218,844	その他	78,194	13,177	4,050	収益計	241,567	231,301	222,893	費用	人件費	109,882	109,699	110,196	人件費以外の 事業活動費	110,173	113,835	111,651	費用計	220,055	223,534	221,847	当期一般正味財産増減額		△52,535	△5,228	△2,764	指定正味財産増減の部					当期指定正味財産増減額		-	-	-	正味財産期末残高		67,042	74,328	75,443
項目		H22	H23	H24																																																									
一般正味財産増減の部																																																													
収益	事業収益	163,373	218,124	218,844																																																									
	その他	78,194	13,177	4,050																																																									
	収益計	241,567	231,301	222,893																																																									
費用	人件費	109,882	109,699	110,196																																																									
	人件費以外の 事業活動費	110,173	113,835	111,651																																																									
	費用計	220,055	223,534	221,847																																																									
当期一般正味財産増減額		△52,535	△5,228	△2,764																																																									
指定正味財産増減の部																																																													
当期指定正味財産増減額		-	-	-																																																									
正味財産期末残高		67,042	74,328	75,443																																																									
		③ 有利子負債の推移																																																											
		なし																																																											
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入の約6割が市からの委託料及び補助金であり、市への財政的依存度が相対的に高い状況にある。</li> <li>● 当期一般正味財産増減額は、赤字が続いている。</li> <li>● 流動比率は平成22年度が263.6%、平成23年度が274.8%、平成24年度が302.7%となっている。</li> <li>● 正味財産比率は平成22年度は92.7%、平成23年度は92.6%、平成24年度は92.2%となっている。</li> </ul>																																																											

<b>団体名</b>		<b>12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会</b>				
人事	要約	<b>(1) 役員の状況</b> [人]				
			H23	H24	H25	
		常勤役員数	1	1	1	
		市派遣	市派遣	-	-	-
			市OB	1	1	1
			その他	-	-	-
		非常勤役員数	16	16	17	
		市派遣	市派遣	1	1	1
			市OB	1	1	1
			その他	14	14	15
<b>(2) 職員の状況</b> [人]						
	H23	H24	H25			
職員数	22(2)	21(1)	21(1)			
市派遣	市派遣	2(1)	2(1)	1(1)		
	市OB	1	1	1		
	固有	6	6	7		
	その他	13	12	12		
( ) 内は、うち管理職の人数						
<b>(3) 人件費の推移</b> [千円]						
	H22	H23	H24			
人件費	109,882	109,699	110,196			
なお、人件費に含めている科目は、職員俸給、役員報酬、職員諸手当、非常勤職員給与、退職一時金、退職給与引当金繰入、賞与引当金繰入、法定福利費、福利厚生費、退職共済掛金である。						
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の派遣職員の割合は低く、市への人的依存度は相対的に低い状況にある。</li> <li>● 人員数及び人件費は概ね横ばいで推移している。</li> <li>● 収益に対する人件費の割合は概ね安定して推移している。</li> </ul>				
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業数に比して、職員数が少ない。</li> <li>● 福祉サービスに対するニーズはより専門化、高度化、多様化している。</li> <li>● 本部社屋の賃借料を市が補助していたが、社屋を購入することとしている。</li> </ul>				

<b>団体名</b>	<b>12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会</b>																																																																							
経営上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市への財政的依存度を段階的に下げるために、会費収入を増加させるための方策の検討が必要である。</li> <li>● 事業数に比して職員数が少ないことから、事業の精査を実施して事業の主体等の検討を行うことが求められる。なお、平成26年4月より正規職員を1名増員しており、今後も事業を見直した上で適正な人員配置を図る。</li> <li>● 福祉サービスのニーズに対し、市民社協として対応するために、職員自らが地域の課題を発見し、解決策を提案していくなどの企画提案力を育成することが求められる。</li> </ul>																																																																							
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>																																																																								
事業の分析・評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th data-bbox="469 846 555 891">No.</th> <th data-bbox="555 846 823 891">事業名</th> <th data-bbox="823 846 954 891">仕分け</th> <th data-bbox="954 846 1086 891">水準</th> <th data-bbox="1086 846 1219 891">主体</th> <th data-bbox="1219 846 1351 891">事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="469 891 555 987">1</td> <td data-bbox="555 891 823 987">普及・宣伝事業（広報紙発行等）</td> <td data-bbox="823 891 954 987">継続</td> <td data-bbox="954 891 1086 987">要検討</td> <td data-bbox="1086 891 1219 987">現団体</td> <td data-bbox="1219 891 1351 987">補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 987 555 1084">2</td> <td data-bbox="555 987 823 1084">調査・研究事業（計画策定）</td> <td data-bbox="823 987 954 1084">継続</td> <td data-bbox="954 987 1086 1084">現状程度</td> <td data-bbox="1086 987 1219 1084">現団体</td> <td data-bbox="1219 987 1351 1084">補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1084 555 1229">3</td> <td data-bbox="555 1084 823 1229">その他の法人運営事業（老人クラブ連合会事務局）</td> <td data-bbox="823 1084 954 1229">継続</td> <td data-bbox="954 1084 1086 1229">要検討</td> <td data-bbox="1086 1084 1219 1229">要検討</td> <td data-bbox="1219 1084 1351 1229">補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1229 555 1326">4</td> <td data-bbox="555 1229 823 1326">その他の法人運営事業（その他）</td> <td data-bbox="823 1229 954 1326">継続</td> <td data-bbox="954 1229 1086 1326">要検討</td> <td data-bbox="1086 1229 1219 1326">現団体</td> <td data-bbox="1219 1229 1351 1326">補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1326 555 1382">5</td> <td data-bbox="555 1326 823 1382">助成事業</td> <td data-bbox="823 1326 954 1382">継続</td> <td data-bbox="954 1326 1086 1382">現状程度</td> <td data-bbox="1086 1326 1219 1382">現団体</td> <td data-bbox="1219 1326 1351 1382">補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1382 555 1527">6</td> <td data-bbox="555 1382 823 1527">地域福祉事業（地域社協関連・児童福祉事業・再生援護事業）</td> <td data-bbox="823 1382 954 1527">継続</td> <td data-bbox="954 1382 1086 1527">要検討</td> <td data-bbox="1086 1382 1219 1527">現団体</td> <td data-bbox="1219 1382 1351 1527">補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1527 555 1624">7</td> <td data-bbox="555 1527 823 1624">地域福祉事業（ドライブレクリエーション）</td> <td data-bbox="823 1527 954 1624">継続</td> <td data-bbox="954 1527 1086 1624">要検討</td> <td data-bbox="1086 1527 1219 1624">現団体</td> <td data-bbox="1219 1527 1351 1624">補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1624 555 1720">8</td> <td data-bbox="555 1624 823 1720">地域福祉事業（結婚相談事業）</td> <td data-bbox="823 1624 954 1720">廃止</td> <td data-bbox="954 1624 1086 1720">-</td> <td data-bbox="1086 1624 1219 1720">-</td> <td data-bbox="1219 1624 1351 1720">補助</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1720 555 1865">9</td> <td data-bbox="555 1720 823 1865">重度心身障害者（児）理容・美容サービス事業</td> <td data-bbox="823 1720 954 1865">継続</td> <td data-bbox="954 1720 1086 1865">要検討</td> <td data-bbox="1086 1720 1219 1865">要検討</td> <td data-bbox="1219 1720 1351 1865">委託</td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1865 555 1964">10</td> <td data-bbox="555 1865 823 1964">ねたきり高齢者理容・美容サービス事業</td> <td data-bbox="823 1865 954 1964">継続</td> <td data-bbox="954 1865 1086 1964">要検討</td> <td data-bbox="1086 1865 1219 1964">要検討</td> <td data-bbox="1219 1865 1351 1964">委託</td> </tr> </tbody> </table>						No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	普及・宣伝事業（広報紙発行等）	継続	要検討	現団体	補助	2	調査・研究事業（計画策定）	継続	現状程度	現団体	補助	3	その他の法人運営事業（老人クラブ連合会事務局）	継続	要検討	要検討	補助	4	その他の法人運営事業（その他）	継続	要検討	現団体	補助	5	助成事業	継続	現状程度	現団体	補助	6	地域福祉事業（地域社協関連・児童福祉事業・再生援護事業）	継続	要検討	現団体	補助	7	地域福祉事業（ドライブレクリエーション）	継続	要検討	現団体	補助	8	地域福祉事業（結婚相談事業）	廃止	-	-	補助	9	重度心身障害者（児）理容・美容サービス事業	継続	要検討	要検討	委託	10	ねたきり高齢者理容・美容サービス事業	継続	要検討	要検討	委託
	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類																																																																		
	1	普及・宣伝事業（広報紙発行等）	継続	要検討	現団体	補助																																																																		
	2	調査・研究事業（計画策定）	継続	現状程度	現団体	補助																																																																		
	3	その他の法人運営事業（老人クラブ連合会事務局）	継続	要検討	要検討	補助																																																																		
	4	その他の法人運営事業（その他）	継続	要検討	現団体	補助																																																																		
	5	助成事業	継続	現状程度	現団体	補助																																																																		
	6	地域福祉事業（地域社協関連・児童福祉事業・再生援護事業）	継続	要検討	現団体	補助																																																																		
	7	地域福祉事業（ドライブレクリエーション）	継続	要検討	現団体	補助																																																																		
	8	地域福祉事業（結婚相談事業）	廃止	-	-	補助																																																																		
	9	重度心身障害者（児）理容・美容サービス事業	継続	要検討	要検討	委託																																																																		
	10	ねたきり高齢者理容・美容サービス事業	継続	要検討	要検討	委託																																																																		

団体名	12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会					
事業の分析・評価	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	11	テンミリオンハウス起業・運営支援事業	継続	現状程度	現団体	委託
	12	移送サービス（レモンキャブ）事業	継続	要検討	現団体	委託
	13	低所得者・離職者対策事業	継続	現状程度	現団体	委託
	14	住宅支援給付事業	継続	要検討	現団体	委託
	15	地域活動支援事業（ボランティア育成事業）	継続	現状程度	要検討	委託
	16	地域活動支援事業（障がい者講習会）	継続	要検討	要検討	委託
	17	地域活動支援事業（こころのバリアフリー啓発事業）	継続	要検討	現団体	委託
	18	生活福祉資金貸付事業	継続	現状程度	現団体	委託 <sup>15</sup>
	19	自動販売機運営事業	継続	現状程度	現団体	自主
	20	広告事業	継続	現状程度	現団体	自主
	21	貸付事業（生活資金、入学資金）	継続	要検討	現団体	補助
	22	歳末たすけあい事業	継続	要検討	現団体	自主
	23	ボランティアセンター武蔵野事業（ボランティア講座）	継続	現状程度	現団体	補助
	24	ボランティアセンター武蔵野事業（お父さんお帰りなさいパーティー）	継続	要検討	要検討	補助
25	ボランティアセンター武蔵野事業（その他ボランティアセンター事業全般）	継続	要検討	現団体	補助	

<sup>15</sup>東京都社会福祉協議会からの委託である。

団体名	12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	1	普及・宣伝事業（広報紙発行等）	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	2	調査・研究事業（計画策定）	・引き続き当団体により事業を継続する。
	3	その他の法人運営事業（老人クラブ連合会事務局）	・当面は当団体が継続するが、老人クラブ連合会との役割分担を明確にし、当団体職員への依存度を段階的に引き下げる。
	4	その他の法人運営事業（その他）	・事業の課題を踏まえつつ、コストと成果を勘案した上で、個々の事業については廃止も検討する。
	5	助成事業	・引き続き当団体により事業を継続する。
	6	地域福祉事業（地域社協関連・児童福祉事業・再生援護事業）	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	7	地域福祉事業（ドライブレクリエーション）	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	8	地域福祉事業（結婚相談事業）	・事業を廃止する。 (※H25年度で廃止した)
	9	重度心身障害者（児）理容・美容サービス事業	・利用状況を踏まえて事業の存廃を検討する。 ・事業を継続する場合、当団体以外の担い手を検討する。
	10	ねたきり高齢者理容・美容サービス事業	・利用状況を踏まえて事業の存廃を検討する。 ・事業を継続する場合、当団体以外の担い手を検討する。
	11	テンミリオンハウス起業・運営支援事業	・引き続き当団体により事業を継続する。
	12	移送サービス（レモンキャブ）事業	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	13	低所得者・離職者対策事業	・引き続き当団体により事業を継続する。
	14	住宅支援給付事業	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。

団体名	12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	15	地域活動支援事業（ボランティア育成事業）	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能な性質の事業であるため、段階的に担い手の見直しを検討する。
	16	地域活動支援事業（障がい者講習会）	・事業の効率・効果が最も高くなるよう主体の検討を行う。
	17	地域活動支援事業（こころのバリアフリー啓発事業）	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	18	生活福祉資金貸付事業	・引き続き当団体により事業を継続する。
	19	自動販売機運営事業	・当団体の本来事業の実施に不可欠であるため継続する。
	20	広告事業	・当団体の本来事業の実施に不可欠であるため継続する。
	21	貸付事業（生活資金、入学資金）	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	22	歳末たすけあい事業	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	23	ボランティアセンター 武蔵野事業（ボランティア講座）	・他の財援団体の取り組みと連携しつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	24	ボランティアセンター 武蔵野事業（お父さんお帰るなさいパーティー）	・当面は当団体が継続するが、同種事業を実施する団体等との連携を図り、将来的な担い手見直しについて検討する。
25	ボランティアセンター 武蔵野事業（その他ボランティアセンター事業全般）	・他の財援団体の取り組みと連携しつつ、引き続き当団体により事業を継続する。	
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者福祉や地域活動支援を中心とした様々な事業を実施しており、民間事業者によって代替可能な事業も実施している。より公益性が高く民間事業者が実施しづらいサービスに重点を置くとともに、事業の効率化と質の向上を図る。また、市民共助による福祉を推進していくため、事業の整理等を行い体制を強化した上で福祉公社と統合する。</li> </ul>		

<b>団体名</b>	12. 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会
<b>4. 見直し案</b>	
見直しにあたり留意すべき事項	特になし
見直し案	<p>&lt;中長期的に福祉公社と統合&gt;</p> <p>事業の整理等を行い、市民共助による福祉を推進していくため、市民社協の役割の明確化を行った上で福祉公社と統合する。</p>
見直しに向けての課題	<p><b>【短期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 軽度の要介護者への事業展開の検討（市・団体）</li> <li>● 企画提案力のある職員の育成（団体）</li> <li>● 会員の拡大及び会費の徴収方法の検討（団体）</li> <li>● 福祉公社との統合手法の検討（市・団体）</li> </ul> <p><b>【中長期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営能力を持つ人材の育成（団体）</li> </ul>



<b>団体名</b>		13. 社会福祉法人 武蔵野							
<b>1. 基本情報</b>									
設立年月日		平成4年3月27日							
目的		福祉サービスを必要とする人が、心身ともに健やかに育成され、又は社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるとともに、その環境、年齢及び心身の状況に応じ、地域において必要な福祉サービスを総合的に提供されるように支援する。							
背景		<p>平成4年に、養護学校の卒業生の受け皿としての障害者総合センターの運営を行う団体として社会福祉法人武蔵野障害者総合センターが設立された。</p> <p>平成6年には、東京都から移管を受け、軽費老人ホーム「武蔵野市くぬぎ園」を開設し、同年に社会福祉法人武蔵野に名称変更している。その後、数々の介護支援施設、グループホームを開設し、指定管理者制度導入後は、くぬぎ園、桜堤ケアハウス、みどりのこども館の指定管理者としても活動を行っている。</p>							
市への貢献・成果		<p>設立当初より、障害者福祉を中心とした市の社会福祉施策の担い手として、様々な福祉サービスを提供している。</p> <p>市の福祉施設や自ら所有する施設を通じたきめ細やかなサービスを、市民ボランティアと連携して実施するほか、施設見学や視察の受入、施設実習生の受入も積極的に行い、地域の福祉人材の育成に努めている。平成25年12月には、グループホーム、ケアホーム、通所施設等を含む複合施設である北町ほっと館を開所している。</p>							
<b>2. 経営状況</b>									
財務	要約	<b>(1) 出資等の状況</b>							
		<b>① 出資・出えんの状況</b> [千円]							
		合計額		3,972,294	100.0%	経過			
		内訳	建物	1,565,967	39.4%	設立時	1,565,967		
			土地	2,401,327	60.5%	平成6年12月	2,401,327		
			基金	5,000	0.1%	平成2年4月	5,000		
		<b>② 補助金、委託料、貸付金の推移</b> [千円]							
		区分		H22		H23		H24	
		収入総額		1,985,137		1,890,240		2,363,739	
			委託料	388,187	19.6%	406,618	21.5%	408,325	17.3%
補助金	321,545		16.2%	245,731	13.0%	245,939	10.4%		
貸付金	-		-	-	-	-	-		
計	709,732		35.8%	652,349	34.5%	654,264	27.7%		
支出総額		2,014,326		1,883,624		2,396,094			
収支差額		△29,189		6,616		△32,355			

団体名		13. 社会福祉法人 武蔵野				
財務	要約	(2) 団体の財務状況				
		① 要約貸借対照表 [千円]				
		項目		H22	H23	H24
		資産	流動資産	588,874	577,157	538,231
			固定資産	4,061,816	4,027,560	4,229,316
			資産合計	4,650,690	4,604,717	4,767,547
		負債	流動負債	209,440	191,106	184,534
			固定負債	316,752	281,360	471,424
		正味財産		4,124,499	4,132,251	4,111,589
		負債・正味財産合計		4,650,690	4,604,717	4,767,547
		② 要約正味財産増減計算書 [千円]				
		項目		H22	H23	H24
		一般正味財産増減の部				
		収益	事業収益	1,862,766	1,851,242	1,844,113
			その他	155,606	89,347	108,947
収益計	2,018,372		1,940,589	1,953,060		
費用	人件費	1,176,242	1,165,548	1,171,096		
	人件費以外の 事業活動費	488,496	480,321	522,952		
	その他	144,575	86,513	91,399		
	費用計	1,809,313	1,732,382	1,785,447		
当期活動収支差額		57,900	55,054	20,725		
国庫補助金等特別積立金増減額						
国庫補助金等特別積立金増減額		△52,234	△47,302	△41,387		
正味財産期末残高		4,124,499	4,132,251	4,111,589		
③ 有利子負債の推移 [千円]						
項目		H22	H23	H24		
長期借入金		179,989	134,989	319,897		

<b>団体名</b>		<b>13. 社会福祉法人 武蔵野</b>																																																																						
財務	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入の約3割が市からの委託料及び補助金で賄われているが、相対的に市への財政的依存度は低い状況にある。</li> <li>● 当期活動収支差額は平成22年度が57,900千円、平成23年度が55,054千円、平成24年度が20,725千円であり、黒字が続いているものの、平成24年度は事務費支出額の増加等を理由に、黒字幅が小さくなっている。</li> <li>● 流動比率は平成22年度が281.1%、平成23年度が302.0%、平成24年度が291.6%となっている。</li> <li>● 正味財産比率は平成22年度が88.6%、平成23年度が89.7%、平成24年度が86.2%となっている。</li> <li>● 平成25年12月に設立された北町ほっと館の建設のため、平成24年度に設備資金借入金が増加しており、見合いの資産として土地及び建設仮勘定が増加している。</li> </ul>																																																																						
人事	要約	<b>(1) 役員の状況</b> <span style="float: right;">[人]</span> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">常勤役員数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>市派遣</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">非常勤役員数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>市派遣</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <b>(2) 職員の状況</b> <span style="float: right;">[人]</span> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">職員数</td> <td>262(9)</td> <td>261(10)</td> <td>274(10)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4"></td> <td>市派遣</td> <td>3(2)</td> <td>2(2)</td> <td>1(1)</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>固有</td> <td>102(7)</td> <td>106(8)</td> <td>117(9)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>157</td> <td>153</td> <td>156</td> </tr> </tbody> </table> <p>( )内は、うち管理職の人数</p>					H23	H24	H25	常勤役員数		1	1	1		市派遣	-	-	-	市OB	-	-	-	その他	1	1	1	非常勤役員数		6	6	6		市派遣	-	-	-	市OB	-	-	-	その他	6	6	6			H23	H24	H25	職員数		262(9)	261(10)	274(10)		市派遣	3(2)	2(2)	1(1)	市OB	-	-	-	固有	102(7)	106(8)	117(9)	その他	157	153	156
		H23	H24	H25																																																																				
常勤役員数		1	1	1																																																																				
	市派遣	-	-	-																																																																				
	市OB	-	-	-																																																																				
	その他	1	1	1																																																																				
非常勤役員数		6	6	6																																																																				
	市派遣	-	-	-																																																																				
	市OB	-	-	-																																																																				
	その他	6	6	6																																																																				
		H23	H24	H25																																																																				
職員数		262(9)	261(10)	274(10)																																																																				
	市派遣	3(2)	2(2)	1(1)																																																																				
	市OB	-	-	-																																																																				
	固有	102(7)	106(8)	117(9)																																																																				
	その他	157	153	156																																																																				

団体名		13. 社会福祉法人 武蔵野																		
人事	要約	(3)人件費の推移 [千円]																		
			H22	H23	H24															
		人件費	1,165,726	1,165,548	1,171,096															
		なお、人件費に含めている科目は、人件費、退職給与引当金繰入である。																		
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新規事業への対応等のために、平成25年度に職員数が増加している。</li> <li>● 人件費は概ね横ばいで推移してきている。</li> <li>● 収益に対する人件費の割合は安定して推移している。</li> <li>● 市派遣の職員は平成22年度が3人、平成23年度が2人、平成24年度が1人と年々減少しており、市への人的依存度は低下傾向にある。</li> </ul>																		
施設	要約	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要施設の名称</th> <th>建設時期</th> <th>延べ床面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武蔵野障害者総合センター</td> <td>平成5年3月</td> <td>2,991.86㎡</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム ゆとりえ</td> <td>平成8年5月</td> <td>1,924.84㎡</td> </tr> <tr> <td>重度身体障害者グループホーム RENG A</td> <td>平成18年3月</td> <td>297.43㎡</td> </tr> <tr> <td>北町ほっと館</td> <td>平成25年12月</td> <td>621.31㎡</td> </tr> </tbody> </table>				主要施設の名称	建設時期	延べ床面積	武蔵野障害者総合センター	平成5年3月	2,991.86㎡	特別養護老人ホーム ゆとりえ	平成8年5月	1,924.84㎡	重度身体障害者グループホーム RENG A	平成18年3月	297.43㎡	北町ほっと館	平成25年12月	621.31㎡
	主要施設の名称	建設時期	延べ床面積																	
武蔵野障害者総合センター	平成5年3月	2,991.86㎡																		
特別養護老人ホーム ゆとりえ	平成8年5月	1,924.84㎡																		
重度身体障害者グループホーム RENG A	平成18年3月	297.43㎡																		
北町ほっと館	平成25年12月	621.31㎡																		
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成25年12月に、新施設である北町ほっと館が開設されている。</li> </ul>																		
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 所有施設での事業のほか、くぬぎ園、桜堤ケアハウス、みどりのこども館の指定管理者となっている。</li> <li>● くぬぎ園は老朽化が進んでおり、平成26年度末に閉園を予定している。</li> </ul>																		
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法人自らが施設を所有していることから、老朽化や安全性確保の対応として、健全な維持管理や将来的な更新を見据えた経営を行う必要がある。</li> <li>● 市からの財政的依存度、人的依存度は相対的に低く、自立性が高まっていることから、今後一層経営感覚を高め、市からの運営費補助を最小限に抑えられような経営を進めることが求められる。</li> </ul>																		
3. 基本方針に基づく検討																				
事業の分析・評価		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ワークセンター大地事業</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>現団体</td> <td>補助</td> </tr> </tbody> </table>				No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	ワークセンター大地事業	継続	要検討	現団体	補助			
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類															
1	ワークセンター大地事業	継続	要検討	現団体	補助															

団体名	13. 社会福祉法人 武蔵野					
事業の分析・評価	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	2	デイセンター山びこ事業	継続	現状程度	現団体	補助
	3	デイセンターふれあい事業	継続	要検討	現団体	補助
	4	地域生活支援センターびーと	継続	要検討	現団体	委託
	5	(居宅支援事業) やはたハウス・せきまえハウス	継続	要検討	現団体	自主
	6	生活リハビリサポートすばる (自立訓練・生活介護)	継続	要検討	現団体	自主委託
	7	生活リハビリサポートすばる (専門相談)	継続	現状程度	現団体	委託
	8	くぬぎ園	廃止	-	-	指定管理
	9	桜堤ケアハウス	継続	要検討	現団体	指定管理
	10	桜堤ケアハウスデイサービスセンター	継続	要検討	現団体	指定管理
	11	みどりのこども館	継続	要検討	現団体	指定管理
	12	桜堤ケアハウス在宅介護支援センター	継続	要検討	現団体	委託
	13	高齢者食事サービス事業	継続	要検討	要検討	自主委託
	14	特別養護老人ホームゆとりえ運営事業	継続	要検討	現団体	自主補助
	15	ゆとりえ短期入所 (ショートステイ)	継続	要検討	現団体	自主委託
	16	ゆとりえデイサービスセンター	継続	要検討	現団体	自主委託
	17	ゆとりえ在宅介護支援センター	継続	要検討	現団体	委託

団体名	13. 社会福祉法人 武蔵野					
事業の分析・評価	No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
	18	(居宅支援事業) ショートステイハウス などごみの家	継続	要検討	現団体	補助
	19	(居宅支援事業) グループホームRENGA	継続	要検討	現団体	補助
	20	障害者就労支援センターあいる	継続	要検討	現団体 (他2団体)	委託
	21	ワークセンターけやき事業	継続	要検討	現団体	補助
	22	武蔵野福祉作業所	継続	要検討	現団体	自主
	23	ジョブアシスト いんくる	継続	要検討	現団体	補助
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性			
	1	ワークセンター大地事業	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。			
	2	デイセンター山びこ事業	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。			
	3	デイセンターふれあい事業	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。			
	4	地域生活支援センターびーと	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。			
	5	(居宅支援事業) やはたハウス・せきまえハウス	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。			
	6	生活リハビリサポートすばる (自立訓練・生活介護)	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。			
	7	生活リハビリサポートすばる (専門相談)	・引き続き当団体により事業を継続する。			
	8	くぬぎ園	・平成26年度末で事業を廃止する。			

団体名	13. 社会福祉法人 武蔵野		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	9	桜堤ケアハウス	・事業の課題を踏まえつつ、他事業との連携を図りながら引き続き当団体により事業を継続する。
	10	桜堤ケアハウスデイサービスセンター	・事業の見直しを図りつつ、当面は当団体により事業を継続する。
	11	みどりのこども館	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	12	桜堤ケアハウス在宅介護支援センター	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	13	高齢者食事サービス事業	・当面は当団体が継続するが、民間でも実施可能であり、一般にも浸透してきていることから、将来的に他の財援団体の同種事業とあわせて主体の見直しを検討する。
	14	特別養護老人ホームゆとりえ運営事業	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	15	ゆとりえ短期入所（ショートステイ）	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	16	ゆとりえデイサービスセンター	・当面は当団体が継続するが、将来的に他の財援団体の同種事業とあわせて主体の見直しを検討する。
	17	ゆとりえ在宅介護支援センター	・事業の課題を踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	18	（居宅支援事業）ショートステイハウス なごみの家	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	19	（居宅支援事業）グループホーム Renga	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
	20	障害者就労支援センターあいる	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体も受託法人の一つとして事業を継続する。
	21	ワークセンターけやき事業	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。
22	武蔵野福祉作業所	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体により事業を継続する。	

<b>団体名</b>	<b>13. 社会福祉法人 武蔵野</b>		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	23	ジョブアシスト いん くる	・利用者ニーズを踏まえつつ、引き続き当団体 により事業を継続する。
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害者福祉を中心とした、市の福祉施策の核となる団体であることから、引き続き存続する。</li> <li>● 高齢者サービスと障害者サービスを多様に提供する団体として成長していくために、市への財政的依存度を更に引き下げる。</li> </ul>		
<b>4. 見直し案</b>			
見直しにあたり留 意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>● みどりのこども館は社福武蔵野が指定管理者となっているが、当該施設で実施しているおもちゃのぐるりん事業は、社福武蔵野が子ども協会に再委託している状況である。</li> </ul>		
見直し案	<p>&lt;中長期的に自立&gt;</p> <p>高齢者サービスと障害者サービスを多様に提供する法人として、経済的に自立していく。</p>		
見直しに向けての 課題	<p><b>【短期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各保有施設の健全な維持管理（団体）</li> <li>● 各保有施設の将来的な更新を見据えた経営（団体）</li> <li>● 困難ケースを受け入れる場合の統一的なルールづくり（市）</li> </ul> <p><b>【中長期的課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間と競合している分野において、対等な条件で競争ができる体制の確立（団体）</li> <li>● 困難ケースの受入れ体制の拡大（団体）</li> <li>● 子ども協会に委託しているおもちゃのぐるりん事業を含めたみどりのこども館の指定管理の在り方の検討（市・団体）</li> </ul>		



<b>団体名</b>		14. 武蔵野市民防災協会							
<b>1. 基本情報</b>									
設立年月日		平成5年4月15日							
目的		市民の防災思想の普及高揚をはじめ、実践的防災行動力の向上を図り、地域社会の安全と福祉の増進に寄与する。							
背景		全市的な町内会組織を持たない市において、地域の安全点検と市民の防災意識を高揚し、市域全体の防災力向上を図るための組織として平成5年4月に設立された。							
市への貢献・成果		<p>他の自治体と異なり、全市的な町内会組織はないが、地域防災力の向上の担い手として、市内の町目ごとに委嘱した防災推進員とともに活動を行っている。</p> <p>有事に備えた各種防災用品の販売や、市民の防災意識の高揚のための各種啓発事業を実施することで、市民の自主的な防災活動への参画を促している。</p>							
<b>2. 経営状況</b>									
財務	要約	(1) 出資等の状況							
		① 出資・出えんの状況 [千円]							
		なし							
		② 補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]							
		区分		H22		H23		H24	
		収入総額		84,084		84,774		31,676	
			委託料	52,557	62.5%	50,643	59.7%	-	-
			補助金	28,908	34.4%	28,724	33.9%	28,600	90.3%
			貸付金	-	-	-	-	-	-
			計	81,465	96.9%	79,367	93.6%	28,600	90.3%
		支出総額		84,233		82,224		27,993	
		収支差額		△149		2,550		3,683	
		(2) 団体の財務状況							
① 要約貸借対照表 [千円]									
項目		H22		H23		H24			
資産	流動資産	4,435		6,892		10,025			
	固定資産	-		-		-			
	資産合計	4,435		6,892		10,025			
負債	流動負債	1,960		1,754		629			
	固定負債	-		-		-			
正味財産		2,475		5,138		9,396			
負債・正味財産合計		4,435		6,892		10,025			

団体名		14. 武蔵野市民防災協会				
財務	要約	②要約正味財産増減計算書 [千円]				
		項目		H22	H23	H24
		一般正味財産増減の部				
		収益	事業収益	55,139	55,956	2,520
			その他	30,435	28,818	29,156
			収益計	85,573	84,774	31,676
		費用	事業費	65,747	64,646	12,455
			管理費	19,506	17,464	14,964
			その他	-	-	-
			費用計	85,253	82,110	27,418
当期一般正味財産増減額		320	2,664	4,258		
指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額		-	-	-		
正味財産期末残高		2,475	5,138	9,396		
		③有利子負債の推移				
		なし				
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入の9割超が市からの補助金で賄われていることから、市への財政的依存度が極めて高い状況にある。</li> <li>● 家具転倒防止器具助成事業が平成23年度に終了したことから、平成23年度から平成24年度にかけて、収入及び費用が大きく減少している。</li> <li>● 当期一般正味財産増減額は平成22年度が320千円、平成23年度が2,664千円、平成24年度が4,258千円となっており、順調に業績を伸ばしている。</li> <li>● 現預金以外の資産をほとんど有しておらず、負債もほとんどないことから、平成24年度の流動比率が1593.8%、正味財産比率が93.7%と高い値を示している。</li> </ul>				
人事	要約	(1) 役員の状況 [人]				
				H23	H24	H25
		常勤役員数		-	-	-
			市派遣	-	-	-
			市OB	-	-	-
			その他	-	-	-
		非常勤役員数		1	1	1
			市派遣	-	-	-
			市OB	1	1	1
			その他	-	-	-

団体名		14. 武蔵野市民防災協会															
人事	要約	(2) 職員の状況 [人]															
			H23	H24	H25												
		職員数	4(1)	4	4												
		市派遣	-	-	-												
	市OB	-	1	1													
	固有	-	-	-													
	その他	4(1)	3	3													
		( ) 内は、うち管理職の人数															
		(3) 人件費の推移 [千円]															
			H22	H23	H24												
		人件費	24,382	22,344	20,018												
		なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、退職慰労金、福利厚生費、臨時雇賃金である。															
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人件費の金額は緩やかに減少している。</li> <li>● 市職員の派遣はないが、市OBの職員を採用している。</li> <li>● 収益に対する人件費の割合は、収益低下の影響を受け平成24年度に大幅に上昇している。</li> </ul>															
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家具転倒防止器具助成事業が平成23年度に終了したことにより、事業規模が縮小している。</li> <li>● 団体規模に比して評議員数が15名と多い。</li> </ul>															
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市への財政的依存度が高いことから、存続を前提とした場合、自主財源の確保に努める必要がある。</li> <li>● 事業規模が大幅に縮小し、人件費割合が高まっていることから、今後の事業展開と適切な人員数の見極めが必要である。</li> </ul>															
3. 基本方針に基づく検討																	
事業の分析・評価		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>仕分け</th> <th>水準</th> <th>主体</th> <th>事業分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域活動事業、市民啓発事業、斡旋販売事業、管理運営業務</td> <td>継続</td> <td>要検討</td> <td>要検討</td> <td>自主</td> </tr> </tbody> </table>				No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類	1	地域活動事業、市民啓発事業、斡旋販売事業、管理運営業務	継続	要検討	要検討	自主
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類												
1	地域活動事業、市民啓発事業、斡旋販売事業、管理運営業務	継続	要検討	要検討	自主												

<b>団体名</b>	<b>14. 武蔵野市民防災協会</b>		
事業の見直しの方 向性			
	No.	事業名	方向性
	1	地域活動事業、市民啓 発事業、斡旋販売事業、 管理運營業務	・斡旋販売は民間で実施可能であることから、 当該役割を当団体が担う必要はなく、市民が自 主的に民間が販売するグッズを購入するよう 市民に対する意識啓発を行うことをその主た る役割とし事業を推進する。
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東日本大震災以後、市民の防災への関心が高まっていることや、全市的な町内 会組織を持たない市の地域性の観点から、当面存続する。</li> </ul>		
<b>4. 見直し案</b>			
見直しにあたり留 意すべき事項	特になし		
見直し案	<当面存続> 当面は現状のまま存続とし、市と連携して市民の防災力向上に寄与する。		
見直しに向けての 課題	<b>【短期的課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間と競合している防災用品販売事業の在り方の検討（市・団体）</li> <li>● 防災推進委員の活動等の拡大（団体）</li> </ul> <b>【中長期的課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の直営とするか、市と役割分担し拡大するかを検討（市）</li> </ul>		

<b>団体名</b>		15. 株式会社 エフエムむさしの			
<b>1. 基本情報</b>					
設立年月日		平成6年10月19日			
目的		情報文化の受発信と同時に、市民生活の利便性の向上、災害時の情報発信、地域のより活性化のためにコミュニケーション放送局を設立する。			
背景		<p>地域情報・文化の発信ステーションとして、市、武蔵野商工会議所、地元民間企業等の出資を受けて平成6年に設立され、翌年に全国で15番目、東京地区では初のコミュニティFM局として放送を開始している。</p> <p>平成22年7月に観光事業部門として武蔵野市観光推進機構を設立したが、平成25年7月には一般社団法人武蔵野市観光機構として観光部門を分離した。</p> <p>平成24年度から、市の財援団体となっている。</p>			
市への貢献・成果		<p>東京地区初のコミュニティFM局として開局後、市とその周辺をメインエリアにしたエリア人口100万に対して、地域情報や防災情報等を発信している。</p> <p>市や他の財援団体の事業の情報提供や、防災に関する情報発信を行っていることから、市の広報活動や防災活動の一端を担っており、テレビやインターネット以外の速報性の高い媒体として機能している。</p>			
<b>2. 経営状況</b>					
財務	要約	(1)出資等の状況			
		①出資・出えんの状況 <span style="float:right">[千円]</span>			
		合計額	100,000	100.0%	経過
内 訳	武蔵野市	10,000	10.0%	設立時	10,000
	武蔵野市開発公社	16,000	16.0%	設立時	10,000
				その他	6,000
	商工会議所	10,000	10.0%	設立時	10,000
	武蔵野市健康づくり事業団	7,000	7.0%	設立時	7,000
	(株)エフエム東京ほか4社	25,000	25.0%	設立時	25,000
	(株)アトレほか25社	32,000	32.0%	設立時	32,000
	その他	-	-	設立時	6,000

団体名		15. 株式会社 エフエムむさしの							
財務	要約	②補助金、委託料、貸付金の推移 [千円]							
		区分	H22		H23		H24		
		収入総額	102,691		107,682		110,807		
		委託料 <sup>16</sup>	61,193	59.6%	68,399	63.5%	70,327	63.5%	
		補助金	523	0.5%	1,404	1.3%	523	0.5%	
		貸付金	-	-	-	-	-	-	
		計	61,716	60.1%	69,803	64.8%	70,850	63.9%	
		支出総額	96,456		107,361		109,586		
		収支差額	6,235		321		1,221		
		(2) 団体の財務状況							
		①要約貸借対照表 [千円]							
		項目	H22		H23		H24		
		資産	流動資産	109,747		105,994		110,361	
			固定資産	36,032		33,816		31,161	
			資産合計	145,778		139,810		141,522	
負債	流動負債	13,127		6,838		7,329			
	固定負債	-		-		-			
純資産	132,651		132,972		134,193				
負債・純資産合計	145,778		139,810		141,522				

<sup>16</sup> 広告料含む。

団体名		15. 株式会社 エフエムむさしの																																															
財務	要約	②要約損益計算書 [千円]																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">収益</td> <td>売上高</td> <td>98,512</td> <td>104,915</td> <td>109,018</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4,179</td> <td>2,766</td> <td>1,789</td> </tr> <tr> <td>収益計</td> <td>102,691</td> <td>107,682</td> <td>110,807</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用</td> <td>売上原価</td> <td>33,382</td> <td>32,896</td> <td>30,103</td> </tr> <tr> <td>販管費</td> <td>59,623</td> <td>74,287</td> <td>77,637</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3,451</td> <td>178</td> <td>1,364</td> </tr> <tr> <td>費用計</td> <td>96,456</td> <td>107,361</td> <td>109,104</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当期純利益</td> <td>6,235</td> <td>321</td> <td>1,703</td> </tr> <tr> <td colspan="2">純資産期末残高</td> <td>132,651</td> <td>132,972</td> <td>134,193</td> </tr> </tbody> </table>				項目		H22	H23	H24	収益	売上高	98,512	104,915	109,018	その他	4,179	2,766	1,789	収益計	102,691	107,682	110,807	費用	売上原価	33,382	32,896	30,103	販管費	59,623	74,287	77,637	その他	3,451	178	1,364	費用計	96,456	107,361	109,104	当期純利益		6,235	321	1,703	純資産期末残高		132,651	132,972
項目		H22	H23	H24																																													
収益	売上高	98,512	104,915	109,018																																													
	その他	4,179	2,766	1,789																																													
	収益計	102,691	107,682	110,807																																													
費用	売上原価	33,382	32,896	30,103																																													
	販管費	59,623	74,287	77,637																																													
	その他	3,451	178	1,364																																													
	費用計	96,456	107,361	109,104																																													
当期純利益		6,235	321	1,703																																													
純資産期末残高		132,651	132,972	134,193																																													
		③有利子負債の推移 なし																																															
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入の6割超が市からの委託料及び補助金であり、市への財政的依存度が相対的に高い状況にある。</li> <li>● 売上高は、過去3年にわたり、微増を続けている。</li> <li>● 平成23年度から平成24年度にかけて、売上原価の削減を行った結果、当期純利益の金額が増加している。</li> <li>● 人件費の増加に伴い、費用総額が増加傾向にある。</li> <li>● 固定資産として、建物のほか、放送設備等を有している。</li> <li>● 流動比率は平成24年度が1,504.6%と、極めて高い値を示している。</li> <li>● 正味財産比率も極めて高く、平成24年度が94.8%と高い水準にある。</li> </ul>																																															
人事	要約	(1) 役員の状況 [人]																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">常勤役員数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>市派遣</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">非常勤役員数</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>市派遣</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>市OB</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>						H23	H24	H25	常勤役員数		1	1	1		市派遣	-	-	-	市OB	1	1	1	その他	-	-	-	非常勤役員数		8	8	7		市派遣	-	-	1	市OB	2	2	1	その他	6	6	5			
		H23	H24	H25																																													
常勤役員数		1	1	1																																													
	市派遣	-	-	-																																													
	市OB	1	1	1																																													
	その他	-	-	-																																													
非常勤役員数		8	8	7																																													
	市派遣	-	-	1																																													
	市OB	2	2	1																																													
	その他	6	6	5																																													

団体名		15. 株式会社 エフエムむさしの			
人事	要約	(2) 職員の状況 [人]			
			H23	H24	H25
		職員数	11(3)	11(3)	11(3)
	市派遣	-	-	-	
	市OB	-	-	-	
	固有	2	2	2	
	その他	9(3)	9(3)	9(3)	
		( ) 内は、うち管理職の人数			
		(3) 人件費の推移 [千円]			
			H22	H23	H24
		人件費	34,979	30,953	35,094
		なお、人件費に含めている科目は、給料手当、役員報酬、雑給、賞与、法定福利費、福利厚生費、賞与引当金繰入額である。			
	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人員数は横ばいであり、人件費は増加傾向にある。</li> <li>● 収益に対する人件費の割合は概ね安定して推移している。</li> </ul>			
その他	現況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内に難聴取地域が存在しており、対応の一つとしてサイマル放送も開始した。</li> <li>● 法人の所管が、総務部情報管理課から総合政策部秘書広報課へと移管された(平成26年4月)。</li> </ul>			
経営上の課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株式会社であり、他の組織形態と比べて、より市から財政的自立を果たすことが求められるが、市への財政依存度が高い状況にあることから、新たなスポンサーの獲得等、自主財源の獲得に努める必要がある。</li> <li>● コミュニティエフエムであるにも関わらず、難聴取地域が存在していることから、さらなる解消が課題である。</li> <li>● リスナーの属性や聴取率など事業内容の改善や成果につなげるための指標等を把握し、経営改善に役立てる必要がある。</li> <li>● 老朽化や技術革新等へ対応するための機器更新コストの負担について検討する必要がある。</li> </ul>			
<b>3. 基本方針に基づく検討</b>					
事業の分析・評価					
No.	事業名	仕分け	水準	主体	事業分類
1	放送事業	継続	要検討	現団体	自主
2	イベント事業	継続	要検討	現団体	自主



<b>団体名</b>	<b>15. 株式会社 エフエムむさしの</b>		
事業の見直しの方 向性	No.	事業名	方向性
	1	放送事業	・放送事業自体は継続するが、難聴取地域の解消に努める。
	2	イベント事業	・事業規模をあくまで現時点でできる範囲に限定して実施していることから、民間のイベント事業者との差異を明確にしつつ、その適正な事業規模を検討する。
団体の見直しの方 向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東日本大震災以後、市民の防災への関心が高まり、市政や市民情報の広報に加え、災害時の情報発信の役割が期待されていることから、当面は存続する。</li> </ul>		
<b>4. 見直し案</b>			
見直しにあたり留 意すべき事項	特になし		
見直し案	<存続> 災害時に情報発信の役割が期待されており、当面は現状のままとする。		
見直しに向けての 課題	<b>【短期的課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エフエム認知度の向上（団体）</li> <li>● 出資者の拡大並びに放送リスナー及びスポンサーの獲得（団体）</li> </ul> <b>【中長期的課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機器更新費用の負担についての検討（市・団体）</li> </ul>		



## ◆ 参 考 ◆

## 1 武蔵野市財政援助出資団体在り方検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 武蔵野市財政援助出資団体(武蔵野市財政援助出資団体指導事務要綱細則(平成8年8月1日実施)別表に定める団体をいう。以下「財援団体」という。)が担うべき役割を精査し、今後の在り方を検討することを目的として、武蔵野市財政援助出資団体在り方検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所管事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査し、又は検討し、その結果を市長に報告する。

- (1) 財援団体の経営状況並びに各種サービスの利用状況及びコストに関すること。
- (2) 財援団体の在り方の基本方針に関すること。
- (3) 各種サービスの提供主体に関すること。
- (4) 財援団体の見直し計画に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

(構成)

第3条 委員会は、別表第1に掲げる職にある者をもって構成し、市長が任命し、又は委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長は総合政策部を担任する副市長の職にある者をもって充て、副委員長は総合政策部長の職にある者をもって充てる。
- 3 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(ワーキンググループ)

第6条 委員会の補助機関として、武蔵野市財政援助出資団体(在り方検討委員会ワーキンググループ(以下「ワーキング」という。))を置く。

- 2 ワーキングは、委員会の指示する事項について調査し、その結果を委員会に報告する。
- 3 ワーキングは、別表第2左欄に掲げる職にある者をもって構成し、市長が指名する。

(設置期間)

第7条 委員会の設置期間は、第2条第4号の見直し計画の策定の日までとする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、総合政策部企画調整課が行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成24年5月10日から施行する。

この要綱は、平成24年10月1日から施行する。

別表第1（第3条関係） 略 別表第2（第6条関係） 略

## 2 策定の経過

日 時	内 容
平成24年 5月10日	武蔵野市財政援助出資団体现在り方検討委員会の設置
平成24年 5月25日	第1回委員会（第1回ワーキング） (1) 武蔵野市財政援助出資団体现在り方検討の方向性について (2) 各財援団体への調査について
平成24年 7月 5日	第2回ワーキング (1) 所管課及び団体に対する調査・ヒアリングについて (2) 検討スケジュール等について
平成24年 7月31日	第3回ワーキング (1) 事業調査シートの作成について
平成24年11月26日	第2回委員会 (1) これまでの経過及び今後の予定について (2) 財政援助出資団体調査報告書（案）について
平成24年12月	「武蔵野市財政援助出資団体の調査及び在り方に関する検討報告書」 （有限責任監査法人トーマツ）の公表
平成25年 1月16日	第3回委員会 (1) 武蔵野市財政援助出資団体調査報告書について ①報告書の内容等 ②財援団体への説明等 (2) 総務委員会（2月1日）行政報告について (3) 今後の進め方について
平成25年 7月11日	第4回委員会 (1) この間の検討経過について (2) 今後の進め方について
平成25年 9月 6日	第5回委員会 (1) 基本方針骨子（案）について (2) 団体経営層と副市長の意見交換の実施について
平成25年10月 2日	第6回委員会 (1) 基本方針（案）について
平成25年11月28日	第7回委員会 (1) 基本方針（案）について
平成26年 2月14日	第4回ワーキング

	(1) 財政援助出資団体の見直しに関する基本方針について (2) 財政援助出資団体の事業分類（受託・指定・補助・自主）について
平成 26 年 2 月	「武蔵野市財政援助出資団体の見直しに関する基本方針」の策定
平成 26 年 3 月 20 日	第 8 回委員会 (1) 「財政援助出資団体の見直し案」（検討委員会報告書たたき台）について (2) 今後の進め方について
平成 26 年 5 月 20 日	第 9 回委員会 (1) 「財政援助出資団体存続方検討委員会報告書（案）」について

### 3 武蔵野市財政援助出資団体存続方検討委員会 委員名簿

	役 職	氏 名
委 員 長	副市長	五十嵐 修 (平成 25 年 12 月 12 日～) 会田 恒司 (～平成 25 年 12 月 11 日)
副 委 員 長	総合政策部長	堀井 建次 (平成 25 年 4 月 1 日～) 小森 岳史 (～平成 25 年 3 月 31 日)
委 員	総合政策部参事	堀内 誠
委 員	総務部長	青木 稔 (平成 26 年 1 月 1 日～) 竹内 道則 (～平成 25 年 12 月 31 日)
委 員	財務部長	名古屋 友幸
委 員	市民部長	加藤 伸也
委 員	市民部市民活動担当部長	秋山 真弘 (平成 26 年 4 月 1 日～) 大杉 由加利 (～平成 25 年 12 月 31 日)
委 員	防災安全部長	山本 芳裕 (平成 25 年 4 月 1 日～) 笹井 肇 (～平成 25 年 3 月 31 日)
委 員	健康福祉部長	笹井 肇 (平成 25 年 4 月 1 日～) 三澤 和宏 (～平成 25 年 3 月 31 日)
委 員	子ども家庭部長	大杉 由加利 (平成 26 年 1 月 1 日～) 青木 稔 (～平成 25 年 12 月 31 日)
委 員	都市整備部長	恩田 秀樹 (平成 25 年 4 月 1 日～) 堀井 建次 (～平成 25 年 3 月 31 日)
委 員	教育部長	竹内 道則 (平成 26 年 1 月 1 日～) 高橋 良一 (～平成 25 年 12 月 11 日)

武蔵野市財政援助出資団体在り方検討委員会報告書

平成 26 年 5 月

作成 武蔵野市財政援助出資団体在り方検討委員会

事務局 武蔵野市 総合政策部 企画調整課

東京都武蔵野市緑町 2-2-28

電話番号：0422-60-1801

ファクス番号：0422-51-5638